

昭和十八年四月十日

部外秘

南支南洋時報

第三十號

臺灣總督府外事部



781

内閣文庫	
八四六三号	一一册
和書	



305
12

南支南洋時報

第三十號

昭和十八年四月十日
臺灣總督府外事部

目次

南支

汕頭	
油頭經濟金融概況 (十月中)	一頁
廣東	
廣東の淡水魚業	一八頁
廣東金融事情概況 (十月中)	三八頁

# 南洋

珠江デルタ地帯の農業概況……………四〇頁

海南島……………二

海口市金融事情概況（十月中）……………六一頁

佛印……………六四頁

佛印情報……………六四頁

泰國……………七五頁

最近の泰國經濟事情……………九〇頁

泰國と國民文化條令の發布……………九四頁

泰國政府機構並人員表（昭和十七年十二月現在）……………九五頁

比律賓……………九五頁

統計上より見たるフィリッピンの衛生一般……………九五頁

# 南方近況

印度……………一〇五頁

印度の資源（附錫蘭島）……………一〇五頁

濠洲……………一四四頁

ニューサウスウェルス誌……………一四四頁

香港……………一六八頁

香港經濟建設一年の成果……………一七〇頁

香港貿易協定（二—三月）……………一七〇頁

香港總督部納入金を軍票一本建に決定す……………一七〇頁

佛印……………一七〇頁

佛印の動向……………一七〇頁

佛印經濟界概観……………一七二頁

サイゴン見本市博覧會の開催……………一七三頁

泰 國

泰國中央銀行の業務開始……………一七四頁

泰國中央銀行に通貨局を移管……………一七四頁

ビルマ

ビルマ中央行政機關の全貌……………一七五頁

ビルマの財政政策……………一七八頁

ビルマの教育、保健、市政躍進……………一七九頁

ビルマ庶民銀行の設立……………一八〇頁

ラングーンに於ける新時代記念塔の建立……………一八一頁

馬 來

馬來に南方特産のデリス根を増産す……………一八一頁

馬來正金支店網完成計畫……………一八二頁

昭南島對南方郵便取扱擴大……………一八二頁

昭南軍政監部八外局の現狀……………一八三頁

昭南港壕沈敵船の引揚……………一八六頁

東 印 度

ペラワン港の復舊工事竣工……………一八六頁

ジャワ軍政の成果……………一八七頁

ジャワの森林資源確保と造植林計畫……………一九〇頁

ボルネオに於けるジュート代用樹皮の發見……………一九一頁

ジャワの麻袋自給計畫……………一九一頁

バタビヤ州及び縣の改稱……………一九二頁

比 律 賓

日用品の適正配給價格大半決定……………一九二頁

比島に於ける肥料の自給策……………一九三頁

比島棉花栽培の好調子……………一九四頁

ルソン島の棉花植付一萬四千町歩に達す……………一九四頁



# 統計

南支各地域別在留邦人口概計表（九月一日現在）……………一九六頁  
汕頭華僑送金表（五—七月）……………二〇六頁  
スマラン（パツサル市場）小賣物價表（五—九月）……………二〇六頁

# 南支

## 汕頭

### 汕頭經濟金融概況（十二月中）

#### 一 概況

二期作米及び甘藷の出廻りが極めて順調で食糧不足に對する不安は一時的現象ながら一應解消した。金融は在上海資金の取立、土産物資買付資金の放出等により數箇月間の逼迫状態より脱却して著しく緩和せられ殆んど常態に復すに至つた。即ち最近數箇月間に互り日歩三十仙以上唱へられた高金利は十仙見當に低落を見たのみならず、上海爲替も漸落して遂に等價に落付いた。華僑送金は敵地向流出防止策の強化に伴つて著減し、本月中受入額は特別圓九十三萬元に過ぎず、前月に比し備備券約二百萬元減少した。敵地物資の流入は依然活潑にして其の額は備備券千萬元と推定せられる。而して之が代金決済の方法は中國人特有の爲替操作に依るものゝ如く、其の遺り口は極めて複雑多岐、且當地區のみの地方的問題に非ざる模様で實狀を的確に把握することは困難であるが、概ね左記方法による様である。

- (一) 新舊法幣切換以前に敵地区に逃避せる資金の利用。  
(二) 皇軍占據地区(汕頭のみならず上海、厦門、廣東、香港等)或は澳門より敵地区へ流出せる物資の代金が當地区への流入物資代金に充當せられてゐること。  
(三) 在香港資産取寄せの方法として香港亦を敵地に於て舊法幣に切換へ之が身代りとして敵地区より物資の流入を圖り居ること。

(四) 敵地区商人が財産保全の手段として物資を通じ手持法幣を新法幣に切換へてゐること。  
而して(一)を除く以外の方法は結局和平地区内への儲備券増發の因となるものである。

## 二 各種通貨の流通状況

### (一) 儲備券

本月中より更に儲備券四百萬元の現送があつて銀行手持資金は稍々充實したが、未だ預金に對する支拂準備率が低きに過ぐるを以て尙相當巨額の現送を必要とする状況にあり、儲備券の市場在高は月末四千四百萬元と推定せられ、前月末に比し二百萬元の小増に過ぎず、從來の如き急激なる増勢は一應頓挫するに至つた。而して其の流通面と信用の擴大は愈々大となり、臺灣銀行の帳尻に就て見ても軍票預金の漸減と反對に逐月著しい増加を示して居る。

### (二) 舊法幣

舊法幣は前月と變動無く少額のみが流通してゐる。

### (三) 軍票

市中流通額の大部分は銀行に回収せられ、残額は四萬圓見當と推定せられる。軍票對儲備券の相場は變動なく公定相場に安定した。

## 三 商品市場の状況

### (一) 概況

土産物資の荷動きは各地高に刺激せられて相當活氣を呈したが、移入商品取引は引續き沈滞裡に推移した。唯綿絲布、落花生、落花生油、黃豆、砂糖は思惑筋の暗躍に依り需要増大し價格上騰した。

### (二) 重要商品市況

#### 1 綿絲布

十一月上旬を最高に下落するとの豫想も先高で藍風二十手一萬四千弗を唱へた。

上海地區綿絲布最高販賣價格は十一月十八日發表十二月一日より實施せられることとなつたが、上海綿絲價格は本月二十日で藍風二十手が六千四百弗を唱へ最高價格より八百弗を越して居る。因に上海綿絲布最高販

賣価格は次の如くである。

製造業者最高販賣價格

卸賣業者最高販賣價格

藍鳳二〇手	五、二六〇弗	五、五六五弗
同 四二手	一〇、六二〇弗	一一、一三〇弗
龍頭細布	一九一弗	二〇一弗

然る處汕頭に於ては在庫品少く、奥地物價急騰の時（揚陽綿絲二十手暫幣五萬四千弗と稱す）に加ふるに十月分割當無き爲、綿絲相場は斯く急騰したのである。

綿布は綿絲に比し相場も高からず現物無き晒金布の急騰を見たのみで、その價格は次の通りである。

	十一月一日	十五日	三十日
藍鳳二〇手	九、九五〇弗	一一、五〇〇弗	一四、〇〇〇弗
仙桃四二手	一五、四〇〇弗	一七、二〇〇弗	二二、〇〇〇弗
惜花女金巾	三九〇弗	四六〇弗	五三〇弗
藍菊細布	三〇〇弗	三〇五弗	三五五弗
金蓮妙舞四綾	三四〇弗	三四五弗	三五五弗

### 2 民食米

現地二期米の收穫時期でもあり、殊に本年は豐作な爲差當り汕頭市民食米の供給程度にて事足り、本月中泰米の入着なくとも次月への持越米四千袋を獲し得た。

十一月申入着泰米

十二月申入着豫想 二〇、〇〇〇袋

尙今回の泰國の洪水は穀倉と稱せられてゐるメナム河流域が被害の中心地であるのと、時期が收穫期の直前であつた爲米作に對する被害は甚大にして、次年度輸出餘力は期待薄と報せられて居るので泰米依存の汕頭としては土産米、甘藷等食糧物資の増産確保の必要が益々加はり來つたのである。

### 3 硫安、大豆粕

硫安、大豆粕は何れも不需用期で荷動きが少く、殊に大豆粕は硫安に比し甚しく割高であるので、輸移入組合では當分新規手當見合せを申合せて居り、本月中の相場は左の如くである。

市中相場	最 高	最 低
硫 安	九五〇弗	九四五弗
大豆粕	六五弗	六〇弗

4 砂 糖

本月は土産糖端境期で出廻りなく、品切れ中の内地物動糖たる本年度割當残七千袋が一舉に入荷したが、一部は輸入商の手許に保留され、今後二―三箇月の需要に引當てる事となつた。

市中相場

最高 最低

土産糖

ctb 三六〇弗 三二〇弗

5 麥 粉

奥地は土産米の出廻時期で食糧が割合に潤澤である等の事情に依り麥粉の引取りが捗々しからざる爲、油頭としては稍々荷凭れ氣味であつたが、今後の上海―油頭船腹の窮屈化を考慮して便船あり次第之を積取り貯蔵する方針である。

市中相場

最高 最低

雙袋に付

ctb 一六〇弗 一五〇弗

(三) 物 價 状 況

因に現在該地最終卸値は、百四十五弗(二十六圓十錢)である。

物價は概ね例外なく上昇した。就中騰貴率の最も顯著なのは綿絲で前月に比し更に四割方昂騰し、僅々二箇月

間で二倍以上の奔騰を示した。

斯くの如く一般物價は上昇の一途を辿つたが、餘りの物價高に實需が之に伴はず、商品の賣行は極めて不振である。

油頭市と敵地との物價を比較するに油頭市は輸入物資に於て安く土産物資に於て高く即ち次の如くである。

(單位備備券)

品名	單位	油頭市	敵地
土産米	百斤	三二二・五〇	二五〇・〇〇
牛 肉	同	一一三・〇〇	一二五・〇〇
豚 肉	同	一六〇・〇〇	三・五〇
白 糖	同	一三〇・〇〇	七・〇〇
メ リ ケ ン 粉	同	四〇・〇〇	四・〇〇
綿 糸 (二〇手)	一疋	一四、〇〇〇・〇〇	二五、〇〇〇・〇〇
綿 布	一疋	三五〇・〇〇	六五〇・〇〇
硫 安	一袋	六五〇・〇〇	一一、〇〇〇・〇〇







其	他	計
一、五三〇・五	八、四四三・五	九、九七四・〇
三	三、六二九・九	三、六二九・九
三、六二九・九	一、六九七・七	五、三二七・六
三、六二九・九	三、六二九・九	七、二五九・八
三、六二九・九	三、六二九・九	七、二五九・八

備考 綿布には毛織物、人絹織物、混織物等を含む。

重要物資輸入数量表

品名	單位	數量	積出先
米	袋(六〇公斤)	一、一〇〇	基隆
硫安	同(二〇〇公斤)	五、八〇〇	上海三、八〇〇 廈門二、〇〇〇
豆粉	枚(每枚二四・五公斤)	九、〇〇〇	上海
綿布	疋	三、四四八	同
綿絲	捆(一八八・六九公斤)	一八一	同
メリケン粉	袋(二二公斤)	九、五〇〇	同
砂糖	袋(九〇公斤)	七、七六九	基隆
石砂	噸		

品名	單位	數量	積出先
重油	立		
ガソリン	同		
燈油	同		
大豆	袋		
花生	同		
落花生	同		
煙草	二萬五千本入箱		

四五、〇〇〇 基隆

(五)

重要土産品の出廻り並に輸移出状況

和平地區消費土産物資の交流は比較的円滑に推移し特記すべき事項なく、輸出貨資の油頭への集荷状況も極めて活潑で、船腹の關係上相當巨額の滞貨があつたにも拘はらず輸移出額は儲備券千萬元に垂んとし最近に於ける最高記録を示してゐる。尙重要輸移出品及び其の仕向地別明細は次の通りである。

物資輸移出統計表

(單位儲備券)

品名	仕向地	上海	北支	厦門	日本	泰國	佛印	其他	計
證紙	一、〇八八、〇〇〇	一、〇八八、〇〇〇							一、〇八八、〇〇〇
拜紙	一、〇八八、〇〇〇	一、〇八八、〇〇〇							一、〇八八、〇〇〇
紙類	一、〇八八、〇〇〇	一、〇八八、〇〇〇							一、〇八八、〇〇〇
				10					10
					一、〇八八、〇〇〇				一、〇八八、〇〇〇
						一、〇八八、〇〇〇			一、〇八八、〇〇〇
							一、〇八八、〇〇〇		一、〇八八、〇〇〇
								一、〇八八、〇〇〇	一、〇八八、〇〇〇

計	四 緒 統 計			
	野 茶 類	陶 器 類	砂 糖 類	其 他
十月末	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇
十一月末	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇

(一) 銀行諸勘定統計表

1 預 金

十一月末残高を十月末と對比するに左の如し(別段預金を除く)。

種 別	十 月 末		十 一 月 末	
	口 数	金 額	口 数	金 額
軍 備 券	一、六八六 七九〇	六、二九一、二七六、五〇〇	一、六七〇 七九九	六、〇六一、四一八、二九〇

種 別	十 月 末	十 一 月 末
福 油 頭 市	六、一	六、一
	三、六四六、三四弗	三、七五二、二七弗

軍票勘定に於ける減少二十二萬九千餘圓の主なるものは

三菱 一七萬圓 南興公司 五萬圓

法幣勘定に於ける増加七百五十三萬餘弗の主なるものは

三菱 一七〇萬弗 福大 三〇萬弗 三五組合 六〇萬弗 横山 二〇萬弗

興業公司 一一〇萬弗 海關 一〇〇萬弗 廣東省銀行 六七萬弗

である。

2 貸 出

當座貸越	四 口	九二、六〇六、二七圓
割引手形	五 口	一一〇、一〇八、二八弗
貸付金	一五 口	一八、一五〇、〇〇圓
	一 口	八五、〇〇〇、〇〇弗
	一 口	一九五、五〇〇、〇〇圓

(1) 仕向送金

仕向地	口數	金額	送金の目的
函北	三	三六、八〇〇圓	電報局収入二萬圓、煙草代金一〇萬圓、其他國許送金
其他島内	二	二〇、四〇〇圓	國許送金
内地	四	四一、六〇〇圓	株式拂込一萬六千圓、其他國許送金
上海	三	六九、一〇〇圓	邦商利益金送金五萬圓
廈門	三	一〇、〇〇〇圓	東亞海運營業收入一〇萬圓
同	三	三〇、九〇〇圓	礦安、石油代金
同	三	三〇、九〇〇圓	營業資金
同	三	三六、六〇〇圓	軍公金三萬圓、米代金三萬五千圓、市政府職員國許送金
同	三	三六、三〇〇圓	
合計	三三	三六八、三〇〇圓	

(2) 被仕向送金

仕向地	口數	金額	送金の目的
瀋陽	一	四、五〇〇圓	博愛會探費三萬圓、其他旅費、準備送金、共榮會一萬圓
上海	一	八、二〇〇圓	
同	一	三、〇〇〇圓	
同	一	一、九〇〇圓	
同	一	九、五〇〇圓	營業資金
同	一	三、七〇〇圓	同
同	一	一八、九〇〇圓	北支向移出物資代金
同	一	二、六〇〇圓	軍公金五萬圓、買鑽金三萬圓、冷凍魚代金五萬圓
同	一	三、〇〇〇圓	準備送金
同	一	三、〇〇〇圓	準備送金
同	一	三、〇〇〇圓	準備送金、支拂資金
合計	一五	一、一五、三〇〇圓	



4 取立爲替

(1) 仕向爲替

仕向地	口數	金額	附帶貨物
上海	七	五七,二八六弗	禮拜紙、土紙、乾魚、磁器
廣東	七	三元,九〇五弗	錫、推車、陶器
同	一	五三,三六六圓	(泰佛印向) 漢藥、土紙、陶器
香港	三	七,三三六圓	鹽漬野菜、落花生、推車
海口	一	六,八四〇圓	土紙
合計	一六	一,一〇八,〇〇八弗	
同	一	五二,〇七六圓	

(2) 被仕向爲替

仕向地	口數	金額	附帶貨物
內海	七	四,二六二圓	燕窩、重油、コークス
上海	六	三,四三六圓	新聞紙
同	三	五,五八三圓	豆粕、硫安、小麥粉、煙草、綿製品、雜貨
廣東	三	七,三二二圓	電線、罐詰
廈門	三	七,三二二圓	煙紙、硫安、高粱酒、罐詰
廣東	四	六,二七五圓	化粧品、セメント
合計	三〇	三〇,一〇六圓	
同	三	六,一〇〇圓	

5

買入爲替

利付爲替手形

仕向地	口數	金額	附帶貨物
上海	五	六,二四三,七六弗	禮拜紙、土紙、乾魚、磁器
廣東	五	三,〇〇〇圓	大豆

(抽頭出張事務所)

廣 東

廣東の淡水魚業

一 魚 苗

支那で従来から養殖されて居る淡水魚類は何れも國內河川から採取されたもので、此の魚苗の生産は天候特に降雨に左右せられ、採取状況も豊凶の差甚しいものがある。鯪魚、鰱魚、大頭魚等は北は滿洲より南は泰國、安南、馬來半島一帯に及び、又支那大陸は各地を通じ養殖せられて居る。各魚とも生存に對する適應性は極めて強く、臺灣にも古くから相當數量輸入せられ、全島に互つて盛んに養殖されて居ることは周知の事實であり、之等の魚類は亞熱帯、熱帯に於ける成長度が良好であつて、養殖經營には最も有利である。

一 魚苗の産地

- (一) 揚子江 宜昌、宜都、沙市、漢口、武穴、九江、湖口、安慶、大通、蕪湖、南京、鎮江、江陰
- (二) 揚子江支流(湘水) 岳州、湘潭、昭陵潭
- (三) 韓江(汕頭) 上流
- (四) 西江(珠江の支流) ①九江、廣利、②肇慶、六都、德慶、都城、封川、③長州、桂平、貴縣、橫州、

永淳、南寧、隆安、下潯、扶南、崇善、上金

- (五) 柳江(西江支流) 百嶺

【註】◎印は魚苗産地として特に著名な所である。

二 産卵及び魚苗採取

- (一) 魚苗の種類 鯪魚、鰱魚、大頭魚、鯪魚等が主なるものである。各種魚苗生産地

- 1 揚子江 鯪魚、鰱魚、大頭魚
- 2 贛江(江西省) 鯪魚、鰱魚
- 3 西江(珠江支流) 鯪魚、鰱魚、大頭魚、鯪魚
- 4 韓江(汕頭) 鯪魚

【註】鯪魚は廣東、廣西、福建三省の特産にして揚子江方面は産出しない。

- (三) 産卵期 四月頃より八月頃迄とす。
- (四) 産卵場所

産卵場所と目されてゐる所は揚子江方面に在つては洞庭湖、九江より四川省萬縣及び巴縣、湘水に於ては常



寧縣、柏坊附近、江西省贛水では贛州附近、西江では封州、桂平、百額、瓦塘、大灘、南寧、百邑、崇善、上金及び龍川地方であると稱せられてゐる。之等の場合は何れも河幅廣く、水深十五尺以上あり（淺き所は産卵せず）、魚卵は産卵後一、二日で孵化する様である。又産卵場所より下流に於て魚卵を發見した事實のない點より考察すれば卵は水流に押流されながら孵化するものであると推察せられる。而して産卵及び孵化の條件と認められるものは

- 1 雨期河川の水位が平水時より五尺乃至八尺程度増水し
- 2 水温二十八度前後に上昇し
- 3 流速毎秒一米乃至一・七米位となり
- 4 河水は黄色泥土の微粒を含む濁流となり
- 5 河床一帯は長き石灘あり、底質石砂性にして泥土少き所
- 6 河川合流點を附近上流に有する場所なること

(五) 魚苗採取

- 1 廣東地方に於ける魚苗採取器具

魚苗採取網には①麻絲又は綿絲製と②竹製の二種があり附表一の通りであるが、網は口徑五尺八寸、長さ十一尺四寸位の袋網にして、網尻に長さ三尺二寸、幅七寸、深き六寸五分位の魚採網があつて、魚採網の網口には返しを付け、一寸五分角位の杉枝を組み浮きとして居る。網目は普通二分目位である。竹製の網は口徑二十七尺、長さ十二尺、魚採網口七寸位の圓錐形に編み、先端に長さ二尺四寸、幅九寸、深さ八寸の二分目魚採網を付けて居る。

2 魚苗採取の時期

廣東地方に於ける魚苗採取は清明節（四月初旬）より立秋（八月初旬）の間に行はれる。清明節とは支那人間に於て祖先の墓祭を爲す期日にして一名祖媽祭とも稱して居る。

3 魚苗採取状況並に場所

魚苗採取の時期は降雨期であるので、採取場所一帯は増水して居る。魚採網設置の場所は河岸より三間乃至五間を距てた河中にあり、平水時は水深十五尺内外であるが、採取時期は二十五尺乃至三十尺位に増水し、流速は毎時三・五軒乃至五軒内外に達する。採取の場所は之を魚埭と稱し毎年多少の異動があるが、大體に於て地域が一定し、業者相互間に一種の獨占權の如きものが認められて居る。採取場所附近の河川底質は概ね砂土質であつて、河岸の屈曲少き場所である。

尙魚埒位置の選定、築造及び採取魚苗の鑑別等は専ら師傳と稱する専門家で之を行ひ、業者中最も重要な地位を占める者であるが、魚埒は網口を上流に向け、一魚埒十五網位を連結して定置して居り、大體一時間隔きに一回位の割合で魚採網終點部の集網中より魚苗を掬ひ取る事になつて居る。

三 魚苗の蓄養

採取された魚苗の一部は魚埒に於て直ちに取引されるものもあり、一應撰別池に入れ師傳に依り魚種別に撰別して後一定期間中魚種別に蓄養してから販賣せられるものもある。

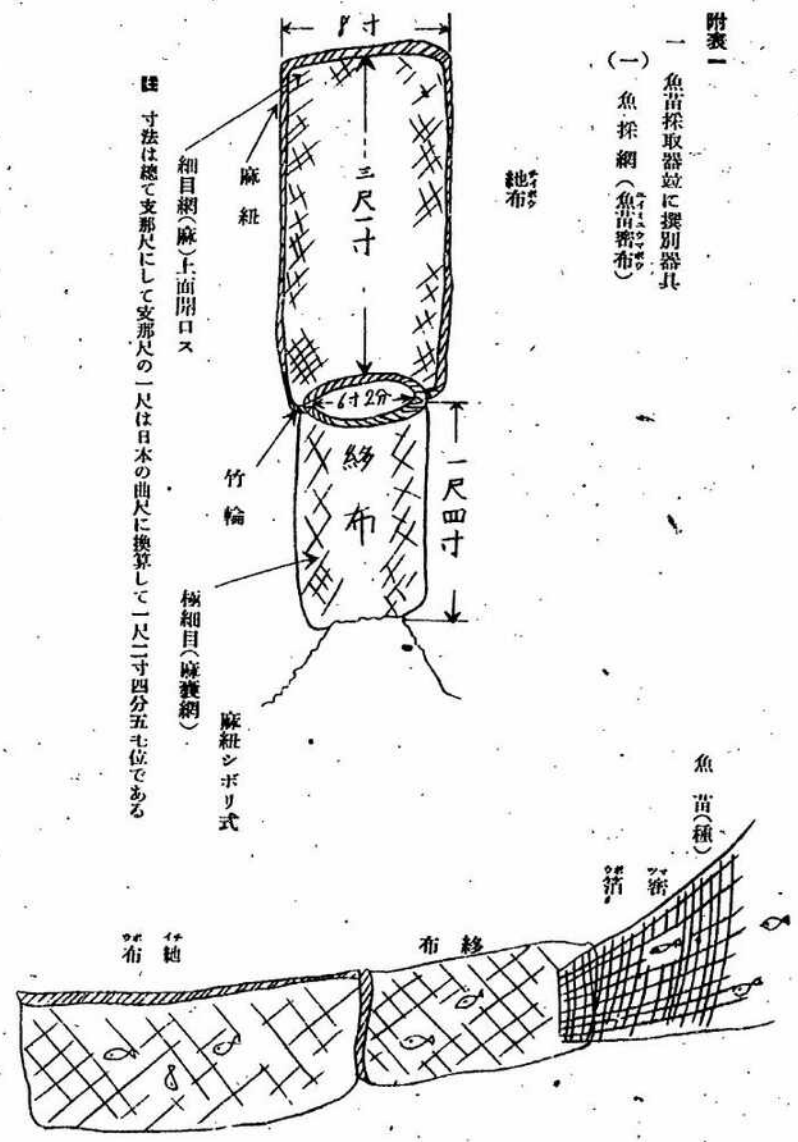
撰別池は面積約四毛、水深五尺位で構造は大體蓄養池と同様である。元來採取當時の魚苗は孵化直後の微細な稚魚であり、魚種鑑別も極めて困難であるから、普通撰別池に二、三日蓄養した後師傳の手に依り魚種別に分類される。斯様に分類されて後直ちに養殖者又は魚苗仲買商へ販賣せられるものもあり、買手のないときは一應蓄養池に放養して機を見て魚苗市場に上市されるものもある。

四 蓄養池

魚苗の蓄養池は大體蓄養池と構造同一であつて、蓄養池を魚苗蓄養池に代用するものもある。蓄養池の構造は池の周邊を板又は煉瓦、石等で土止めを爲し、堤防の下部に徑六寸乃至一尺位の土管を入れて排水口を設けて

附表一

- 一 魚苗採取器竝に撰別器具
- (一) 魚採網 (魚苗蓄布)



(二)

探別器具

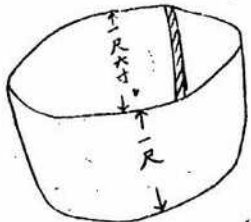
1 探別皿 (魚罌)

直径五寸乃至七寸の白盆で、底廣く浅く、計數に用ひる。

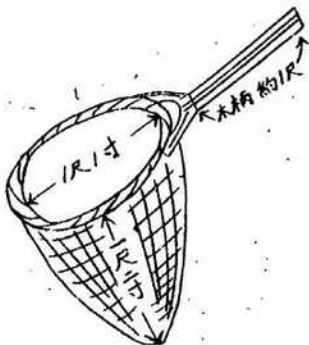
2 探別篩

魚篩と稱し、材料は竹又は藤を用ひ、大小の區分に使用する。

魚篩 (篩) 魚 (魚)



魚 篩



(三)

魚苗採取時期

穀雨 (四月下旬) 清明の頃より少量乍ら採取せられ、立夏 (五月上旬) を中心として前後十日間最も盛んに行はれる。清明の頃採取せられる魚苗は發眼期のもにして立夏頃は概ね六朝程度とある。

居る。此の排水口は竇と稱し一池一箇を普通とする。池の水深は八尺乃至九尺で、中央部が稍々凹となり、常時水深を五尺位として居る。面積は一般に三畝内外のものが多い。

蓄養池に魚苗の放養を行ふ時は先づ足踏車で費に依り排水し、水深を一尺位に減水した後、三畝に茶粕二百斤位を投入して害魚蟲を驅除し、約一週間位経過してから池水を漲らし、八十匁位の大頭魚を三畝につき百尾位の割合にて放養し、約一週間を経て大頭魚を取揚げて後魚苗を放養する。魚苗放養前に大頭魚を放養するのは大頭魚が水面を跳廻る性質があるので、池水の循環と水中の溶解酸素を大ならしめて池水の清浄を圖る爲である。

魚苗の放養は蓄養池毎に魚種別に放養するのが普通とするが稀には混養するものもあり、蓄養池の放養率は大要左表の如くである。

魚種	蓄養地面積	放養尾數	摘	要
鰻魚	三畝に付	一〇萬尾	廣東に於ける一畝は日本の二百四十四坪に相當する。	
大頭魚	同	七萬尾		
皖魚	同	一〇萬尾		
鯪魚	同	四〇萬尾		



〔註〕 蓄水池に魚苗放棄中は殆んど池水の注排を爲さず。  
五 魚苗輸移出先

廣東周邊産出の魚苗は従来から一部分は現地で養殖し残りの大部分は臺灣及び汕頭方面に輸移出されて居たもので、事變前はマレー方面へも年間二百萬尾程度の輸出を行つて居たとの事である。將來同方面への定期航路開設を見た時は再び輸出せられるものであると認められる。

尙海南島警備府に於ては島内池沼に淡水魚の養殖を企圖し昭和十七年十二月初旬山口技師を廣東に派遣して魚苗に關する調査を爲さしむると共に試験用として本年一月末頃迄に魚苗十五萬尾の輸入方を日本水産株式會社廣東出張所に依頼した事實があり、試験成績の結果が良好であれば引續き相當の輸入を行ふものと推察される。

六 其の他  
其の他臺灣向魚苗があり、廣東、基隆間定期船輸送費は大略次表の通りである。

廣東—基隆間定期船魚苗輸送費調査表 (昭和十七年十一月三十日現在)

費	日	金額	摘	要
---	---	----	---	---

一桶(平均四萬尾) 黃埔迄の運賃曳船一荷船二、四〇〇圓(一〇桶積として)	四〇〇〇	輸送の實際は六乃至九桶
東亞海運出荷係手数料(一桶)	一〇〇〇	
黃埔、基隆間船費(一桶)	九〇〇〇	
定期船船員一同の心付(一桶)	五〇〇〇	
一桶に對し船務者二人分往復船賃	一〇八〇〇	三等一人片道二七圓
船務者二人の廣東宿泊料五日分	三〇〇〇	
一桶に對する水代其の他雜費	五〇〇〇	
合計 (一桶分)	三七八〇〇	一萬尾に付九四四五〇圓



附表二 中國曆二十四節と魚苗採集關係表

季節別	摘	要	季節別	摘	要
一 立春 (二月初旬)		舊魚取引終り 十年に一度位此の頃より新魚採集開始 此の時期より例年商取引開始 此の期魚苗採集最も盛んなり	一三 立秋 (八月初旬)	魚苗採集期	
二 雨水 (二月下旬)			一四 留暑 (八月下旬)	魚苗採集終期	
三 驚蟄 (三月初旬)			一五 白露 (九月初旬)		
四 春分 (三月下旬)			一六 秋分 (九月下旬)		
五 清明 (四月初旬)			一七 寒露 (十月初旬)	舊魚取引開始	
六 穀雨 (四月下旬)			一八 霜降 (十月下旬)		
七 立夏 (五月初旬)			一九 立冬 (十一月初旬)		
八 小滿 (五月下旬)			二〇 小雪 (十一月下旬)		
九 芒種 (六月初旬)			二一 大雪 (十二月初旬)		
一〇 夏至 (六月下旬)			二二 冬至 (十二月下旬)		
一一 小暑 (七月初旬)	魚苗採集期		二三 小寒 (一月初旬)		
一二 大暑 (七月下旬)			二四 大寒 (一月下旬)		

二 養魚概況

廣東を中心とする周辺には非常に池沼が多く、養魚事業が盛んに行はれて居る。之等の池沼から産出した淡水魚は約一千万に人近い住民の需要を充たして居る。

一 養魚池沼の構造

池沼の構造は一般に不規則で圓形、楕圓形、長方形等種々雑多であつて、特別に築堤して造つたものは極めて稀で單に土を掘下げて水を貯溜したものが多し。中には地盤の軟弱箇所を石材又は木材を用ひて土止めしたものなるものはなし。池の面積は普通三〇〇坪乃至三、〇〇〇坪位の範圍で、深さは五尺乃至六尺を普通として居るが、雨期(一月から八月)には六尺乃至七尺位に増水し、乾燥期(九月から十二月)には四尺乃至五尺位に減水する。

池沼の水源は大部分雨水に依存して居るが、中には河川、溝渠の水を引入れるものも若干ある。之等は木造又は石造の口徑一尺四方位の門を水溝又は池と池との間に土堤の底部に設置して居る。

換水は水源を雨水に仰ぐものは排水せざるを普通とするが、臨時排水を必要とする場合には足踏車を用ひて排水する。

二 放 養

養殖魚苗の放養準備は一般に九月から翌年三月にかけて行はれる。其の方法は養成魚は取揚げ終了後池水を足踏車を使用して水深一尺程度に排水し、一畝半に約五〇斤位の割合で茶粕を投入する。時としては排水を行はずに茶粕投入を行ふ場合もあるが、斯かる場合には効果不十分を免れない。茶粕の投入は普通放魚期日の七日乃至十日前に行つて居る。是は茶粕からサンボニンと稱する毒素が発生して池中の寄魚を駆除し、池泥中のリングビヤ発生を助長する肥料となるには晴天に在つては五日間、雨天の際は約七日間にして始めて目的を達し分解消滅するからである。養殖魚苗放養の時期は大體準備時期より一週間乃至二週間位遅れるに過ぎない。放養の際に於ける魚苗の體長は一吋五分乃至五吋位迄のものであるが、遠隔地の仕入者（臺灣又は汕頭の如き地方）は輸送の関係から一寸五分乃至二寸程度のものを歓迎して居る。

一畝當りの放養尾数は普通六〇〇尾から七〇〇尾（坪三尾）位である。

【註】 廣東に於ける一畝の面積は、二百四十歩で一步は日本の曲尺で約六尺二寸平方であるから略日本の一坪に相當する。従つて一畝と謂ふ時は日本の二百四十四坪と見て大差ない。

三 餌肥料及び成長率

餌肥料投與の量は放養尾數、池沼の面積、索餌状況等に依り一定せざるも餌肥料の種類及び投與割合は大要次の如くである。

- 人糞、豚牛糞 五〇%
- 豆粕、落花生粕 一〇%
- 草 類 一五%
- 蛹 二五%

一畝當りの投餌費用は四月乃至七月頃の雨量多き時期に在つては一月平均四〇錢乃至七〇錢、八月乃至十一月の間は乾燥期にして一日平均三〇錢位を要するが、冬期及び魚小なるときは別に投餌しない。養殖の期間は六箇月乃至一箇年を普通として居り、其の成長割合は大略左表の通りである。

魚種	放養開始期(十月)	越冬末期(三月)	取揚期(十月)
鯉魚	二寸	四寸—五寸	二尺位 五斤内外
鰱魚	二寸	同	一尺七寸—二尺 二斤乃至三斤位
大頭魚	二寸	同	一尺七寸—二尺 二斤乃至三斤位

冬期は成長悪しき爲普通十月頃から二月頃にかけて取揚げ賣出して居るが、市場に於て販賣されて居る平均體型は

鯰魚 體長 二尺乃至三尺 體重 二斤乃至三斤  
 鰻魚 體長 二尺乃至二尺五寸 體重 一斤半乃至二斤  
 大鯪魚 體長 二尺乃至三尺 體重 二斤乃至三斤  
 鯪魚 體長 一尺内外 體重 八〇内外

である。

次に放養に對する取揚歩當りは場所的或は天候の關係に依り多小の相違はあるが大體左表の通りである。

取揚歩當調査表

魚種	放養期間	歩留率	摘要
鯰魚	六ヶ月乃至一ヶ年	六〇%	
鰻魚		九〇—一〇〇%	
大鯪魚		九〇%	
鯪魚		八〇%	

#### 四 廣東附近の養魚狀況

廣東附近に於ける養殖淡水魚に就いては何等の文献もなく的確な生産數量や養魚池沼の面積等明かでないが、

一般に汕頭及び臺灣を合計したものと略々同様だと謂はれて居る。此の事實は廣東附近に池沼が多い事と約一千萬人近い住民の常食に供する魚肉が養殖淡水魚に依つて賄はれて居ることで充分證明出来るであらう。

#### 三 魚欄業概況

廣東人は淡水魚を嗜食し、鹽水魚類は鹽干物としては嗜好するが、冷凍された生のは一般に食用に供しない慣習がある。従つて廣東附近一帶は従來から淡水魚の養殖が盛んに行はれ、住民食用魚肉の大部分（一部は河川より捕獲したもの）を供給して居り、之が取引も魚欄と稱する廣東特有の魚問屋の手を経て市場に賣出され、其の水揚數量、金額等も莫大な額に達し營業繁榮を極めて居た。

#### 一 魚欄の本質

廣東の魚欄は内地に於ける魚問屋、臺灣の魚行に似たものであるが、自ら買付又は委託販賣を爲さざる點に於て前二者と根本的に相違して居る。

魚欄の本質は荷主と小賣人との間に介在して一切の商取引の便宜を供與し手数料を受けるもので、總て生きた淡水魚を取扱ひの對照とし、鹽水魚類は一切取扱はない。又魚欄は通常數軒聯合して商取引上最も便利な場所を選び營業所を設けて居り、其の場所は全く私設淡水魚卸市場と異なる所がない。

#### 二 事變後に於ける魚欄業

事變前廣東市内に於ける魚欄業者は約十六軒あり、之が三箇所に分れて營業所を設け、一日平均全市約二十餘萬斤の淡水魚を水揚げして居たと謂はれてゐる。

事變後は昭和十六年末迄珠江の海珠新堤先及び西堤の二箇所に於て共同組（日本人商社、社長岡本磯太郎）、黄沙碼頭先に於て一箇所（日本人永井某名義）が、南支那の許可を受けて中國人魚欄業者を統括して營業を爲して居たが、昭和十五年七月以降廣東魚市場内にも淡水魚市場が開設せられ、聯合の名稱で事變前と同様な組織慣習に依り魚欄の設置があつた。次いで昭和十六年末に至つて遂に共同組織の魚欄二箇所は全部魚市場内魚欄に統合せられたが、黄沙の魚欄（永井某個人許可名義）は依然として存置され、形式上は魚市場魚欄組合員に加入して居るが營業は別個に行はれ統制の埒外にある。

廣東魚市場内に於ける魚欄は現在何漢、宏利、聯合、公益の四業者が合同して淡水魚市場を形成して居るが、昭和十六年度及び昭和十七年一月より十一月迄の月別賣上高は別紙附表一、二の通である。

〔註〕廣東魚市場は河南海珠橋南畔に在り、日本水産、林業商店、水垣商店、落澤水産の共同出資に依り百萬圓の資金を以て廣東市内水産物統制を目的として昭和十五年春設立され、事變後の荒廢家屋跡に現在の新たな施設を爲したものである。

### 三 魚欄の業務

廣東に於ては養殖淡水魚の取引は古來から總て魚欄の手を経て行はれて居たが、魚欄取扱ひの淡水魚は何れも生きたものであつて、例外として死魚を取扱ふ事もある。而して死魚は僅少で價格も生魚の半額位の相場である。それ故魚欄は何れも多數の生洲舟又は生洲籠を設備して生魚の取扱ひに備へて居り、何時でも荷主（又は生産者）の申出に應じ無償で之を貸與することになつて居る。

取引は原則として現金取引であるが、信用ある仲買人又は小賣人に對しては魚欄に於て荷主に支拂ふべき代金の全部又は一部を一時立替拂ひすることもある。

魚欄の収入は仲介手数料として荷主より取引價格の三分を徴收して居る。之は古來より行はれて來た取引慣習である。従つて仲買人の買受價格は實際の取引價格に荷主が魚欄に支拂ふべき三分の仲介料を加算した金額となる。

而して現在廣東市場内に於ける魚欄の取引行情を見るに、市場内四魚欄業者が協議の上毎日の魚價を立値して仲買人に賣渡して居り、立値の決定に當つては市況及び魚の出廻り状況を考慮し、之に廣州市入市税（市政府課税價格の四分四厘）、魚欄仲介手数料（取引價格の三分）、廣東魚市場組合費（取引價格の一部）、其の他諸経費一切を加算して定めるものではあるが、右四魚欄に於て或程度の價格操作を爲し得る實狀にある。

魚欄市場は一箇年を通じ毎日午前七時より同九時迄及び午前十一時より午後一時迄の二回開かれて居る。尚仲



買人は直接魚欄から購入するのが本則であるが、各自販賣の都合に依り魚欄開場時間外に淡水魚買入の必要を生じたときは魚欄の下にある打貸と稱する業者より臨時購入する場合もある。

〔註一〕 生洲船は通常長さ七〇尺、幅九尺位のもので、船側、船底に無数の小穴を穿つて水の交流を圖り、此の内に淡水生魚を放棄してゐる。輸送の場合には其の儘親船で曳船する。

〔註二〕 生洲船は口徑一尺乃至二尺、深さ一尺乃至五尺、底徑二尺乃至二尺五寸大の竹製のもので、此の中に淡水魚を放ち、河水中に吊下げ置くものである。

〔註三〕 打貸とは魚欄開場時間中の賣残りの品のあつた場合、之を魚欄より買受け置き、開場時間外に買付けに来る仲買人に賣渡すもので、打貸が魚欄より賣残り魚類を買受ける場合は魚欄の仲介料三分を切下げて之を買受け、其の日の相場に依り仲買人に賣渡し若干の利を獲得し居るものである。

〔註四〕 荷主から仲買人に魚類の渡る迄は荷主原價に一定程度の諸手数料を加算した値段であるが、仲買人から小賣人渡しの場合は魚欄取引相場の二乃至三倍位の高値となる。之は生魚の斃死割合が逐日増加することに因るものと認められる。

四 廣東魚市場内淡水魚市場組織



五 魚類と産地

廣東で取引される淡水魚の種類は鯪魚、大頭魚、鰱魚、鯪魚等が大部分で外に鯉生魚、鯽魚、塘虱魚、則魚、雜魚等も若干ある。之等の淡水魚が廣東に搬入された場合一部は生産者から直接消費者に賣渡されるものもあるが大部分は魚欄の手を経て市場に出されて居る。

廣東市で消費される淡水魚の大部分を占める養殖魚の産地は順德縣（岳步、勒流、容奇、樂徒）、南海縣（官山、瀾石、沙頭、佛山、九江）、新會縣江門地方を主とし、東莞方面からも多少産出する。尙右主要産地中最も産出高の多いのは南海縣九江地方で他は九江方面産出物を仲繼するものが多い。

〔註〕 九江方面から廣東に搬入される淡水魚の主要輸入路は九江—勒流—廣東、或は九江—瀾石—廣東の二線で輸送は普通主として生洲船に依つて居るが九江—瀾石間はトラック輸送である。



附表一 廣東魚市場淡水魚取扱高一覽表

(昭和十六年分)(單票單位)

月別	數量	金額	備考
一月	二四二、〇九九	八一、三七三・六八	價格は卸値なり。 魚種は大頭魚、鯉魚、鯽魚、鯪魚大部分を占め其の他鱈魚、雜魚若干あり。
二月	一三三、四八九	五一、五四六・七四	
三月	一八五、一五九	七二、六八八・二三	
四月	二四五、三一六	一〇二、六四七・四六	
五月	一五六、四七一	五九、九六一・〇七	
六月	二二一、七二五	八二、八三四・七二	
七月	五〇、二五二	二〇、九七五・三三	
八月	五二、九九三	二一、五六七・五九	
九月	五四〇、七一八	二〇七、六一九・八三	
十月	七二七、八四六	二七一、五九六・五三	
十一月	七四四、二六二	三〇六、八六〇・四五	
十二月	二、二七六、一八〇	九一四、〇七二・二六	
合計	五、五六六、三三八	二、一九三、七四三・六九	

備考 廣東に於ては魚市場の外に黃沙碼頭先に一箇所淡水魚取扱市場あり。其の他魚市場の手を握りて生産者より直接市内需要者に販賣せらるるものもあるを以て本表記載數字は廣東市内總消費量の約六割程度のもものと認めらる。

附表二 廣東魚市場淡水魚取扱高一覽表

(昭和十七年一月—十一月)(單票單位)

月別	數量	金額	備考
一月	二、二八九、四五四	七五五、九二七・七七	價格は卸値なり。 魚種は大頭魚、鯉魚、鯽魚、鯪魚大部分を占め其の他鱈魚、雜魚若干あり。 七月以降大洪水の爲養殖魚八割方逃走し價格急騰す。 價格騰貴の爲敵地限より若干入荷あり。
二月	一、四〇二、九七六	四二二、九七六・〇〇	
三月	一、五〇二、四三三	三九二、〇〇四・五〇	
四月	一、二六三、八六三	三二七、二八五・三八	
五月	一、一四〇、五二七	三〇三、九〇一・〇二	
六月	九三一、七〇六	二八三、一七九・二九	
七月	一、〇一四、三三四	三五七、〇〇六・五九	
八月	七三八、七八九	三〇九、七七五・〇〇	
九月	九五二、三三四	三六七、〇八五・一五	
十月	九八二、九〇〇	四二二、九六一・一七	
十一月	一、一三一、〇三七	五六四、〇三五・四七	

十二月		
計	一三、三四九、三四二、四八	四、五〇六、一三七、三四
合		

備考 廣東市に於ては魚市場の外に黃沙碼頭先に一箇所淡水魚私設市場あり、其の他魚市場の手を握りして生産者より直接市内需要者に販賣せらるゝものあるを以て本表記載數字は廣東市内總消費量の約六割程度のもものと認めらる。

### 廣東金融事情概況 (十月中)

#### 一 一般概況

本月は土産物資の産地高と滞貨増加のため輸移出筋の買付手控へに依つて出廻りが稍々停頓状態に陥つたが、當月中の輸移出筋は五百萬圓に上り却つて先月に比し著しい増勢を示してゐる。然し乍ら船腹不足の爲北支、中支向滞貨は尙累積して業者中には金融の窮乏を訴ふる者が相當あり、輸移入品は小麦粉を除いては入荷減少し、在庫薄の上に奥地物資との交換用に相當實需があつた模様で、遂に華人筋の思惑買入氣を誘發して綿絲布の如きは倍方暴騰して正常商内を阻害した。

#### 二 通貨事情

儲備券は漸次小賣部門に喰入りつゝあるが、小額補助貨幣の少い爲釣銭には軍票の介在を要し、又中間配給業者對華商の決済は概ね儲備券で行はれてゐるが、對輸移入筋の決済には軍票が主である爲、切替作用は依然頻繁であり、預金増加の趨勢は尙緩慢である。従つて流通面を擴大提進する當面の根本課題は大商社の積極的協力と所要小額補助貨幣の放出にあると思料せられる。

#### 三 商品市況

- (1) 生絲——第七回作の出來榮は上乘であるが、産地高(一擔法幣二萬元軍票に換算して約一千七百圓見當)に依り出廻りが僅々五、六百俵に過ぎず、相場は上等品一千八百五十圓、中等品一千五百五十圓を唱へた。然し佛印向輸出品は尙逆相の爲商内は僅かに二、三百俵見當である。
- (2) 米——二期米の出廻りを控へて泰米の賣出もあり、相場は先月末に比し一割方低落した。
- (3) 雜糧——小麦粉は月中四萬袋の配給があつて、市中値は二十六圓乃至二十八圓を推移し、配給値の二十八圓三十二錢を下廻つてゐる。落花生實、雜豆類は産地高を移し何れも上昇して荷動きは活發でなかつた。
- (4) 綿絲布——九月分割當は未だ入荷を見ない爲、配給量は抑制せられ、其の上奥地向實需が旺盛であるので、華商思惑筋の買廻りに依つて市價は暴騰をし、綿絲二十番手三千四百圓、キヤラコ一反百三十圓を稱へ、尙先行情が頗る強調を示して居る。

- (5) 水産——日本より新品入荷なく、僅かに澳門方面より鹽魚の搬入があつたのみで一般に荷薄のために相場は強調を呈した。
- (6) 砂糖——商内閑散で市價保合裡に越月した。
- (7) 煙草——廣東地域の月消費推定量は約三千箱（二萬五千本入）であるのに對し、最近中支よりの移入割當量は二千箱より一千箱に制限された模様で、不足分は東亞系現地製品に依り之を補ふ外なく、供給不足のため市價は配給元の抑制あつたにも拘らず上昇の途を辿つた。

（廣州銀行）

### 珠江デルタ地帯の農業概況

#### 一 デルタ農村の情趣

##### (一) 沙田の形成

珠江デルタ地帯は周知の如く東江、西江、北江の上流から運至された土砂の沖積に由つて出来たもので、土質は中性乃至微酸性の壤土が多く、極度の粘質を帯びた所も處々に見受けられ、又部分的に砂質のものもある。而して此の大自然力に依る土砂の沖積が一年間どれ程行はれてゐるかは興味ある點であるが、臺灣濁水溪の流域程ではなく、約四分乃至五分位であるかと推定され、河川の流勢により不整形に或は大きく或は小さく浮覆

し、周圍に土堤を造築して沙田としてゐる。又萬頃沙の如き積極的に遠方から石を運んで堤防を築き、初期は石垣魚場とし、沖積が或程度出来れば三角崗を栽培し、數年後米作に及ぶものもある。此の方法の行はれてゐる所は主に潮海の地であつて、前後三十餘年を要するといふ。

##### (二) 農村の情緒

デルタの土堤には小屋が所々に建てられ、湖の満ちた時は浮島の如くに點在し、又干潮時には皆々と茂つた稻田を縛るが如く縫ふクリークに帆船が悠暢に通ふところはデルタ農村の特有の情緒そのまゝの匂ひが感覺される。

而して一旦農村部落に足を入れて見れば、六十度の傾斜に葺いた葦屋根さへも重いばかりに竹又は杉丸太の支柱は腐りかけて壁は朽ち骨を顯してゐる。室内は温め／＼として粗末な食卓と巾三寸位の長腰掛と板煙臺の外に日星の調度もない。放飼の豚がのこ／＼闖入するかと思ふと隣の中が倒れかゝつた小屋に力を入れて揺振つてゐる。農繁期の三食を除き、平素二食、然も朝粥食といふ最低生活を餘儀無くしてゐる。之等の農民には政權が注精衛であらうと蔣介石であらうと構ふたことではない。大東亞戦争のことを訊けば「唔知道」の一句に終つてゐる。

##### (三) 三つの恐怖

彼等の斯うした愚鈍と謂はるか純朴と謂はるか實に悠暢な生活を極ますものは天候、匪賊、地主である。天候の不順に因る干、水、風害は飢饉と一家離散に導くことが屢々である。凶作の際小作料の不足を耕牛又は子女の賣金に依つて償ひ、或は對地主の高利負債と化して末代迄の桎梏から脱し得ない破目となつてゐる。此の點については天災として諦めが早く、天公の惡戯さへ無くば地主も大きい存在ではないのであるが、神出鬼没の匪賊が日夜枕を高くして休む間を與へないのである。平時は牛、豚、家禽を獲つて行き、收穫期には乾燥の濟むのを待つて親を掠めて行く不供滅天の仇以上な輩の跋扈に委せてゐる。

此の外不良官員の非法的徵稅、土豪の強食弱肉等放擧に遑がなく、何の因縁か支那農村に生を享く彼等に一掬の情を惜しまぬものがある。

#### (四) 宗 教

彼等は概ね佛教を信仰し、神佛同視である。各農戸に「福德正神」の四字を赤紙に書き、又は手頭な石を土間に安置し朝夕燒香してゐる。凡そ百乃至二百戸の集團村落には廟があつて玉帝觀音を主祭神としてゐる。地方によつては昔の英雄であつた關羽を祠り、俗に關公又は關帝爺と稱して舊曆の一日及び十五日に敬心深い村民が參つてゐる。キリスト教は比較的少く五千人位の町でないとは禮拜堂を見ない。

所詮佛もキリストも現世に於ける無事平安と疾病の快癒を祈念する外に死後此の世への好い再生を願ふ對象で

ある。偶々占卜の具として佛前での占をなすこともあり、遠路、外行或は播種の日取り迄一々神籤に靠る篤信者もある。

#### (五) 教育の程度

支那農村の教育程度は固より低く、新聞を讀み得るのが約一割であると謂はれてゐるが、デルタ農村のそれは一割以下だと推定され、只大きい町に縣立の小學校があるのみであつて、其の他は凡て書館と云ふ寺小屋の様な設備しかないのである。従つて教へる先生は就學兒童が之を養つてゐる形になつて居り、此の點父兄の負擔が甚だ重く、その爲に就學率が低いのかそれとも逆であるか明かでないが、兎に角裕かでない爲子弟の教育が意のままにならず、自然少數の兒童を就學せしめる結果父兄の負擔が重くなると云ふことになる。番禺縣第一區(新造管内)の勝洲郷(村)には總人口七百三十人あるのに對し就學兒童が僅かに二十五人である。之は就學適齡兒童の約十二%にしか當つてゐないが、稍々高率の方である。又市橋近郊の滄流沙及び東莞縣太平墟區内の調査では何れも一割以下であつた。普通六歳から就學せしめ、修學年数は最長六、七年、最短一年とし、三、四年が最も多い様である。

費用に就いて見るに毎月白米三—五斤(一斤車票四十五錢位)の外に舊法幣一元乃至二元が多く、滄流沙の一年に付銀五十斤(百斤二十八回位)が最も低廉である。太平墟西北部の西大坦は一年に付百五十斤の粳と白



米三十斤を數回に分けて先生の月謝としてゐるのが最高で月約五圓の負擔である。教科は縣立小學校に於ては近代的百科目を授けてゐるが、書簡では舊式の棒暗記に依つて三字經、四書、尺牘(書簡文)を教へてゐるに過ぎない。

(六) 治安警備狀態

皇軍の駐屯してゐない要所々々には新編成の和平中立軍が警備の任に當つてゐるが、地方村落に於ては聯防隊を組織し、隊員は殆ど當該村落の壯丁がなつてゐる。二、三軒置きのクリーク出入口に設けられた砲臺には約十名乃至二十名の人員を以て見張と巡察を行つてゐる。兵器は主に小銃と左輪(連根式)モーゼル拳銃である。この聯防隊長には土豪たる各村の有力者が就任してゐるが、所要經費として支敵當(二六〇・四坪)年四斤の靚(新造附近)を徴收してゐる。市橋方面は九斤徴收して居り、太平墟内では軍票三圓である。斯様な組織下に於ける聯防隊間の磨擦は皇軍の指揮と聯防隊長の相互連絡に因つて平穩に保たれてゐるが、他地方からの未歸順匪賊の來襲は依然隨所に惹起されてゐる。中には市橋地方の如く歸順土匪である李輔群が聯防隊司令として數千の配下を擁し、該地一帯の武力を確保しながら經濟方面にも根強い勢力を張つて、彼の恣にリードして大小地主が齊しく息を伺ふのもある。

而して郷長、村長は夫々郷村の長老格がなつて居り、税の徴收以外に郷村中の紛争、軋機を調停裁決するに止

まり、稍々影の薄い存在である。郷村の行政に對しては何等の考慮もなく、戸數人口さへも充分な統計を有しないのに驚くのである。

二 稻作の狀況

(一) 品 種

高田地帯の品種は相當の數に上つてゐるが、デルタ地帯は次の通り大別される。

第一期作 (早造) 梗——新興白 (園田白とも云ふ)

第二期作 (晩造) 梗——金鳳雪 (雪谷、金鳳又は金鳳とも云ふ)

稻——大福米 (大白稻とも云ひ臺灣の鷓鴣米と同型)

第一期作の新興白は四月上旬(清明節)に播種し、生育日數は百十日位の品種にして稈長二尺七、八寸である。第二期作の金鳳雪は新興白の播種後五日乃至十二日を経て播種し、十一月末頃に漸く收穫し得る品種にして、九月二十四日(舊の八月十五日)は草丈が四尺五寸程伸長してをり分蘗期を過ぎてゐた。此の頃辛うじて母體に穂の形成を認め得る程度で一見芽に似てゐる。茲に日本種稻と比較して見るに穂の形成が地上一尺餘の點に行はれ、従つて出穂後に於ける稈長の伸度が小にして臺灣在來種と同様に分蘗力強く地上節間の有效分蘗が多いのが特徴とされる。

之の兩期品種とも形態上印度系に近く、稈長く割に穂長が短かく約五寸前後にして、着粒も非常に粗である。殊に第二期作の金風等は前述の如く彼岸の頃穂が形成される際はホトベリオチズムから觀て短日性に屬し且つ敏感であることが想定される。

(二) 播種

1 播種量

支敵當兩期各品種とも五斤の割にして坪一升位の厚播である。

2 播種期

第一期作は清明節(四月上旬)に行はれ、潮水の關係上之れより早く播種が出来ないと稱してゐるが、早播に依つて苗代の冷害を受けることが多い所爲と思はれる。

第二期作は第一期作の播種を了へて五日目に播く農家が多く、十二日後に播く地方もあるが之れは稀である。

3 豫措

軽く唐箕拂を行つて種粒をクリークの流れの激しくない溜りに浸水する。浸水日数は二晝夜が普通で中に二晝夜半に及ぶ農家もある。

4 苗代肥料

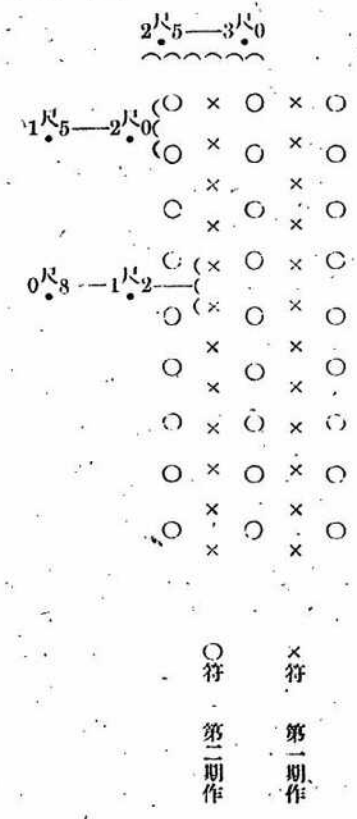
正午を過ぎてから種粒を引揚げ乾燥場に擲けて置き、一日二回の熱湯をかけ古麻袋か若しくは藁席を以て覆ひ保温に努めてゐる。熱湯の温度は計量器がないため手加減で四十一—四十五度位であらう。此の萌芽作業は三晝夜で根芽ともに根と同じ長さになるが、萌芽の状態は不揃甚しく、之れは浸水日数の過短と萌芽操作の幼稚に起因してゐると思ふ。偶々萌芽作業の拙劣に因つて大切な種粒を腐敗せしむることもあり、バーナリゼーションの立場から考察して改善を要する。

(三) 押 秧

苗代に於ける窒素質肥料の多用によつて一箇月目に大概一尺以上も伸びてゐる。苗は日中に婦女子が拔取つて小束にし竹籠に入れて運搬するが、作業の手不足でもあつた場合には前夜に拔取つて翌日の植付に充てゐる。第一期作の條間は二尺五寸—三尺、株間八寸—一尺二寸である。

第二期作の植付は宜蘭地方の「澁仔作」と同様なもので之を挿稿と稱してゐる。挿は儲けるの意にして耕起も

せず第一期作の間に植付けるから得たと云ふのであらう。前にも記述せる通り第一期作物種の植付後一週間位  
 経てから挿秧する。故に株間は第一期作と同様二尺五寸—三尺である。  
 而して株間は更に疏く一尺五寸—二尺前後にして坪當十株—十二株の株数しかない譯である。  
 植付本数は第一期作五、六本、第二期作八—十本にして苗が過長に失するため相當深植である。  
 植付作業の功程は兩期とも一日一人一畝半の割合で、第二期作の植付は株数が多少減つても第一期作稻に能  
 率が阻害されて勞力の節減とならない。



(四) 本田の肥料

連變前は瘠地乃至不出來の部分に落花生粕及硫酸を追肥として施用することもあるが、現在では物價高のため  
 肥料購入の經濟的餘裕がなく全然行はれてゐない。只第二期作薬の一部を其のまゝ水田に残して置く位である  
 が、薬の大部分を燃料に供してゐるために語るに足らぬ程度にある。然し稲を自家消費の目的で一戸當百坪内  
 外栽培してゐる分に對しては落花生粕を施用し畝當約二百斤を追肥としてゐる。

(五) 除草

特に除草の目的を以て行はれず、田圃の見廻りとか灌排水門の調節に出た時序で目立つた雜草を除去するに  
 止まり、天の配劑か餘り雜草が生えない。之れは深水灌漑のために雜草が生えにくいのか詳かでない。

(六) 收穫

1 第一期作  
 七月末に黄熟し之を刈取つて束にし小舟に積んで庭先で脱穀作業を行ふ。第一期作の收穫時には第二期作の  
 挿秧が二尺五寸前後に伸長してゐるため、水田内に於て脱穀作業が不能である。手不足の際收穫人夫を雇入  
 れた場合は乾燥機を以て勞銀に替へてゐる。此の現物支給は食事無しで畝當十二斤乃至十六斤とし、刈取運  
 搬、脱穀(石のローラーを牛に牽かせて壓し落す。牛は雇傭主の役牛である。)の三作業を含むのである。

2 第二期作

五〇

收穫期は十二月末である。十一月中旬の湖熟期に水門を全部締切り成熟を促進せしめ、恰も乾燥期に當り收穫時の薬程は枯れて既に倒伏してゐる。此の時の脱穀は本田に臺灣の舊式脱穀器である揀桶を入れて落してゐる。備貨は第一期同様乾燥糧を以て支拂つてゐるが、收量が多い爲め尙當二十一—二十六斤である。物價が安く且つ通貨の安定してゐた事變前は一日當食事附きで舊幣八毫であつたが、現在は殆ど現金拂ひの例を見ない。

而して勞力の不足な地方程刈取賃としての租量が高く、又現場と庭先の距離が遠い程最高の二十六斤を支拂つてゐる。

收穫物は乾燥後風選をもなせず、薬、土の混着が多く、賣買の際百四斤を以て百斤とする慣習を生じたのはなからうか。次にその畝當収量を記せば左の通りである。

	上 田	中 田	下 田
第一期作	一五〇斤	一二〇斤	九〇斤
第二期作	三〇〇斤	二五〇斤	一七〇斤

(七) 病 蟲 害

病蟲害とも甚しい被害が無い様である。病害としては稻熱病特に穂イモチが屢々發生する。農民は之を「敗」と稱して第一期作の出穂期に夕立が多い年に發生し易いといふが、蓬萊種の場合早稲イモチ病に罹つて見たい位懸念することもない。第二期作に胡麻葉枯病の局部的被害の酷い所もあるが、何れも致命的なものではない。蟲害に至つては螟蟲の被害が最も酷く、浮塵子は大概輕微に終る場合が多い。

此の外に尤も怖がられるものは蟹の害である。苗代時から分蘖始めの幼葉心を喰害して萬頃沙に於て蓬萊種を試作した時に此の苗を喰荒されて困感したことがある。此の對策として多數の蟹を養つて捕喰させてゐる外に手の下し様がなく、刈取の使用によつて多少殺し得るであらうと日本農具陳列の際彼等の話となつてゐた。

三 農 具

- 1 犁——臺灣の在來犁と略々相似し、長床犁にして作りが極めて悪い。
  - 2 犁耙——臺灣の手耙と同種同型で土塊の破碎等に使用する。
  - 3 鋤——鋤頭と云つて柄は竹又は椶で、齒の大きさは種々に分れてゐる。
  - 4 禾鎌——稻收穫用の鋸鎌である。
  - 5 禾桶——脱穀用の桶にして臺灣の揀桶より稍々小型のものである。
- 其の他——風櫃(箕)、對坎(石臼)……類から白米)等があるが悉く昔から傳はつて來た農具で改良されてゐない。



#### 四 小作関係

五二

従来デルタ地帯の小作料は現物納租の場合が多く、金納制は現在とて行はれてゐるが恐らく二十%以下であらう。しかも事變後舊法幣の相繼ぐ暴落に供えて金納制から現物納租へと漸次移向の趨勢にある。現物納租に就いて見るに收穫後地主（大地主は概ね代理人をして）が小作人の庭先に來て秤量を行ふのである。分配に先立つて護沙費（聯防隊に納付する金物）及び諸稅負擔を親の時價に換算し差引いて小作人二十五—三十%、地主七十—七十五%の分配率である。例へば第一期作に於て一支畝の收量が百二十斤あつて半年分の護沙費（一圓五十錢）、諸稅負擔額（一圓）が約粟の九斤に相當換價され、之を差引いた残りの百十一斤を前記分配率で分けるのである。それ故に大部の收穫物は地主の手に歸して小作人の所得量は僅に二十七—三十三斤に過ぎない。苗代肥料のみは小作人の折半負擔とし、偶々種親が同様折半負擔する例もある。又堤防の決潰、水門橋梁の修理は不文律に地主の負擔とされ、事前の承諾を得て小作人が修繕を加へた時は地主より現金を貰ふ慣習である。現物納租即ち小作の多くは地主と小作人との間に次の様な中間機關が介在してゐる。

地主——師爺（家庭會計）——大清（小作料の徴收係）——小作人

地主のことを田主又は業主と稱し、小作人のことを耕人、耕家と云つてゐる。師爺も大清と同行するが、大地主の師爺は出歩かぬのが常である。師爺、大清は地主から月給を貰つてゐる一使用人であるが、耕地借入の場合必

ず此の二者を取入れることが肝心で、小作料秤量時の手心に依つて役得が生ずるのである。

金納制には前記中間機關無く地主對小作人の直接交渉が普通である。凡そ畝當第一期作百五十斤、第二期作二百斤位の生産ある沙田なれば舊法幣四百元（軍票の三十八圓位）を舊曆の二月と八月に二百元宛納稅するのである。保證金として畝當五十—一百元を必要とし、護沙費、諸稅並に道路、橋梁、水門、肥料等一切の費用は悉く小作人の負擔となつてゐる。加之豊凶に拘らず約定の小作料を納めなければならぬ鐵租と云つて其處に温情も酌量もない。

#### 五 改革改善を要すべき事項

前述に依つて南支デルタ地帯に於ける農業状態が如何に幼稚粗放的なものか略々明かであらう。實際農民の最低生活、窮狀は寧ろ前述内容よりも更に深刻を極めてゐる。米を作つて居る三食の糧に缺く實情は決して白髮三千丈の如き虚大的形容でないのである。「食無求飽、居無求安」は蓋し一部の地主や土豪を除外した農民大衆に強ひられた言葉であらう。固より生産物の價格が全て一部商人の手に依つて左右され、又生産に必要な物資の購入については、その價格が悉く商人に依つて決定掌握される農階級の薄弱性は、各國社會事態の當然として不思議がられないがそれでも農業政策面に可成の應付があり、國家的に育成強化が行はれてゐる。翻つて支那農業について見るに矢張りその時の社會問題として叫ばれては來たが、微溼的な域を用でな

五三

い。再の治水事業と言ひ、明代災荒救済と云ひ、近頃は清の開墾、勸農にしても均しく努められたことは事實であるが、清末以來英、米の資本主義的經濟の侵略に因つて巨量の糧食が餘剩農産物の銷路市場と化し、支那農村の疲弊困難が愈々本格的に嚴重な問題となり、幾多の學者を腐心せしめて來た。而して農村改進の計劃の聲が高きにも拘らず、遅々として大なる業績を見ないのは農業對策自體の困難性に基づいてゐるが、農に對する上下の關心が薄いのには禍が根本してゐるやうである。休みなく時が移るその中に毅然として變りなく存立してゐる耕地の勞働即ち播種、生長、收穫が繰返される。凡ゆる變化を超越して農民が黙々とその義務を果して來たことが、農業に關與しない爲政者及び一般人にとつて聊かの感興もないのであらう。有機的發展に於て幾代も續いた祖先に結付する農民は、その糊口とすべき土地を金次第で賣放すことを好まない筈なのに、強食弱肉の迫害に堪へ兼ねて過剩でもない人口が農村から流出して只管「有辦法」に諦観づけられてゐる。延いて自國の食糧確保が獨り經濟及び利潤の重賤のみならず國家的に必然であり乍ら益々逆行して獨立の國民的政治を不可能ならしめてゐる。現今と雖も支那には働かずに喰へる階級があるが、之に反して喰はねば働けない農民大衆が存在してゐる。此の喰はねば耕作出來得ない農民が現實に喰へない問題に對して検討を要すべき事項は數多いが、今日尙諸負制に立脚してゐる省、縣政府の現状、將又治安等に想を致す時總て言ひ得べくして實行し難い机上の空論に近いのである。而して強ひて主要なる數項を擧げれば左記諸項であらう。

### (一) 小作制度の改革

デルタ地帯の地主は限られた少數のものにして、殊に太公田が多く、之れが管理に當る者は政治上に又地方行政上に大きな役割を演じてゐる故に小作制度の改革の痛である。然し農村の救済が小作制度の改革を先鞭として解決されざる限り他の獎勵事業に大なる支障を及ぼすことが明白である以上斷乎たる處置を以て小作料の公正化を圖らねばならない。少くとも土地所有に係る諸税の負擔を地主に歸せしめ支那當の賣買沙田價格が一千三百元—一千八百元(軍票—百十圓—一百五十圓)の土地資本利息から見ても全收量の分配率を半々とするべきである。

而して一面自作農の創設へと百尺竿頭に一歩を進めて行くのが目下の急務である。(第一表參照)

### (二) 米價の統制

現在大消費地の廣東市に米穀管理局があり、消費大衆の生活安定を計る見地から米價が統制されてゐるが、諸物價の昂騰に比して統制の價格は必ずしも適正ではない。勿論現下の小賣米價百斤四十七圓より高くすることは到底考へられないが、地方買上値段と市場に賣出されてゐる米値との格差を縮少し、生産費を調査考究し、之れを基礎として且つ管理局の財源捨用的な運用を廢めることが眼目である。又地方の米穀商が行つてゐる様な自由主義經濟行爲を全般的に統禦し米穀管理を一元化することが緊要である。

(三) 農業教育の普及

「百姓は馬鹿でもつとまる」と云ふことは昔のこと、農業上の知識が缺如してゐて農事の改善を期するは仲々望まれない。完備した農学校の設置に依つて指導陣の強化をはかる必要は勿論、各地に農業講習所の開設をなし農村青年の養育に急を要するものがある。

(四) 農事試験並に指導機關の設置

農耕法の改善及び品種の育成は増産上必須な事項であるにも拘らず農事試験場が一つもない現状では農村振興等口にするのが愚であらう。元來農民は新しい品種の栽培乃至耕作法の改善に就いて必ずその良好な結果が犠牲的先取的な篤志農によつて立證されない限り口頭の勸奨を以てしては實行しない守株の思想が深く根ざしてゐる。故に農事試験機關の是とする諸般の試験結果を農民に移すには指導機關の手に依つて適當なる模範試作田を通した方が効果的である。又合作社經營が時期尙早であれば初歩として農事實行組合を指導機關の一部に併行せしめるのも可である。

(五) 肥料問題

農業經營上に於て無機肥料の金肥に頼るの弊が既に闡明され、今日自給肥料の増産が如何に農家經濟に主要であるかは論ずる迄もない。デルタの無肥栽培が年々土地を瘠薄ならしめてゐる事實は、その稻作の良否が無言

の證左となつて示されてゐる。唯デルタ地帯の農家は燃料が無いために土地に還元すべき糞を使はねばならぬが、之れは田菁の栽培に依つて緩和されよう。綠肥を作れと云ふことは惰農にとつて苦痛かも知れないが、糞を以て堆肥を製造し、之を施せば敢へて金肥無くとも済むのである。

黃埔の某部隊に於て多量の堆肥施用をした蓬萊種の生育状態は實に立派な出来栄であつた。要は自給肥料の増産施用によつて三割の増収は易々たるものにして、此の一事の勵行を以て廣東糧食を緩和するに餘りがあると確信する。

(六) 勞力・畜力の充實

高田地帯は稍々勞力集約的經濟の下に勞力過剩の上に立ち勞力の浪費を前提としてゐるに反し、デルタ地帯に於ては植付、收穫作業の大半を傭入勞力に依つてゐる。我國の一户當耕地面積は昭和十五年の統計に據れば一町一反に過ぎず、農業従事者一人當の四反歩に較ぶればデルタの一户當六十畝(約五町)は廣大である。而して此の一户當人口の性的、年齢的構成は審かな資料を有しないが、六人平均として勞働適齡者は三—四人位であらう。然るに第二表に示す勞働配分表に就いて考察すれば兩期を通じての適當勞働日數が七、八日に止まり、植付と收穫の二作業を除いて自家勞力で以て充分るのである。唯植付及び收穫の主要作業に勞力不足が甚しく感じられ、農家の支出面に重い負擔となつてゐる點に對して耕作の技術改善が要望される。



畜力に就いては收穫後と植付迄の間に百日餘りの期間があつて餘りに耕起が行はれる關係上六十畝を單位として一頭の水牛は別段不足を告げることもないが、有畜農業と自給肥料充足の方面から見れば、一戸當二頭の飼養が適當と思はれる。而もデルタ地帯の耕牛所有は耕地借入の必須條件とされ、一頭五千—六千元（軍票五百圓位）の多額を要する現狀に鑑み、耕牛の屠殺について大いに吟味すべき問題である。

(七) 副業の奨励

デルタ農村の農閑期を副業の奨励に依つて農家収入の増大を圖ることは急務である。然し現在の養鶏、養鰯以外に蔬菜栽培の餘地もなく、三角園の濶織造が最も有望である。もう一つ挙げられるのは裏作である。之れは今後の試作に俟たなければ種類の言明が出来ないが植付と收穫の借入貸銀を補ふ程度のことなら難事でない。

六 蓬萊種栽培に就いて

デルタ地帯に於ける蓬萊種の栽培上最も惡條件として挙げらるゝことは灌漑水に鹽分が含まれてゐる點である。之に因つて早植の實行が困難を感じるが、三月中旬の播種で以て可能である。而してデルタの特殊的な播種耕種を速かに普通の二回作に訂正することも容易でない。假令農民が之を首肯しても實際に當り努力の不足に阻まれる。茲に想起されることは株出法の實行であるが、第一期作の新興白の刈株から再生した状態を観察して最も適合した方法であり、出穂不揃による多少の青米は止むを得ないであらう。

第一表 兩期合算せる水稻小作收支計算表

(支収當)

生産額	収入	98.0 (350斤)
	収入	7.00 (1.20斤)
計		107.00
直接生産費	種子	2.50 (10斤)
	肥料	—
	肥料	2.00 (油粕10斤)
	賃賃	8.05 (5.8日)
	賃賃	3.50 (2.0日)
	力費	3.00
	諸料費	0.50
計		19.85
間接費	具費	1.00
	建物費	0.50
	諸税公課	2.80
	小作料	68.60
	計	72.90
生産費合計		92.75
毎百斤當生産費 (副収入差引)		23.93

備考 1 軍票計算とす。

2 小作料は収量七割である。

3 現地米の時價百斤二十八圓とす。



- 4 副収入は概にして百斤七十五銭換算とす。
- 5 家族勞賃の算出は二日の植付、收穫作業を日當一・七五とし、木田整地の一五日を日當一・五〇とし、他の作業は一割として見積つたものである。
- 6 收量は一期百二十斤、二期二百三十斤にして粟對稈の比率が非常に大であるが主として二期作金風雪の親自に對する比率四百が因をなしてゐる。

第二表 兩期を通じての水稻畝當勞働配分表

作業別	日数	作業期間	一日平均	雇傭率
苗代	〇・九	約四五日	〇・三〇	
本田整地	一・五	同一〇日	〇・一五〇	
植付	一・五	同一五日	〇・一〇〇	
除草	〇・二	同六〇日	〇・〇〇三	
排水	〇・四	同一六〇日	〇・〇〇二	
排糞	二・五	同一五日	〇・一六六	五〇%
乾燥	〇・八	同一〇日	〇・〇八〇	

計	七八	同	三一五日	〇・〇二五	二五・六%
---	----	---	------	-------	-------

(雑折)

海南島

海口市金融事情概況 (十月中)

一 市況

本月は土産物資の出廻り活潑にして海口に於ける搬入額は米、龍眼肉、菓煙草を始め大體全般に亘つて夫々増加し、先月中の總額二十四萬三千四百圓に比し約四萬八千圓の増加を示してゐる。上海方面より廣東經由にて絲、化粧品、紙、陶器等の入荷があり、檳榔、龍眼肉、西瓜の種子等の北中支向け出荷と相俟つて荷動き稍々活氣を呈した。各縣土産物資の十月中海口搬入数量は左の通りである。

品名	数量	金額(圓)	生産地
米	二四八、〇六三斤	八九、三〇二	澄邁、瓊山
龍眼肉	九二二件	六九、七〇四	澄邁、瓊山、定安

胡椒	六三・一	瓊山	一二、六四二
胡麻油	一、三八三	瓊山	一二、八六一
糖	二二七	感恩、昌江	九、三九九
西瓜の種(赤)	一七二	文昌、儋縣、臨高	七、九三三
鹽	一七三	瓊山	七、三六四
白	三二四	瓊山	六、三〇一
生	九〇	澄邁、定安、臨高	五、九三〇
鴨	一、三四一	陵水、文昌、澄邁	五、三一二
檳榔	九二	澄邁、臨高	一八、一一二
椰子	五八八	文昌	九、九一三
椰油	六四一	瓊山	四、八二五
荔枝	六六	澄邁、瓊山	四、九七二
落花生油	二〇八	澄邁、瓊山	四、〇七七

二 法 幣

本島に於ける軍票の普及は治安地域の擴大と共に最近更に徹底し、法幣の没落は既に時日の問題と豫想せら

れ、海口其他主要都市に於ては軍票一色化が概ね確立せられたと云ふべく、奥地に於ける法幣相場の漸落に伴ひ當市に於ける需要も減少し錢莊取扱高は激減した。瓊崖協成錢業公司十月中取扱高は左の通りである。

法幣買入 一、七一六元 軍票支拂 一、三八圓  
法幣賣出 四、四五四元 軍票受入 三三七圓五九錢

三 島内物資配給の統制

本島は大東亞戰爭完遂上開發の急進完成を期すべき特殊事情にあり、各般經濟活動の計画的運営化の一環として本島の物資配給を一元的に海軍特務部の統制下に置くべく海南島三省連絡會議は物資配給機構確立要綱を決議二十九日之を發表した。右によれば海軍特務部は

- (一) 本島物資需給計畫を樹立し必要に應じ主要物資の管理を行ひ
- (二) 管理物資の配給機關を指定し
- (三) 管理物資の配給を指令し
- (四) 右價格(軍票賣とす)を決定す

之れにより本島民衆に對する物資の配給は益々同消化され、治安の確立、民生の向上に寄與する所大なるべしと期待せられてゐる。

(華南銀行)



# 南洋

佛印

## 佛印情報

### 一 稻藁よりの紙製造

稲藁が製紙用パルプ製造に利用されるやうになつてから大分時が経つた。支那人及び安南人は古くよりこの方法を採用したが、現在でも尙印度支那の職人達は舊式な方法で品質の粗悪な藁紙を製造してゐる。東洋に於ける（禮拜紙）の消費高は莫大なるものであるがその原料は藁紙である。

嘗て印度支那米稻局報に掲載されたアウリオル氏の注目すべき論文によると、ここ二十年この方歐羅巴の技術が問題とされるに至り、相當に面白い結果も獲得された山である。

この論文によると重要問題に關する各研究の結果は、文獻的見地から見ても、又殊に技術的見地から見ても貴重なるものであるから、印度支那に於ける製紙業に關心を持つ人々にとつて、大なる利益を齎すやうに思はれる。

紙の主要成分は大部分植物質の纖維素（セルロース）からなる。問題はこの植物性のもから固い眞白の線

（リース）を作るパルプを如何にして製造するかにある。或種の植物、例へばアルファの如きはこのパルプを製するに好適である。其の他樹木は必ずしもパルプ製造に使用されるとは限らない。その理由は紙は織物の如く縦糸と横糸とが必ずしも同質を必要としないから藁を原料としても良い譯である。

紙は又充填料、精料等により組織されてゐる。又パルプ工業はその原料として充填料の多いコフィンエール、樺、松、香料植物等を使用する。印刷技術の著しい發達につれて莫大な紙が必要となり、廣大な森林が伐採されるに至つた。僅か一箇年の間に四千八百萬ステールの森林が紙に生れ變つた。紙の生産量は新たに植林される樹木を超えて急速に増大するので、パルプ原料たる森林の保存上山々しき問題であるから久しい以前より技術家、企業家及び政府當局は努めて製紙原料の代用品を研究して來た。

さて今や研究家の注意は稻の藁にむけられ、藁はかの近代的機械にも耐へて良質の紙を作る原料となりさうだとの結論が出た。

この長い論文の詳細には此所では觸れる譯には行かないが、この使用法は先づ個人若しくは官立の實驗室で試験され、次いでヨーロッパの製紙工場、就中フランスとイタリヤとの工場に於て使用された。之等の國に於ては長い摸索時代を経てから、米作地には各種の工程を経て稻パルプより製紙が行はれるに至つた。かくてイタリヤでは稻藁紙は相當の生産高を示すに至つた。フランスに於ては極く最近になつてマルセイユの化學學校教師たる

エスクロール氏 (Esclou) が麥藁により紙の製造を行ひ、藁の利用法に新しい様式を加へ將來の希望を明るくするに至つた。かくて藁のバルブも樹木バルブ類似の結果を生ずる事が明かとなつた。

最後に印度支那に於ては、アウリオール氏及びラム・パン・パン氏がエスクロール氏法により藁より輝かしい成功をさめた。かくて得られた紙は良質である——密、白色、強靱で印刷に適する——數箇月間空気に觸れたまゝでも黄色に變色しない。要するに製紙原料としての木材バルブが全然入手出来なかつたとしたならば大變面白い結果が現れるであらう。確かに木材バルブに代へるに藁バルブをもつて補ふ事は出来ぬ。だが藁バルブは製紙工業に相當の量のバルブを供給し生産費の減少に貢献するであらう。

この優れた米産の國印度支那に於て、かのフランスの技術を移せばその成功は期して待つべきである。印度支那製紙會社は既に大量の藁よりバルブを製造し製紙用としてゐる經濟狀況が正常となり、原料及び化學藥品が容易に手に入るやうになれば、藁よりバルブ、そして紙の製造は印度支那に於て有望となるのであらう。これは我等の活動の範圍に屬し輸入税の引下げが先づ問題なのである。

## 二 交趾支那に於ける牧畜業の將來性

交趾支那には何等かの變化が起りつゝあつた。この良き前兆は農業にも影響するものであるから精しく探究しなければならない。昔て米作者として、又裁植企業の主體として活動してゐた交趾支那の地主達が、徐々に牧畜

に目をつけ出した事こそこの變化の本體に他ならない。この農業の一分野を占むる牧畜は永い間農業者により放置され、たとひ放置されなくとも極めて附屬的なものとして、又無意義なものとして取扱はれて來た。

此の地方の大地主達にとつては耕牛や水牛や豚等の家畜は糧運搬のジャンクやゴム箱と比較してすら大して問題とならなかつた。

米作者にとつての第一問題は米の豊作と高價の販賣であつた。この米の栽培は絶えざる注意を必要としなかつた。永年の間仕事とは自然の作品を期待し保護する事であつた。ゴム栽培者の仕事はもつと複雑な、多様の種類の期待に過ぎなかつた。その耕作作業は非常に限定されたものである。栽培者の第一の問題はゴム樹の手入と良きラナツクスの調製とにある。

若しも我がフランスの農夫が穀物の收穫のみを心掛けたらば、恐らくその人は小作人と見做されてしまふだらう。フランスの農夫は耕作の他に他の關心即ち仕事を行ふのであるが、そのうちでも誰でも誰でも行ふのが牧畜である。彼等の時間の大部分が家畜飼養にそゝがれるのは注目せねばならない事である。家畜の爲には食事の世話から住居の世話まで行ふ必要がある。

この餘計な苦痛は成程大して利益をさめないが、非常に重要な資源の足し前となるのである。即ち家畜の勞働力を絶えず利用する他に、農夫、その家族、雇人等への食料を提供する譯である。



要するに、牧畜は日々の労働によつて耕作に一定の利益を保證し、益々その耕作を安全ならしめる。農場には納屋、厩舎、養鶏場は付き物であるとの見解は微動だもしないのではなからうか？、丁度海に浮かぶ舟の如く水田の中に藻屋の建つてゐるのは立派な景色である。家畜を持たぬ栽培者は單なる土地労働者に過ぎない。それと同様に牧畜の見地から見ても、充分に資源を利用しない企業家は産業資本家と云ふよりはむしろ所謂大地主たる「ジエントルマン・フアーマー」に類するものと云へよう。

以上の如く牧畜が交趾支那に於て等閑に付されてゐるのは不思議であるとしても、だが牧畜の價值が認められなかつた事だけは事實である。たゞ御水知の通り漸次に變化しつつあるのである。新しい經濟事情即ち農業者間における收穫の不正確さがその反省を促すに至つた。時勢、栽植企業の問題、國際商業の問題を批難するかはりに、自己所有の土地を中心として最大の利益を擧げんとするに至つた。かくて牧畜は少いが確實に利益をあげるとの理由により採用され、その商品の販路は全く他方的のもので他國とは何等關係を保つに至らなかつた。

故に我が農業者達を活氣づけるやうな牧畜とは如何なる形態のものであらうか？。

先づ第一に、各地で行はれる家族的仕事たる各種家畜の飼養がある。この様式はサイゴン—シロン間の各村落に普及してゐたものであるが、獸醫局及び教育局の普及政策によつて其の他の地方へも徐々に擴りつゝある。支那人は昔から家畜の飼養が上手である。

それに續いては安南人が家畜の飼養を行つてゐる。安南人の女達は我國に於けると同様の關心をもつて家畜の世話をしてゐるのは周知の通りである。

高等牧畜に關する交趾支那の資源としては、デルタ米作地帯の豚と家鴨があり、東部及び西北部の耕牛がある。西部も又充分に牧畜に適し、その家畜の主なるものは廣大な地域に互る米作に必須の勞役用の耕牛及び水牛である。

赤肌の出でゐる山地を見ると、家畜たる豚に無盡蔵の食糧を提供して餘りあると想像せざるを得ない。

成程 *Ong* は安南人にとつて隠れたる財産であるが、もしも牧畜により豚の飼育をするやうになれば、當然その財産は高まるであらう。若しも合理的な飼育方法が行はれるならば、如何に貧乏な人であつても毎日適當の肉を食ふ事が出来、サイゴン市場では生肉一疋一・五ピヤストルで購入し得るに至るであらう。

家鴨の飼育は容易にデルタ地方に普及し得る。支那人は家鴨の飼育については熟達してゐる。肉よりも卵の方が好んで食用に供せられるが、肉も又中々滋養に富む。

そんな譯でこゝに將來有效に利用すべき肉類を見出し得た譯である。かくて今やサイゴン市場に於ては家鴨の運輸の容易なるにもかゝはらず時として家鴨を見ない事が多くなつた。家鴨は容易にサンパンへと追ひあげられて一團もろとも運輸される。

交趾支那は牛の飼育に當つては、カムボヂヤ程資源に富まない。確かにデルタ地方の低地はあまり牧畜には適さない。だがしかし東部を含む廣大な地域は未だ耕作されずにあるから牧畜には適さないとの理由は成り立たない。要するに農夫達は段々と牧畜問題に關心を持つやうになり牛群を使用するやうになつて来た。

他面に於て、著名な栽植農場に於ては、苦力の食糧としてこの家畜を利用する事に考へ着いた。苦力は米及び野菜のみでは満足しないので、飼養された豚肉をこれに與へる事とした。牛飼養の利益は勞役獸として用ひ得る事である。カムボヂヤでは毎年數多くの家畜がこの目的の爲に使用される。何故米作者は絶えずその家畜を更新せざるを得ないか。一般的に見ると米作に使用される家畜は食物の悪い爲に、就中乾季の食物の悪い爲に營養不良なのである。

沿岸地方では、飲料水が鹹味を帯びてゐるので家畜の食糧を得るのは中々困難である。牛類はこの地に飼養されると死亡するか、獸疫の捕虜となつてしまふ。

しかし獸醫局の懸命の努力によつて、かゝる状態に對應する豫防方法が発見され段々普及するに至つた。米作田の一部をさいて水濕地を好むヲニ草とかバナア草とかの飼料作物を植ゑる必要がある。かくて乾季の間、家畜は豊富な食糧を恵まれる事となり、加ふるに家畜に種痘を施せばかの廣大なる米用に對する充分の勞役を行ひ得る事となり、飼養が容易なクメール牛及びカムボヂヤ牛の力を借りる必要は無くなる。

淡水に不足する海岸地方に於ては問題解決には困難が伴ふ。全く解決困難な問題である。現在或米作者は人口的に貯水池を造つて雨水を人及び動物用に貯蔵する。

現在交趾支那に於ては、畜産のあらゆる部門に於て著しい効果をあげて来た。獸醫局の絶えざる忍耐づよい努力は業者の關心を惹くに充分であつた。だが牧畜に専心する所まで行かなかつた。牧畜を行ふためには特殊の技術を必要とする。それには上よりの適切な指導と下からの全き従順とが調和しなければならぬ。この意味に於て交趾支那に於ては傳統が無いから、くづれやすいとの缺點を有する。

これに對應する獸醫局の處置が見物である。

### 三 印度支那に於ける規那栽培の歴史

各種の規那樹は北緯十度より南緯十九度にわたるアメリカの山地地方に自生してゐた。

一七三七年以來ド・ラ・コンダミン及びボン・フンボルトは世界の文化に努力してゐたが、規那樹を原生地より移し馴化させんとした。

前世紀の中頃よりキニーネの消費量は急速に増加したので、果して自生の規那樹のみでこの消費に應じ得るか否かが大問題となつた。

自然林に於ける天然樹皮のストックが盡きてしまひさうになつたのである。加之、現實的危險は刻々迫りつゝ、

あり、キニーネ含有量の多い商品輸出量(樹皮)は年々減少しつつあつた。

一八四八年以來、フランス人ウエツテル氏は率先して規那樹を熱帯各地に馴化せしめやうと努力した。

その努力は酬いられて、一八五〇年以來オランダ政府はジャワにこの栽培を導入する事を決定し、全く人類愛的見地から栽培を始めた。(ハスカル——南部アメリカ旅行——一八五二——一八五四年)その導入の最初は一八四九年から行はれてゐたのである。

一八六〇年になると、今度は英國政府がマルカム、アブルース、クロス等の委員を派遣して、サクキルアラ種を英印に導入するのに成功した。

一八六九年になるや否や、印度支那に於てはどうかの問題がおこつて来た。(交趾支那農工會報第三卷第九號一八七〇年第一季報二四——二九——三〇頁)。

ルナアールによりジャワより齎された種子は、ビイエール氏により一八六九年十一月十四日にサイゴン植物園に播種された。

だがこれらの種子は播種後一週間も経たぬうちに一つ一つと死滅して行つた。

第二の試験的栽培は一八七二年に行れた。精細なる規那樹に對する研究と播種技術とによつてファン・ゴルコムは種子及び苗木を齎した。(交趾支那農工會報第一輯第一卷第一號一八七二年第三四頁)

苗木は皆く行かなかつたが、種子は良く根が着いた。

ビイエールにより齎された規那樹は如何なつたであらうか。農工會報にも、植物園報にもこの事に就いては全然觸れられてゐない。恐らく、温帯により急速に消滅してしまつたと想像する以外に仕方がないであらう。

加之、交趾支那の氣象は規那樹に對しては都合が悪く、一八六九年に第一回の試験栽培が行はれた場合にも、農工會(フィラストール、ベエランジエ、ビイエール)は成程規那樹を印度支那に馴化せしめるのは緊急な仕事であるが、交趾支那は暑すぎる爲にこの栽培は不可能でどうせ行ふなら、未だ未開の土地であるが安南や、ラオスの方がその栽培に適してゐると忠告してゐるのであるから、その結果は前以て知られてゐたのである。

若しも道路が完備すれば、ジャワや英領印度等の高價な實驗の結果を利用して、ラオス安南の山地にも栽培試驗が行はるゝに至るであらう。

我々は現在かかる段階に達したのであるが、一面に於ては印度支那に於ける特殊問題の故に、一面に於てはこれらの國は秘密的に研究してゐる故に簡単に隣國の利益を利用する事は出来なかつた。

東京に於ては、一八八六年より一八八七年にかけて、バラッサ氏によりチヌバツプ(ペビー山)でもつて、ジャワより齎された苗木が植ゑられた。

バラッサの死後まもなく消滅してしまつたこの實驗に關しては詳細を明かにしない。

パピー山の気象は寒すぎるので、霜害を屢々うける事は事實である。而も高度を下けると気温が上り過ぎるので、この實驗はあまり進展しなかつたのではなからうか。

一九一〇年になると、サイゴン植物園への新しい而も立派な規那樹の導入が行はれた。

播種せるものは行く行つたが、苗木の方はたちまち枯れてしまつた。(一九二〇年——カプス報告)

一九一七年になると、ホン・バアに於てエルセン博士の實驗が開始された。

その實驗は次々に行はれた。而も大學者により指導されたので着々進んだが、豫期せざる障害にぶつかつて、實驗數年に及んだが、未だに決定的な結論に達せず、各種農業技術を動員してゐる。(植物病理學、氣象學、種苗學、栽培學等々)

これと並行して、政府はこの實驗と何等連絡を取らず、適當な指導者を持たず、規那の栽培に着手した。

かくてサクキルプラ種は移植され、カンボヂヤに於てはエメラルドのバル農場に成長してゐた。(高度九百米) ミイビルは規那樹をホン・バアからクシエン・コアンへかけて(トラン・ニン省)植ゑたが、千二百米以上の高度はあまり高すぎるので、苗木は霜害を受けるに至つた。

一九一八年にはアール・シュバリエ氏によりダンキイヤ(一、四三五米)に移植された。この苗木は順調に成長したが、一九三一年より一九三二年にかけての冬期中に霜害を受けて全滅した。かくてこれらの樹木は根元

から切られて捨てられてしまつた。

一九二七年になり、イヴ・アンリーの勸奨により政府はこの問題に注目したが、不幸にもバストール研究所とは何等聯絡を取らなかつた。

かくて一九二七年以來、バストール研究所の實驗と政府の試驗栽培とはその組織的方法と相俟つて相當の結果を挙げたが、その可能性を決定するには未だ少なからざる困難が前面に横たはつてゐる。

この試驗成績が如何なる點まで到達したか。結論はどうであらうか。不確實な點はどこであらうか。

一種の瘻疽(樹皮を侵す)が流行してそのために規那樹の栽培は停頓してゐる。

現下の問題は病氣の重要性を確かめて、その有利な方向へ轉せしめる事である。こゝに於てはこの問題には深く立入らず、廣く一般識者の助力を期待する次第である。

### 泰 國

#### 最近の泰國經濟事情

##### 一 泰國の經濟規模

一 従來の泰國經濟規模



従來の泰國經濟規模を過去の統計により推定すれば大要左の如くであつて、この數字は現地大使館でも一應妥當なりとされてゐるものである。

1 輸出

品名	數量	金額	摘要
米	一、六九〇、〇〇〇	二、二九〇、〇〇〇	
錫	二、三六八〇	四〇〇、〇〇〇	
ゴム	四一、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	
チルク	六〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	
歐皮		一、〇〇〇、〇〇〇	
其他、共合計		一、三三六、六四〇	

2 輸入

品名	金額	摘要
食料	一四、〇〇〇、〇〇〇	
麻袋	一三、〇〇〇、〇〇〇	
金屬製品	一四、〇〇〇、〇〇〇	
纖維製品	二一、〇〇〇、〇〇〇	
其他、共合計	一、二八、〇〇〇、〇〇〇	

右表に據り明かなる如く泰國貿易に於ては一億六百萬銖の輸出超過となつてゐるが、更に

- 無爲替輸出 二〇、〇〇〇、〇〇〇
- 華僑送金 二五、〇〇〇、〇〇〇
- 英國投下資本 七、六六〇、〇〇〇
- 利潤本國送金
- 外債關係 二、三六〇、〇〇〇
- 錫關係 二、七〇〇、〇〇〇
- チルク關係 二、一〇〇、〇〇〇
- 其他(港灣施設等) 五〇〇、〇〇〇



備考 右は英國投下資本一億五千萬パソの四乃至六%の利潤に相當する。  
計 五二、六六〇、〇〇〇 銖

を差引いても尙四千三百九十八萬銖の純輸出超過である。従つてこの部分だけ通貨は増發される筈であるが、泰國の戰前一九四一年に於ける通貨量は平均二億七千萬銖であつて、一九三七年以降四箇年の通貨増發は平均四千萬銖となつてゐるが故に、大體に於て概計數字通貨増發推定量と符合してゐる。右の外に尙海運賃保險金一千三百八十萬銖があり、泰國の經濟基礎は今まで健全平穩な發達を遂げて來たものであると云へる。

一 一九四二年の推定規模  
一九四二年の泰國經濟推定は大體次の如くである。

品名	數	量	金額	摘要
米		1,100,000,000	1,391,200,000	
錫		11,000	19,992,000	
ゴ		110,000	16,000,000	

輸出は日本がどれ程買ふかで決まるが、一應船腹量を年間百三十萬噸として推定した。従來は年間百五十萬噸であつた。

品名	金額	摘要
チ	210,000,000	
鐵	1,000,000	
鹽	1,000,000	
其他合計	196,000,000	

2 輸入

輸入先	金額	摘要
日本	60,000,000	切下前邦貨八千萬圓
滿洲	10,000,000	
東印度其他	10,000,000	
合計	80,000,000	

右表に示す如く推定輸出額一億九千六百萬鎊に對し推定輸入額八千萬鎊、差引一億一千六百萬鎊の輸出超過となり、貿易量は戦前の夫れに匹敵するが、貿易外收支は全然異なつて来る。即ち

無爲替輸出	無
華僑送金	一五、〇〇〇、〇〇〇鎊 (從來の二分の一)
其他送金 (軍關係送金等)	二〇、〇〇〇、〇〇〇鎊
其他貿易外支拂	七、〇〇〇、〇〇〇鎊
合計	四二、〇〇〇、〇〇〇鎊

となり、差引七千四百萬鎊の純輸出超過となる。これに尙日本の軍費を負擔する爲、八千萬圓のクレジットが設定されてゐるので、之を加へると一億五千四百萬鎊の通貨増發となる筈である。故に在來の通貨數量二億七千萬鎊に一億五千四百萬鎊が加はつて來るから通貨は異常に膨脹して來る。夫故泰國經濟界は今年(昭和十七年)末邊りはインフレーションの危險が濃厚であるが、目下のところ悪性な徴候は認められても未だ未だ心配はない。之を防止する爲には貿易超過分は日本内地に保留して置く方が良いと云はれてゐる。

二 泰國經濟の現況

大東亞戰爭前は商品の種類、數量、價格等何れの點に於ても健全であり日本より平和な状態にあつたのである

が、戰爭勃發と共に日本軍が進駐した結果泰國經濟も著しく變貌を來した。その特異な點が二つある。即ち日本人の徵用と物資の徵用である。

一 日本人の徵用

邦商は大抵の店が店員の半分や三分の一は徵用されてゐるが、甚しい店になると三人の店員が全部徵用されて残るは店主一人と云ふ有様で商賣も充分出來ない。

二 物資の徵用

今度の部隊は何れも着のみ着の儘で、食料品等は殆ど持つて居らず、持つてゐるのは武器彈藥許りである。従つて來る部隊も來る部隊も物資を買込んで行く。國內の輸送も商賣も停止する状態の所へ物を買つて行くので一層經濟界に深い影響を與へたのである。その上本年(昭和十七年一月)始めて空襲があり、盤谷の街に三箇所許り爆彈が落ちたのであるが、丁度街の中心になる所に落ちたので、人心の動搖が起き、市民は避難するもの多く、綿絲布の取引より古物市に至る迄文字通り經濟取引は止まつてしまつた。やがてシンガポールの陥落により漸く気分も落付て避難先から歸る者が増加したが、この頃から頓に換物運動が盛んになり、綿絲布、砂糖、煙草等は暴騰して來た。この換物運動が盛んとなつて來た直接的原因は

(一) 船が止まつたこと

## (二) 銖切下の噂が流布されたこと

の二つであるが、泰國經濟は外國依存であるから船の止まることは痛い。次に銖切下の噂の流布されたことが響いて来た。特に綿絲布は銖切下の方が強く響いて思惑を醸成したのであつた。

泰國の價格政策は大東亞戰爭前に在つては暴利取締法の運用で押へて来たのであるが、戦後は公制度で最高價格を設定し、特に輸入生活必需品は銘柄を指定して最高價格を決めてゐる。最高價格設定の方法も日本と違つて順調に行き、國民も法令を眞面目に考へて遵法してゐる。まだ生活必需品統制令を出して生活必需品の賣買及び製造制限をしてゐるが、現在では煉乳の外二、三種に適用してゐるのみで未だ全面的な變動を見てゐない。

## 三 輸出入貿易の現況

戰爭が始まつて後盤谷へ入港した民船は日本から三艘、南支から一艘、而も全部二月中であつて、日本船は何れも一杯百萬圓見當の貨物を積んで来たので、戰爭開始後二月末までに三百萬圓の日本商品が輸入された譯である。

輸出の方では戰爭開始後から今までに軍用、民用双方で七萬一千噸の船が出港したが、その中六萬噸は米の輸出である。

泰國では現在輸出入許可制を布いてゐる。その趣旨は輸出部面に在つては國內に於ける軍民必需品の流出を防

ぎ、輸入部面にあつてはコストを見る爲である。

## 四 金融狀況

泰國にはチャータード銀行等の米英敵性銀行が三つ、重慶側のが三つ、其の他に泰國系小銀行が三つある。従つて爲替銀行として目下活動してゐるのは正金銀行と印度支那銀行があるのみである。泰國には爲替管理法はあるが、今までは有名無實であつた。銖切下後は變動するに至るやも圖られない。

通貨流通高は戰爭になつて後發達しないが、昭和十六年十二月末に於ける流通高は二億九千七百萬銖であつた。此の外に撒布されたものに日本軍の軍費がある。その額は不明であるが、正金銀行の口座に入れた金額は二千六百萬銖である。然し現實に紙幣として市中に出されたものは恐らくこの半分位のものと思はれるが故に今は何れも悪性インフレに迄突込んでゐるのではない。物價の値上りも亦思惑的なものであつて、インフレ的ではない。只銖の切下に依つて漸次浸潤して行く様になると思はれる。

## 五 邦商の現況

現在の盤谷日本人商工會議所の加入商社数は一〇〇社である。前述の如く此の中には軍に徴用されて店の潰滅した所もある。邦商も一頃から見ると泰國への熱が冷めて来た様に見える。泰國土産品は米穀以外のものは餘り日本に入れるものが無いので、機會を掴んで泰以外の土地に進出し度い希望を持ち始めてゐる様で、特に現地買



易統制會の設立後は將來如何にすべきかと店の計畫について批判的に見て來てゐる傾向が窺はれる。

八四

#### 六、現地貿易統制會

佛印に支那に夫々現地統制機關があるのに、泰のみ從來通りに放置すれば南方物資の獲得と統制に困難を來す様になることになる。向ふの商社の人の頭は古く、内地に比べると六、七年乃至十年位遅れてゐる。従つて團體を作るにも先づ教育から始めて行かなければ行かない。殊に統制機構の確立をはかるには特にその必要があつた。かゝる裡に、周囲の状況の發展に伴ひ、昭和十七年三月に入つて準備委員會を作り話を統制會へ持つて行つた結果、遂に三月十八日創立總會を舉行したのである。

盤谷貿易會は最初佛印と同様なものを作ると云ふ話もあつたが、結局佛印と異なるに至り、それは佛印の日本人同業會は戦前に出來た同業會組織であり、又内地に於ても南洋貿易會といふ統制團體が貿易統制會に發展し、會の性質も變つて來てゐることが原因してゐる。

從來泰國にも邦商の綿絲布、錫の同業會はあつた。然し今度は同業會の様に同業者の利益の擁護のみを考へないで國家のためならば自己の利益を顧みない底のものではない點を強調して、統制會の役員は會長に總領事となり、副會長に領事になると云ふことであつたが、盤谷は頭の遅れた所である爲、當面役所が中心になり、商務官が理事長となつて組織に入込んで世話することになつた。今後の實際事務は日本貿易會盤谷支

部に於て行ひ、更に常務理事に貿易會支部長を當てその他に常任理事四名を置いたのである。

・現地では人手が足りないので三井物産と三菱商事、綿絲布組合、ゴム組合から各一名宛常時事務所に出て仕事をすることに於てこの四者を常任理事とし次の商社を普通の理事とした。

東洋棉花 日本棉花 大谷洋行 大倉商事  
野村商事 大南公司 日高洋行

その他に監事として昭和通商、S K 商會の二社が指定された。

本會は前述の如く官民一體の統制會であつて同業會とは異なる。従つて創立の形式も官と民とが一緒になつてやり、大使館と數商社の人が發起人となり定款も一緒に作つた。下からの創意を盛り立て、成つたのである。

統制會であるから會務の運営は指導者原理で會長專斷となつてゐる。従つて會長に總領事になることは定款に決めてあるがその他の役員は皆會長が選ぶことになつてゐる。

現在會員數は四十二社である。前述の通り日本人商會議所の會員は百社でこのうち八十社が貿易をやつてゐると謂はれてゐるが、その半分の四十二社が加入して居り會員になれなかつた人はよく陳情に來るが行く行くは加入させる豫定であり目下実績の報告を求めてゐる。

大體の仕組みとしてはあと追加するものが十數社あるが、これは向ふ三箇月位の期間を置いて加入さす豫定で

八五

ある。大體四月一杯で今まで加入したものを始末し、六七月位までに未加入のものを始末する心算であった。加入申込者には実績表の提出、口頭試問のほかに宿題として泰西の經濟調査等を依頼してゐる。内部機構としては左の通り二十二商品の部會を作つてゐる。

- 一 輸入 (日本品)
  - 絲 布 部
  - 自 轉 車 部
  - 紙 類 部
  - 化學製品及藥品部
  - 燃 料 部
  - 合 計 十部
- 二 輸出
  - イ 油 部
  - ロ 糖 部
  - ハ タングステン部
  - ニ 職・雜 製品 部
  - ホ 陶磁器、硝子、瑛瑯部
  - ヘ 食 料 品 部
  - ト 機 械・金 屬 部
  - チ 雜 貨 部
  - リ 茶 部
  - ケ 鍋 部
  - コ タンク部
  - ク ニン部

- ラ ッ ク 部
- 棉 花 部
- 原料纖維(棉花以外のもの)部
- 合 計 十二部
- 皮革(麴皮を含む)部
- 樹 脂 部
- スクラップ部

定款に依り會長が各部長を部員より指名した結果次の様に部長を決定した。

- 一 輸入 (日本品)
  - 絲 布 部長 東洋棉花
  - 纖維製品 部長 大同貿易
  - 食料品燃料 部長 三井物産
  - 化學製品及藥品 部長 三菱商事
  - 機 械 金 屬 部長 三菱商事
- 残りの輸入品(雜貨を含む)の部長は常務理事(貿易統制會整谷支部長)の兼務と取敢へずしてゐるが、内地側の統制の進展に伴つて漸次部長を指定して行く豫定であり現在に於ける各部長は左の通りである。



ゴム、チーク、油脂	部長	三井物産
錫、タンクステン、タンニン	部長	三菱商事
ラック	部長	大谷洋行
皮革	部長	東洋棉花
樹脂	部長	野村商事
原料	部長	大南公司
スクラップ	部長	日高洋行

部長外の委員の配属は未だ詳細調査表が出来てゐないので未定であるが、その配属が決まればその部に属する取扱商品は其の部の人でなければ取扱つてはいけないことになつてゐる。また部長を決めるのは會長指名であるが決定に當つては方々に意見を徴して決めたのである。

現地には今までゴム、錫、綿糸布の同業會があり、絲布部長は大同貿易であつたがこれを新に東洋棉花とし皮革は廻持ちの制度であつたのを大倉商事に決定した。纖維製品の同業會は從來無かつたが部會をつくり大同貿易を据ゑた。スクラップ部も從來取扱團體は無かつたのであるが屑鐵を強力に蒐める必要から特に設けたのである。本會の仕事は固より統制であるが實際上の統制方法としては船積を統制することによつて運営してゐる。

る。即ちタイ國土産品の輸出によつて統制會の承認あるもののみを積出させる様にしてゐるのである。向ふの船は一切日本で押收してあるし、暹羅省の役人も船積運營會の者も出張して來てゐるので行く行つてゐる。此の點については内外地の聯絡を今後充分にとらねばならない。その他に只今は價格統制を行つてゐるが今後の問題は土産品買付の數量と價格である。

國內の買付の統制は各部がやつてゐるが、從來もやつてゐた者がやるので行く行く様になると思ふ。而して將來單に日・タイ間のみでなく共榮圈全體との統制及び聯絡を取る必要があり、特に上海南支との間にその必要を感じる。

六 渡航問題について

支店開設や統制會への新規加入についてはその都度外務省から現地に意見を求めて來る建前になつてゐるので照會のあつた者は大いに歓迎してゐる。故に現地統制會の新規加入者は照會の手續を踏んだ者に限り入れることにしてゐるから此の點注意を要する。渡航者はもつと増加させてよいが出來るだけ商品別に嚴選して組織的に進出させねばならない。商業會議所の委員は百社あるが、その大部分が綿糸布の取扱業者であつて、商賣の仕方も値の上り下りで賣買してゐて全く投機的である。今後の貿易は配給機構と考へてその様なやり方をせねばならない。配給機構と考へた場合整谷の綿糸布關係貿易業者は人數が多すぎる。然し綿糸、綿糸布以外のものは極め

て少く特に化學製品が少い。この部門に對しては今後日本の有力商社の進出を必要とする。

(タイ國日本大使館)

### 泰國と國民文化條令の發布

泰國は現皇帝七年十月四日「國民文化條令」なるものを發布して國民が社會儀禮並にその日常生活に於て缺くるところならんことを期してゐる。これは國粹運動たるヲタクニヨム運動に淵源しその趣意とするところは「タイ人のタイ」を確立させようといふにあつて「にその實踐に邁進してゐるのであるが、この「國民文化條令」もその一つの現れである。ついでこれを見ると泰國社會生活の一端が現はれて興味深いものがあり、恰も皇國の明治三、四年頃の啓蒙時代を偲ばしめるものがある。その内容は次の如くである。

#### 一 國民文化條令(佛曆二四八三年現皇帝七年十月四日制定)

國民議會ハ國家繁榮増進ノタメ國民文化條令ヲ制定ス

皇帝ノ命(勅令)ニヨリ國民議會ハ國民文化條令ヲ左ノ通り制定ス

第一條 本令ハ佛曆二四八三年制定「國民文化條令」ト稱ス

第二條 本條令ハ官報公布ノ日ヨリソノ效力ヲ有ス

第三條 本條令中「文化」トハ國民ノ文化、清潔及ビ協同ヲ意味ス

第四條 泰國民ハ國民文化條令ニ從ヒ國家ノ繁榮増進ニ協力スル義務ヲ有ス

第五條 本條令ハ國民文化度ニ關スルモノ及ビ司法省發令ノ諸規定ニモ適用サルベキモノトス

一 公開ノ席ニ於テハ服装ヲ正シクシ品位ヲ保ツベシ

二 凡テノ仕事ニ勤勉ニシテ忍耐強クアルベシ

三 泰ヲ愛スベシ

第六條 本令ニ稱スル「國民文化」ハ自己ノ居住スル地方ニ於ケル階級ニ準ズ

第七條 第五條ニ違反シタル者ハ十二銖以下ノ科料ニ處ス 本科料金ハ地方寄附金トス

第八條 總理大臣ハ本條令施行上ノ監督、統率ヲナシ施行規則指令權ヲ有ス

本規則ハ官報公布ノ日ヨリソノ效力ヲ有ス

總理大臣 ビブン・ソングラム 副署 (佛曆二四八三年十月十五日發行の官報第五七卷三九號)

#### 二 泰國國民服裝規定(內務大臣告示)

淨服ハ國民強化ニ重要ナルモノ一ナルヲ以テ國ヲ愛スル泰國國民ハ舉ツテ次ノ如キ內務大臣ノ告示ヲ勵行ス

ベシ



第一條 泰國人ノ服装ハ通常左ノ三種ニ分ツ

一 通常服

二 特別服

三 仕事服

イ 凡ユル労働服

ロ 職業服(専門服)

第二條 通常服ハ公閉席上ニ使用スルモノトス

第三條 特別服ハ凡テノ運動、競技等ニ着用スルモノトス

第四條 凡ユル種類ノ仕事服ハ労働ニ用フルモノトス

第五條 専門服ハ普通官服ヲ含メ特殊ノ労働ニ用フルモノトス

第六條 男子ノ服装ハ左記ヲ備フルヲ要ス

一 帽子

二 開襟又ハ詰襟ノ上衣、開襟ノ服ヲ着用スル場合ハ下着ハシャツヲ用ヒ「ネクタイ」又ハ襟結ビヲ用フベシ

三 長「パンツ」

四 靴及ビ靴下

市制區域外或ハ奥地ノ服装ハ長短何レカノ「パンツ」ヲ着用シ、詰襟服ト適當ノ靴ヲ用フベシ

第七條 男子服ノ通常色ハ告示ニ依ル

第八條 女子通常服ハ次ノ如キモノトス

一 帽子

二 兩肩ヲ隠ス半袖附キノ外衣

三 スカート

四 靴(靴下着用又ハ不着用)

第九條 男子労働服ハ次ノ如キモノトス

一 帽子(仕事ニ適セルモノ)

二 シャツ

三 長「パンツ」又ハ短「パンツ」

四 靴(仕事ニ適セルモノ)

第十條 女子労働服ニ附帶スルモノ次ノ如シ

一 帽子

二 兩肩ヲ隠蔽スル半袖附ノ「コート」

三、スカート

四 靴（仕事ニ適セルモノ）

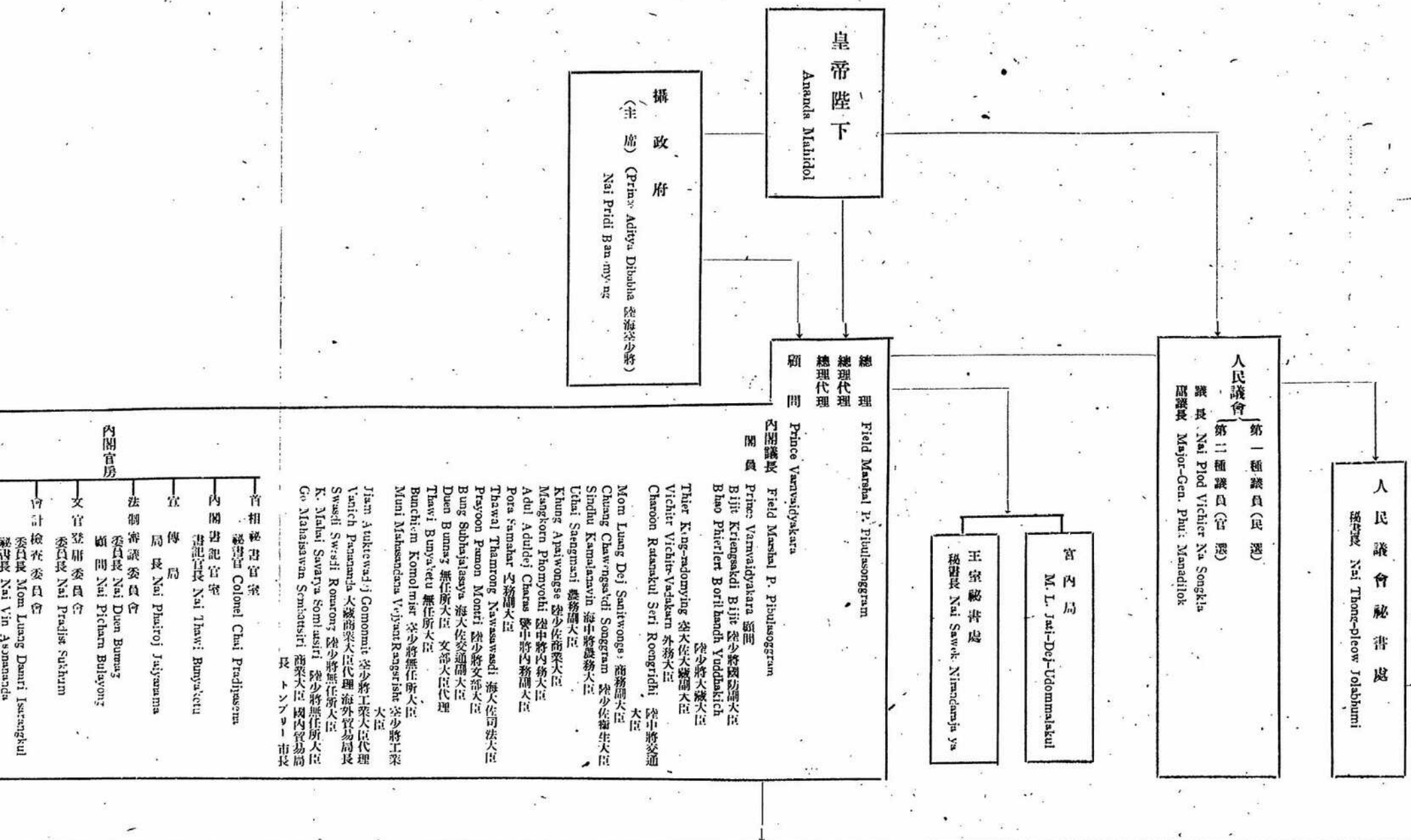
第十一條 男子及ビ女子ノ戶外労働服ハ灰色、青色、「カーキ」色又は褐色トシ屋內又ハ技術關係ノ労働ニハ紺青色ヲ適當トス

佛曆二四八五年二月二十一日 シ・チャウエンサキ・ソングラム（内務大臣）

（佛曆二四八五年三月十四日發行の官報第五十九卷十四號）

# 泰國政府機構並人員表

(昭和十七年十二月現在)

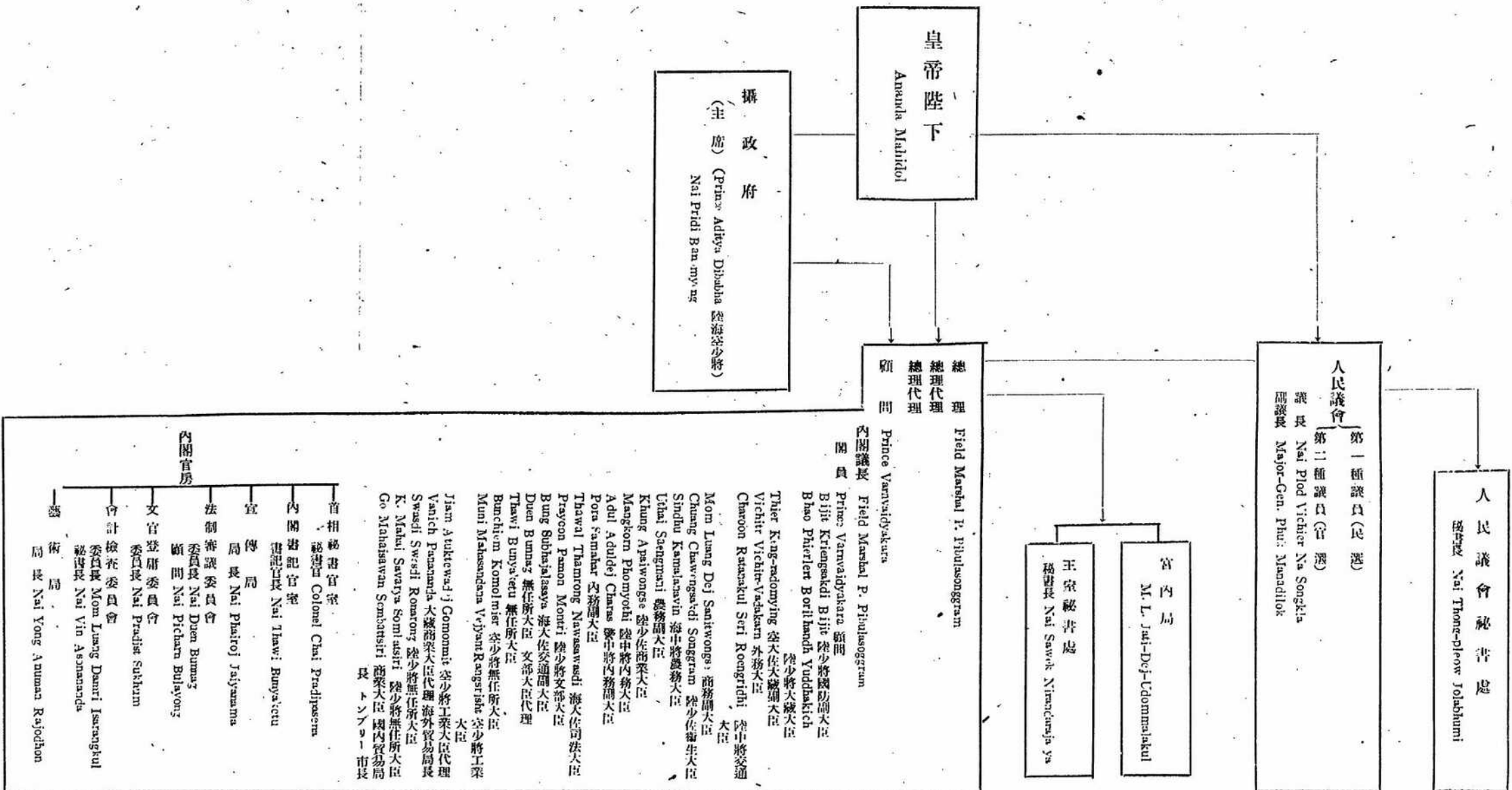


- 首相秘書官室**  
秘書官 Colonel Chai Praditsam
- 內閣書記官室**  
書記官長 Nai Thawi Bunyaveju
- 宣傳局**  
局長 Nai Phairoj Jaywanma
- 法制審議委員會**  
委員長 Nai Duen Bunnag  
顧問 Nai Picharn Bulayong
- 文官登庸委員會**  
委員長 Nai Pradit Sukhum
- 會計檢查委員會**  
委員長 Mom Luang Danri Isarangkul  
顧問 Nai Vin Assananda
- 內閣官房**

- 農務省**  
大臣 Sindhu Kamalanavin 海中將  
副大臣 Nai Uthai Sangmaeti
- 商務省**  
大臣 Khung Apaiwongse 陸少佐  
副大臣 Mom Luang Dej Sanitwongse  
代理大臣 Nai Yanich Pananda
- 工業省**  
大臣 Muni Mahasandana Vejjayan Rangsithe
- 大藏省**  
大臣 Bhao Phierlett Borilbandh Yuddhakit 陸少將  
副大臣 Thier King-rodomying 空大佐  
代理大臣 Nai Yanich Pananda
- 外務省**  
大臣 Nai V. Vichit-Vadkarn  
顧問 Prince Varnvaidyakara
- 內務省**  
大臣 Mangkorn Phonoyohi 陸中將  
副大臣 Adul Aduldej Charas 陸中將  
副大臣 Nai Pra Samakhr
- 司法省**  
大臣 Thawal Thamrong Nawasawadi 海大佐
- 文部省**  
大臣 Prayoon Pannon Montri 陸少將  
大臣代理 Nai Duen Bunnag
- 交通省**  
大臣 Charoon Ratanakul Seriwongritthi 陸中將  
副大臣 Bung Subhajasaya 海大佐
- 國防省**  
大臣 Field Marshal P. Pibulsonggram  
副大臣 Bijit Kriengsakdi Bijit 陸少將  
代理大臣 Swasti Swasti Romong 陸少將
- 衛生省**

# 泰國政府機構並人員表

(昭和十七年十二月現在)



人民議會秘書處  
秘書長 Nai Throne-pleow Jolabumi

人民議會  
第一種議員(民選)  
第二種議員(官選)  
議長 Nai Phod Vichit Na Songkha  
副議長 Major-Gen. Phao Manaditok

宮內局  
M. L. Jai-Dej-Udommalakul  
王宮秘書處  
秘書長 Nai Sawek Nimacuanja ya

皇帝陛下  
Ananda Mahidol

攝政政府  
(主席) (Prince Adhya Dhisabha 陸海軍少將)  
Nai Pridi Banomyong

總理  
Field Marshal P. Phibulsonggram  
總理代理  
Princess Varvaidyakara  
顧問  
Prince Varvaidyakara

內閣議長 Field Marshal P. Phibulsonggram  
閣員  
Prince Varvaidyakara 顧問  
Bijit Kriengsakdi Bijit 陸少將國防副大臣  
Phao Phierler Borihandh Yuddhakich 陸少將大藏大臣  
Thier Kang-rodomying 空大佐交通副大臣  
Vichit Vichit-Vadakarn 外務大臣  
Chanoon Ratanakul Seri Roengritthi 陸中將交通大臣  
Mong Luang Dej Sanikwongse 商務副大臣  
Chuang Chawungskadi Songgram 陸少佐衛生大臣  
Sindhu Kamalanavhin 海中將農務大臣  
Uthai Saengmanee 農務副大臣  
Khuang Apaiwongse 陸少佐商農大臣  
Mangkon Phomyothi 陸中將內務大臣  
Adul Aduldej Charas 警中將內務副大臣  
Pora Samahar 內務副大臣  
Thawal Thantong Nawasawasti 海大佐司法大臣  
Prayoon Pannom Montri 陸少將文部大臣  
Bung Subhajasaya 海大佐交通副大臣  
Duen Bunng 無任所大臣 文部大臣代理  
Thawi Bunyaveju 無任所大臣  
Bunchom Komolmit 空少將無任所大臣  
Muni Mahasandana Vejjayan Rangsitak 空少將工業大臣  
Jiam Aukiewasdi Gononmit 空少將工業大臣代理  
Vanich Panananda 大藏副大臣代理 海外貿易局長  
Swasti Swasti Ronarong 陸少將無任所大臣  
K. Mahai Savaya Somi asiri 陸少將無任所大臣  
Go Mahaisawan Semchatsiri 商業大臣 國內貿易局長  
Tan Sri 市長

首相秘書官室  
秘書長 Colonel Chai Pradiposern  
內閣書記官室  
書記官長 Nai Thawi Bunyaveju  
宣傳局  
局長 Nai Phairoj Jaiyavanana  
法制審議委員會  
委員長 Nai Duen Bunng  
顧問 Nai Pichan Bulayong  
文官登庸委員會  
委員長 Nai Prajit Sukhom  
會計檢査委員會  
委員長 Mong Luang Dauri Isarangkul  
秘書長 Nai Vin Asnananda  
衛生局  
局長 Nai Yong Anunara Rajodhon

商務省  
大臣 Khuang Apaiwong 陸少佐  
副大臣 Mong Luang Dej Sanikwongse  
代理大臣 Nai Vanich Panananda

工業省  
大臣 Muni Mahasandana Vejjayan Rangsitak  
大臣 Phao Phierler Borihandh  
Yuddhakich 陸少將  
副大臣 Thier Kang-rodomying 空大佐  
代理大臣 Nai Vanich Panananda

大藏省  
大臣 Phao Phierler Borihandh  
Yuddhakich 陸少將  
副大臣 Thier Kang-rodomying 空大佐  
代理大臣 Nai Vanich Panananda

外務省  
大臣 Nai V. Vichit-Vadakarn  
顧問 Prince Varvaidyakara

內務省  
大臣 Mongkon Phomyothi 陸中將  
副大臣 Adul Aduldej Charas 警中將  
副大臣 Nai Pra Samahar

司法省  
大臣 Thawal Thantong Nawasawasti 海大佐

文部省  
大臣 Prayoon Pannom-Montri 陸少將  
大臣代理 Nai Duen Bunng

交通省  
大臣 Chanoon Ratanakul Seriwongritthi 陸中將  
副大臣 Bung Subhajasaya 海大佐

國防省  
大臣 Field Marshal P. Phibulsonggram  
副大臣 Bijit Kriengsakdi Bijit 陸少將  
代理大臣 Swasti Swasti-Ronarong 陸少將

衛生省  
大臣 Chuang Chawungskadi Songgram 陸少佐



農務省

大臣 Sindhū Kamalanavh 海軍將  
副大臣 Nai Uthai Sarngmati

秘書官 總務長 Nai Kas m Sui chrochua  
次官 鹽務長 Nai Sadab Viraithra  
農務局長 Nai Chuang Re-Cha Ya  
漁業局長 Nai Chak Vachanal uga  
森林局長 Nai P. Srishti Yudhasip Pirayodha  
水利局長 Udomyodha Ratanvadi  
合作事業局長 Nai Vichan Panyawonja

商務省

大臣 Khuang Apaiwong 陸少佐  
副大臣 Mom Luang Deji Saitiwongse  
代理大臣 Nai Vanich Panananda

秘書官 總務長 Nai Charoen Panthara  
次官 鹽務長 Major Sawek Niranchara  
國外貿易局長 Nai Vanice Panananda  
國內貿易局長 Nai K. Mahaisavarya Sumbasiri  
情報局長 Nai Yol Samananda  
貿易局 總理局長 (長官)

工業省

大臣 Muni Malasandana Vejjiyant Rangrisit

秘書官 總務長 Nai Primit Klitasara  
次官 鹽務長 Nai Prasap P. Suthum  
工業局長 Mom Chao Rojuda Bisk  
工業副局長 Mom Lu ng Alhitan Junsai  
科學局長 Nai Prachuap Bumag  
礦山局長 Air-Vice-Marshal Serni Suranpradep

大藏省

大臣 Bhaū Phierlert Borihondh  
Yuddhichit 陸少將  
副大臣 Thier Kang-rodomying 陸大佐  
代理大臣 Nai Vanich Panananda

秘書官 總務長 Nai Vad Karnasut  
次官 鹽務長 Mom Chao Viwanjai  
財政局長 Nai Naob Baholyodhin  
中央會計局長 Nai Orn Bumag  
稅關局長 Nai Charoen Sols ung  
國稅局長 Nai Tienyen 陸少佐  
稅務局局長 Mom Chao Wimwadiya Rapipadana

外務省

大臣 Nai V. Vichit-Vadakar  
顧問 Prince Varnvaidyakara

秘書官 總務長 Nai Kusad Sucharitkul  
次官 鹽務長 Nai Siddhi Siddhi Sryamkar  
副次官 Chai Pradipassana 陸大佐  
儀典長 R. Riem-Vitajaphak  
駐英公使 Phra Manwedyā Vimolhant  
駐佛公使 Phra Bahiddha Nukara  
駐米公使 Mom Rajwong Seni Pramoj  
駐日公使 Nai Direk Jayanama  
駐緬公使 Major-General Prasasa Chuhin  
駐伊公使 Nai Phahita Nawaraj  
駐西貢總領事  
駐西貢領事  
駐三藩市領事  
駐三藩市副領事  
駐暹羅國公使 Major-General Vira Vira Yedda  
駐暹羅國公使 Major-General M. R. Jan. Satwongse  
東方局局長 Nai Visut Arthayukti  
西方局局長 Nai Sanga Nilkhameng  
經濟局局長 Nai Wung Binich Alsor

內務省

大臣 Mangkorn Phomyohi 陸中將  
副大臣 Adul Aduldej Ch 陸中將  
副大臣 Nai P. Ra Samahar

秘書官 總務長 Major Suwan Vaojo Nonda  
次官 鹽務長 Nai Chey Sunhorn Phiphit  
警視總監 Adul Aduldej Charas 陸中將  
土地局局長 Nai Phachung Thabienkitch  
內務局局長 Sarpian Ramnarong 陸大佐  
土木局局長 Nai Sa-Prang Devasthan Na Ayutthaya  
刑務局局長 Mongsri Klaksom 陸大佐  
檢察局局長 Nai Sict hi Chumnananda

司法省

大臣 Thawal Thantong Nawasawasi 海大佐

秘書官 總務長 Nai Swai Juthrapracha  
次官 鹽務長 Nai Khira R. Jayprabhit Thanchaurat

文部省

大臣 Prayoon Panat-Mutri 陸少將  
大臣代理 Nai Luon Bumug

秘書官 總務長 Nai Okhuti Pandhtravi  
次官 鹽務長 Nai Ti Trianasar  
宗教局長 Nai Saranprepan  
體育局長 Nai Chanlong Swasi Chuo  
大學教育局長 Nai Suchit Bhattraphidayo  
普通教育局長 Mom Luang Pim Malakul  
職業教育局長 Nai Sakich Nimmahachun

交通省

大臣 Churoon Ratanakul Seriroengritthi 陸中將  
副大臣 Bang Sahajanya 海大佐

秘書官 總務長 Nai Chet Salayajavin  
次官 鹽務長 Nai Chom Charutna  
運輸局長 Nai Sam J. itasathira  
港務局長 Para Bharsanud 海大佐  
郵便局長 Nai Vicharn Sawetravit  
道路局長 Mom Luang Tri Saitiwongse  
鐵道局長 Nai Chalaw Srisarakorn

國防省

大臣 Field Marshal P. Pitulsoonggram  
副大臣 Bije Kriengskai Bije 陸少將  
代理大臣 Swasi Swasi-Ronrong 陸少將

顧問部 顧問 Phat Mahaditok 陸少將  
顧問 Bungford Savollasath 海少將  
顧問 In Topananda 陸少將  
顧問 Muni Mahasandana Vejjiyant Rangrisit  
軍務局長 Bhaū Kesh-Sami  
副局長 Pan Chalichan Charn Songgram 陸大佐  
次官 鹽務長 Swasi Swasi-Ronrong 陸少佐  
副次官 Chivon Kajohn Nedyudha 陸少佐  
侍從武官 總務長 Kramol Jotk-sathira 陸大佐

衛生省

大臣 Chatur Chawwarskot Songgram 陸少佐

秘書官 總務長 Nai Siri Jatinandana  
次官 鹽務長 Nai Pal Vaidjakara  
醫學局長 Nai Nit Vaidist  
救濟局長 Li-Col. Chammug Bhunivet





## 比 律 賓

### 統計上より観たるフィリッピンの衛生一般

本稿はフィリッピン衛生局年報 (Annual Report of the Bureau of Health) (一九三八年) に據りその疾病の分布、蔓延状態を通じてフィリッピンの衛生状態一般を概観せんとするものである。

#### 一 概 説

##### 1 人 口

フィリッピンの人口は一九三八年六月一日現在で、基督教徒族、非基督教徒族を合はせて一千三百六十萬一千二百八十七人で、この中マニラ市は三十六萬五千八百五人であつた。

##### 2 出生・死亡

一九三八年中の不自然死亡数は二十六萬一千八百四十五人で、この中基督教徒族の死亡率は人口千人に對し二一・二九人に當る。これは既往五年間の平均死亡率二〇・五五人に對し、〇・七七人の増加である。幼児死亡率は千人に對して一三九・〇四人であり、これは既往五年間の平均死亡率一四六・二五人に比し七・二一人の低下となつてゐる。

出生数は五十一萬二千三百七十七人で、その比率は人口千人に對し四一・六七人である。これは既往五年間の出生率三九・九三人に比して一・七四人の増加となつてゐる。

3 主要なる流行性疾病

一九三八年中に流行の劇しかつた疾病はマラリア、結核性疾病、インフルエンザ、下痢症、小腸炎、氣管支炎、肺炎、赤痢、チブス等であつた。

一九三七年に比較し、死亡率が増した地方はアブラ、アグサン、アンテイケ、パタネス、バタンガス、ボホル、ブキドノン、ブラカン、カガヤン、カビデ、イロコスノルテ、イロコススール、ラグナ、ラナオ、ラ・ウニオン、マスバテ、ミンドロ、ミサミス・オクシデンタル、ミサミス・オリエンタル、ネグロス・オクシデンタル、ヌエバエシヤ、パンバンガ、リザール、スリガオ、タヤバスの各州及びマニラ市であつた。

二 特殊の傳染性疾患

1 肺結核

肺結核は依然として大量死亡の原因を爲し、總ゆる病型の肺結核が猖獗を極めた。罹患四萬六千七百十五人、死亡三萬六千六百四十七人と記録され、これは一九三七年の罹患四萬三千八百五十人、死亡三萬五千三百七十八人に對し相當の増加を示す。

これが對策として巡廻X光線班が特殊技術者を以て組成され、活躍を見せてゐるのであり、これはフィリッピンの結核の蔓延状態を系統的に探究することを目的とするのであるが、現在の所では學童及び官廳勤務員に及んでゐるに過ぎない。

2 マラリア

ブラカン、サンホセ、デルモンテ、ツエンコン、マンガルにある農地マラリア防退局の活動は既に定評のあるところのものであるが、愈々積極的にアノフェレス蚊の探究とマラリア防退に乗り出した。

またマラリア防退の三團體が結成され、夫々ラダナ州のサンバプロ、パンガシナン州のマングタレム、イサバラ州のカランに本部を置いて活動し始めた。

これらがマラリア防退の主眼として目指すところはアノフェレス蚊の幼蟲、原菌を濃度に持つ成蟲はもとより、その亞屬たるミニムス、ソネスタス蚊を根絶するにあり、蔓延地方の現患者に付いて驅除の對策を講じるにあるのである。

3 癩病

フィリッピンは「癩」の研究業績に付いては、その中心的位置を世界から認められてゐたもので、一九三八年中に於いてもキューリオン島癩患者收容所では愈々探究を進め、また特に癩の流行病的性質に關する重要な



研究がセブに於いて進められてゐる。

4 コレラ

コレラは一九三八年中にマニラ市及びその附近には一件も発生しなかつた。

5 天然痘

一九三八年十二月初旬、天然痘二件を発生し死者一名を出した。その最初のものは英籍汽船ハーテルブリー號でオクシデンタル・ネグロス州、バコロッドルへ航海中発生した。その罹患者はバコロッド州立病院に送られ同病院で死亡した。

第二のものは同じくハーテルブリー號がイロイロ港に碇泊中に発生したのである。直ちに嚴重なる防疫方法が講ぜられ幸に續發を見ることなくして終つた。

6 胃腸疾患

前年の一九三七年にはマニラ市及び其の他の四、五州に於いて主として幼児に、下痢、小腸炎の流行を見たのであるが、マニラ市其の他では直ちにその傳染系路の探究が行はれ防疫に努め來つた。

マニラ市及び各州に於ける一九三七年、一九三八年の罹患者數及び右に因る死亡者數は第一表、第二表の如くである。

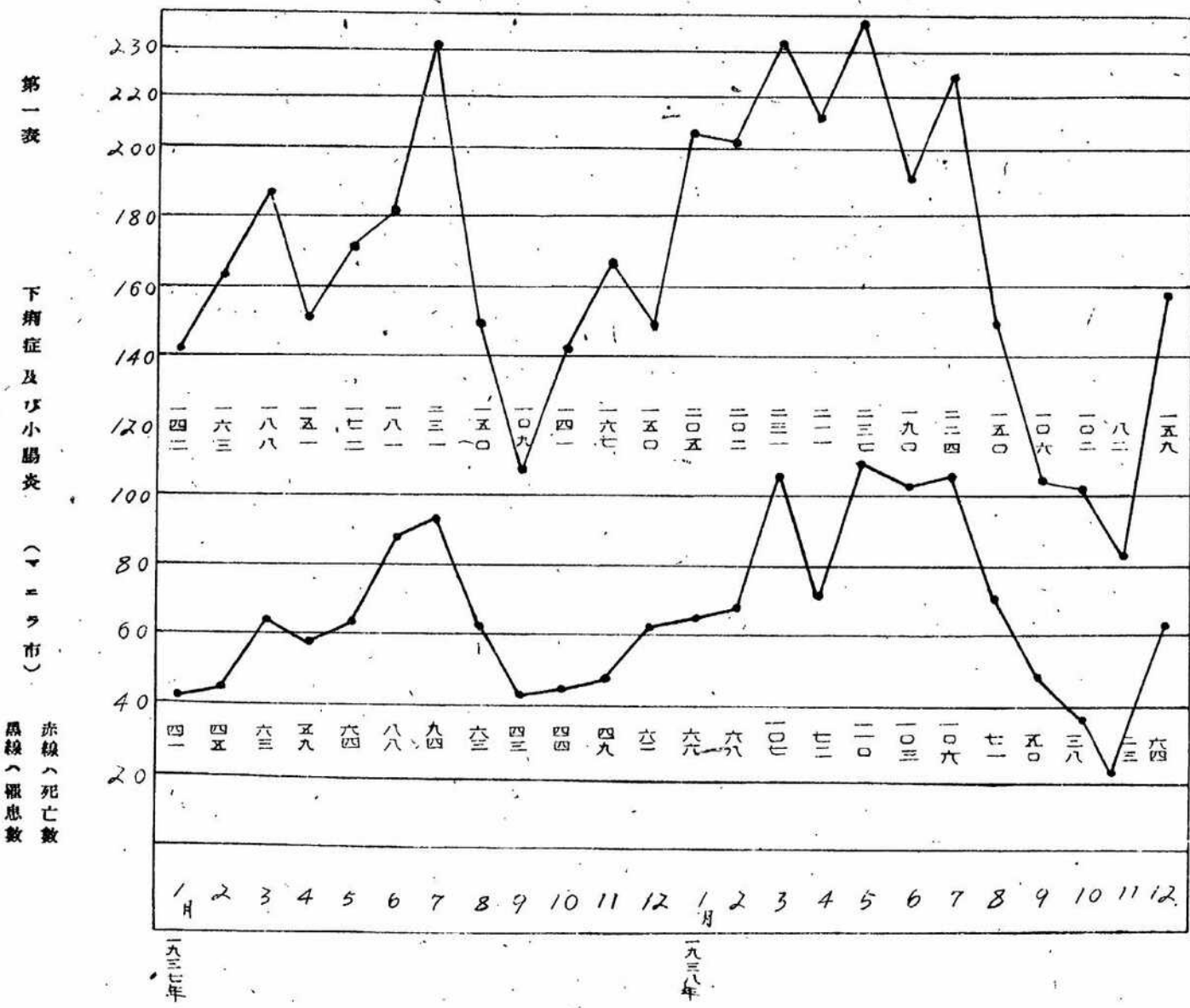
天然痘

一九三八年十二月初旬、天然痘二件を発生し死者一名を出した。その最初のものは英籍汽船ハーナルグリー号でオクシデンタル・ネグロス州、パコロワドルへ航海中発生した。その罹患者はハコロワト州立病院に送られ同病院で死亡した。

第二のものは同じくハーナルグリー号がイロイロ港に碇泊中に発生したのである。直ちに嚴重なる防疫方法が講ぜられ幸に續發を見ることなくして終つた。

6 胃腸疾患

前年の一九三七年にはマニラ市及び其の他の四、五州に於いて主として幼児に、下痢、小腸炎の流行を見たのであるが、マニラ市其の他では直ちにその傳染系路の探究が行はれ防疫に努め來つた。マニラ市及び各州に於ける一九三七年、一九三八年の罹患者数及び右に因る死亡者数は第一表、第二表の如くである。



裏面白紙

裏面白紙

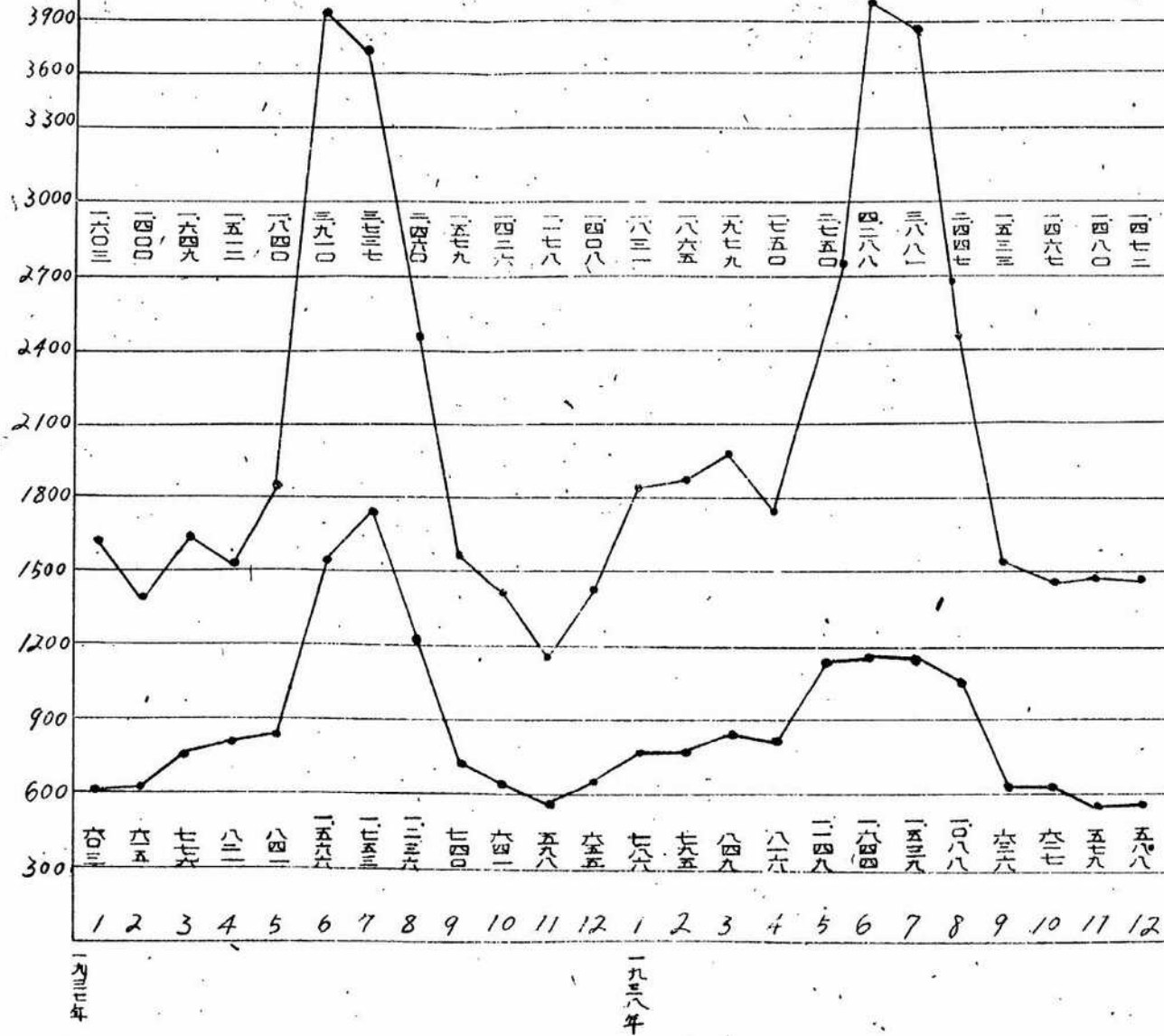
第二表

下痢症

小腸炎

(各州)

赤ハ死亡數  
黒ハ罹患者數



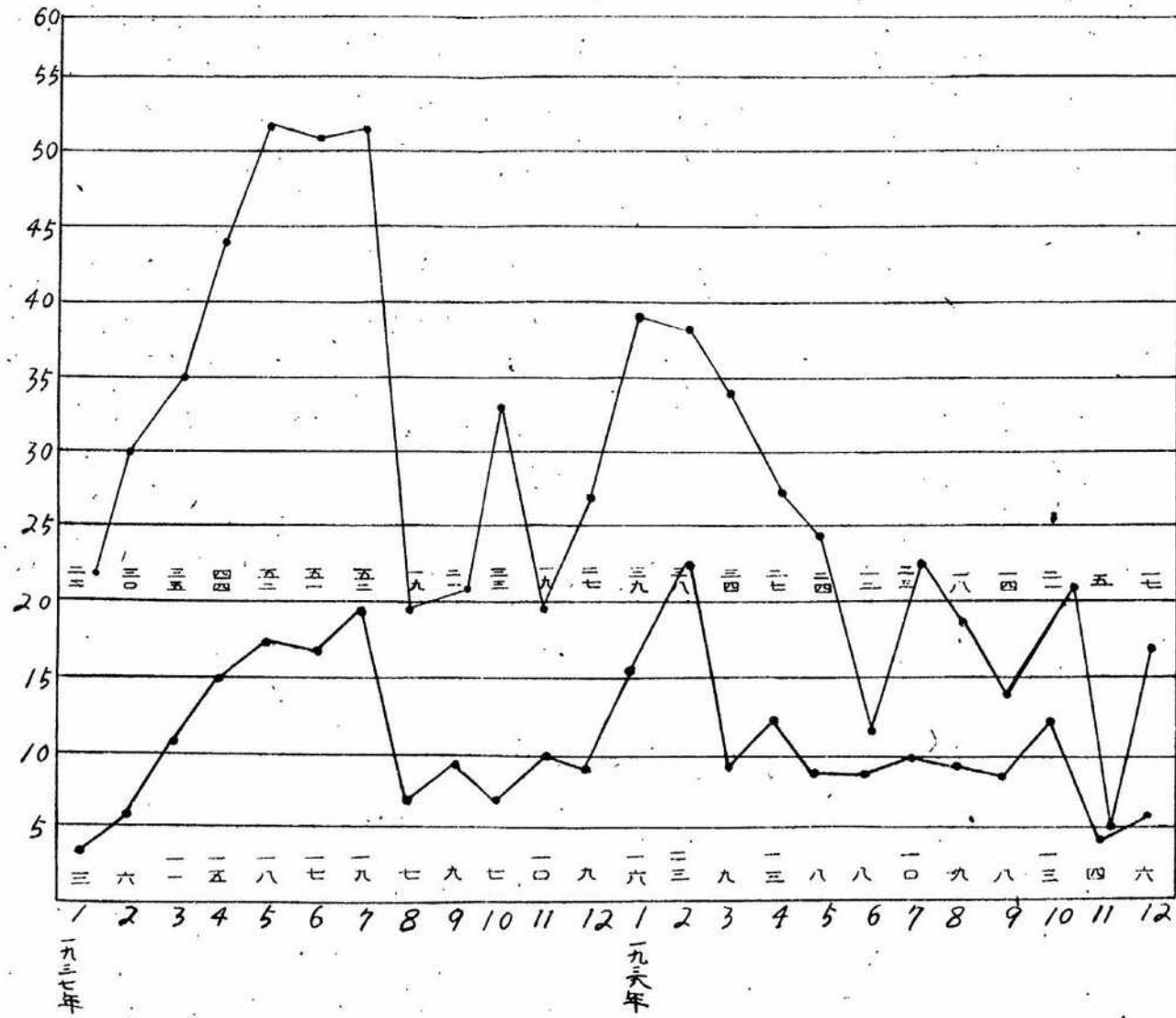
裏面白紙

第三表

赤痢

(マハラ市)

黒線ハ死亡數  
赤線ハ罹患者數

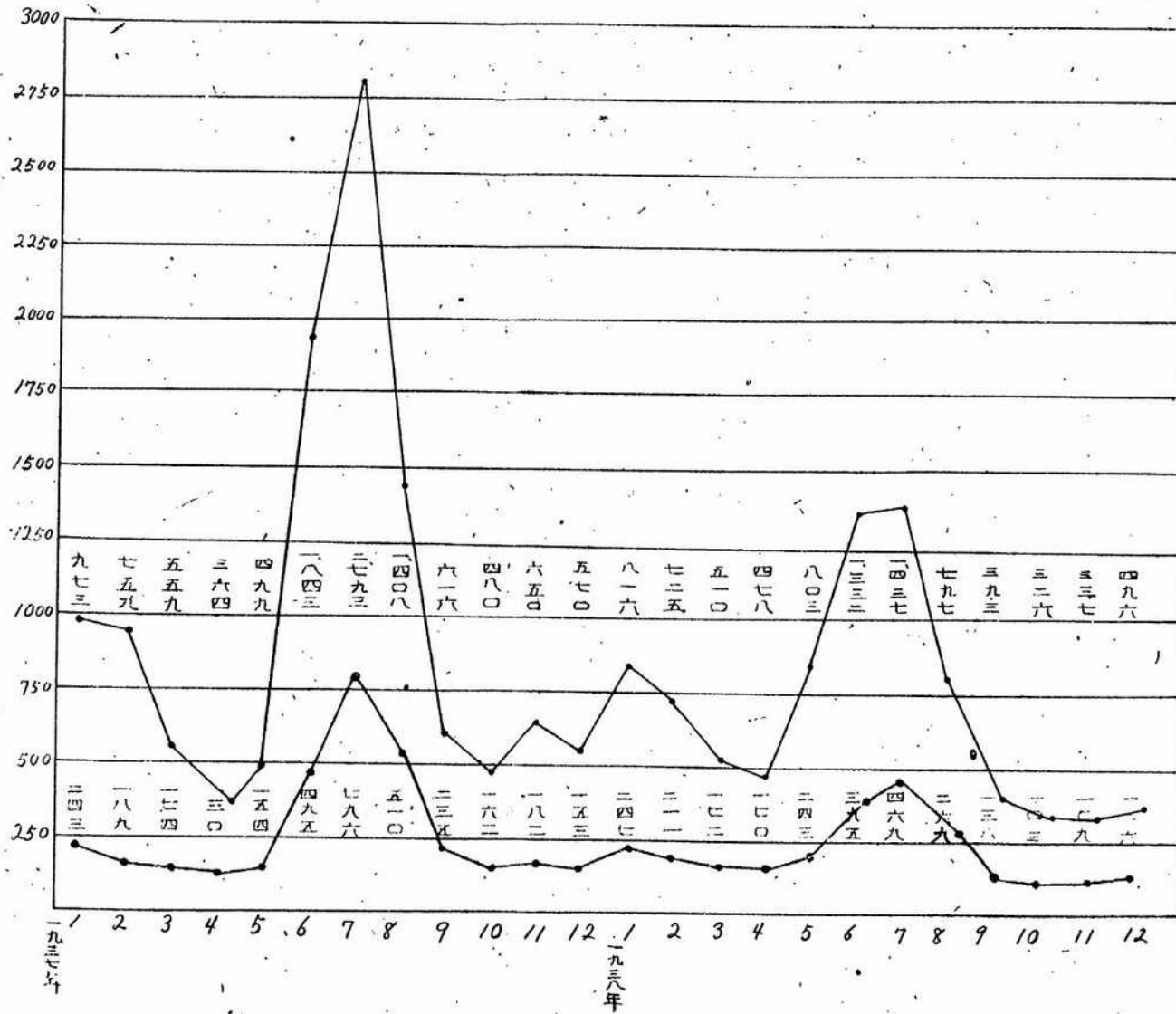




裏面白紙

第四表 赤痢 (各州)

赤痢死亡數  
黒ハ罹患數



7 赤痢

赤痢は突発的に各州に発生した。マサチューセッツ州カティンガン町では町の部落への侵入部に多数の患者が突発した。カビテ州のボンテベドラ及びソルソゴン州のプランに少数の発生があり、ともに二月と十二月とに発生したが直ちに終熄した。又ミンドロ州のアカソヤン、ルークの部落侵入部にも三月に発生を見たがあまり大したことなくて終熄した。その外にパンガシナン、レイテ、サマール、ブキドノン、ボホール各州にも六月、七月に小発生があつた。これらの発生は小桿状菌であつたことが實證せられた。

(第三表、第四表参照)

8 チブス

一九三七年のチブスは罹患が二千四百十二人で其の内死亡が一千六百六十六人であつたのに一九三八年には罹患が二千二百三十六人となり死亡が一千四十人となつてゐる。

傳染の原因は蛤、牡蠣、生野菜等の食物によるものが三二%及びこれと關係ある場合が八%である。

マニラ市に供給せらるゝ水は飲料用及び料理場用としては無害であると證明せられてゐたのであるが、各家庭の用水を試験した結果、二百件の中腸菌が八%あり、山手方面では三四・五%も發見せられてゐる。尙検査を進めると給水所に腐朽してゐる所があつたり糞き目が完全でない所が發見されたりしてゐた。

チブスはマニラ市では一年中発生を見てゐるが、最も多いのは季節的には八月、九月、十月の三箇月であり、地域的にはマニラ市の他で最も多いのはトンドの集團部落やサンタクルーズ、サンパロック、マラテ等で、既往五年間の平均よりも発生が多かつたのはアグサン、アルバイ、バタンガス各州で、ボホール、ブラカン、カマリネス・ノルテ、カビテ、セブ、バギオ市、ラナオ、山岳州、ネグロス・オクシデンタル、ネグロス・オリエンタル、リザール、タヤバス州等である。これらの州は平均数よりもすつと多く発生を見てゐるのであるが、夫等が特發的に発生したものであるとは報告せられてゐない。

(第五表、第六表参照)

#### 9 氣管支炎、氣管支肺炎、肺炎

是等の疾病は幼児、特に細民街や、密集住宅區、通風の悪い家屋、陽當りの悪い家、非衛生の地區や周圍、不潔な衣服、不適當の飲食を爲してゐる所に多い。

而も其等は此處數年來流行を見つゝあり、一九三八年に於いてはマニラ市及び各州ともに依然として流行したと云はれる。そしてこれらの疾病により一九三七年に於いては五萬七千六百六十九人の死亡を見たが、一九三八年に於いても亦總計五萬九千九百五十八人の死亡を見てゐる。(第七表、第八表、第九表、第十表、第十二表参照)

#### 10 インフルエンザ

本疾患はマニラ市では一年を通じて流行してゐる。そして四月と十月とを除くと毎月高低はあまり目だたない

往五年間の平均よりも発生の多かつたのはアタラン、アルバイ、バタンガス各州で、ボホール、ブラカン、カマリネス・ノルテ、カビテ、セブ、パギオ市、ラナオ、山岳州、ネグロス・オクシデンタル、ネグロス・オリエンタル、リザール、タバパス州等である。これらの州は平均数よりもずつと多く発生を見てゐるのであるが、夫等が特發的に発生したものであるとは報告せられてゐない。

9 氣管支炎、氣管支肺炎、肺葉炎

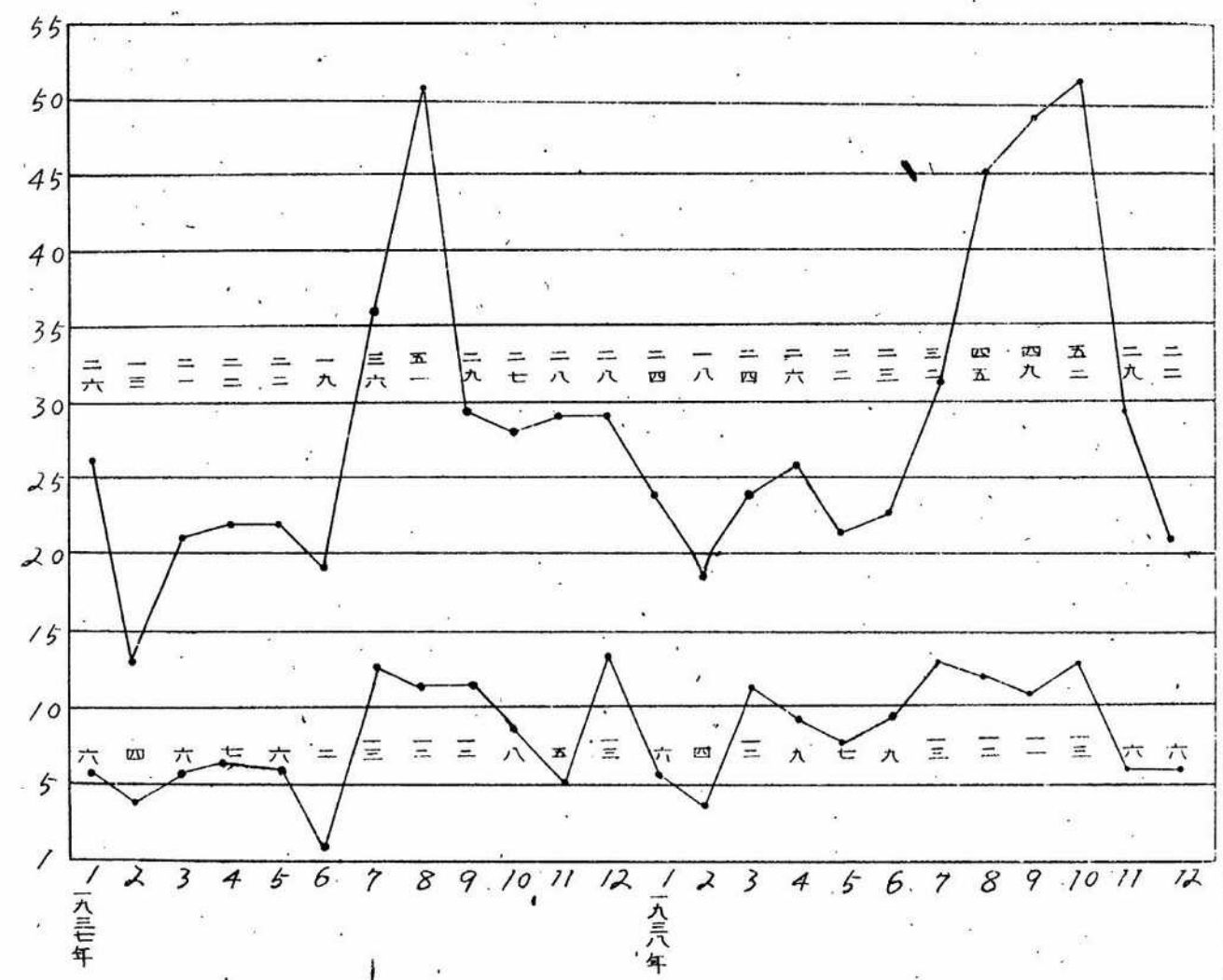
是等の疾病は幼児、特に細民街や、密集住宅區、通風の悪い家屋、陽當りの悪い家、非衛生の地區や周囲、不潔な衣服、不適當の飲食を爲してゐる所に多い。

而も其等は此處數年來流行を見つゝあり、一九三八年に於いてはマニラ市及び各州ともに依然として流行したと云はれる。そしてこれらの疾病により一九三七年に於いては五萬七千六百六十九人の死亡を見たが、一九三八年に於いても亦總計五萬九千九百五十八人の死亡を見てゐる。(第七表、第八表、第九表、第十表、第十一表参照)

10 インフルエンザ

本疾患はマニラ市では一年を通じて流行してゐる。そして四月と十月とを除くと毎月高低はあまり目だたない

第五表 チブス マニラ市 赤ハ死亡数 黒ハ罹患者數



裏面白紙



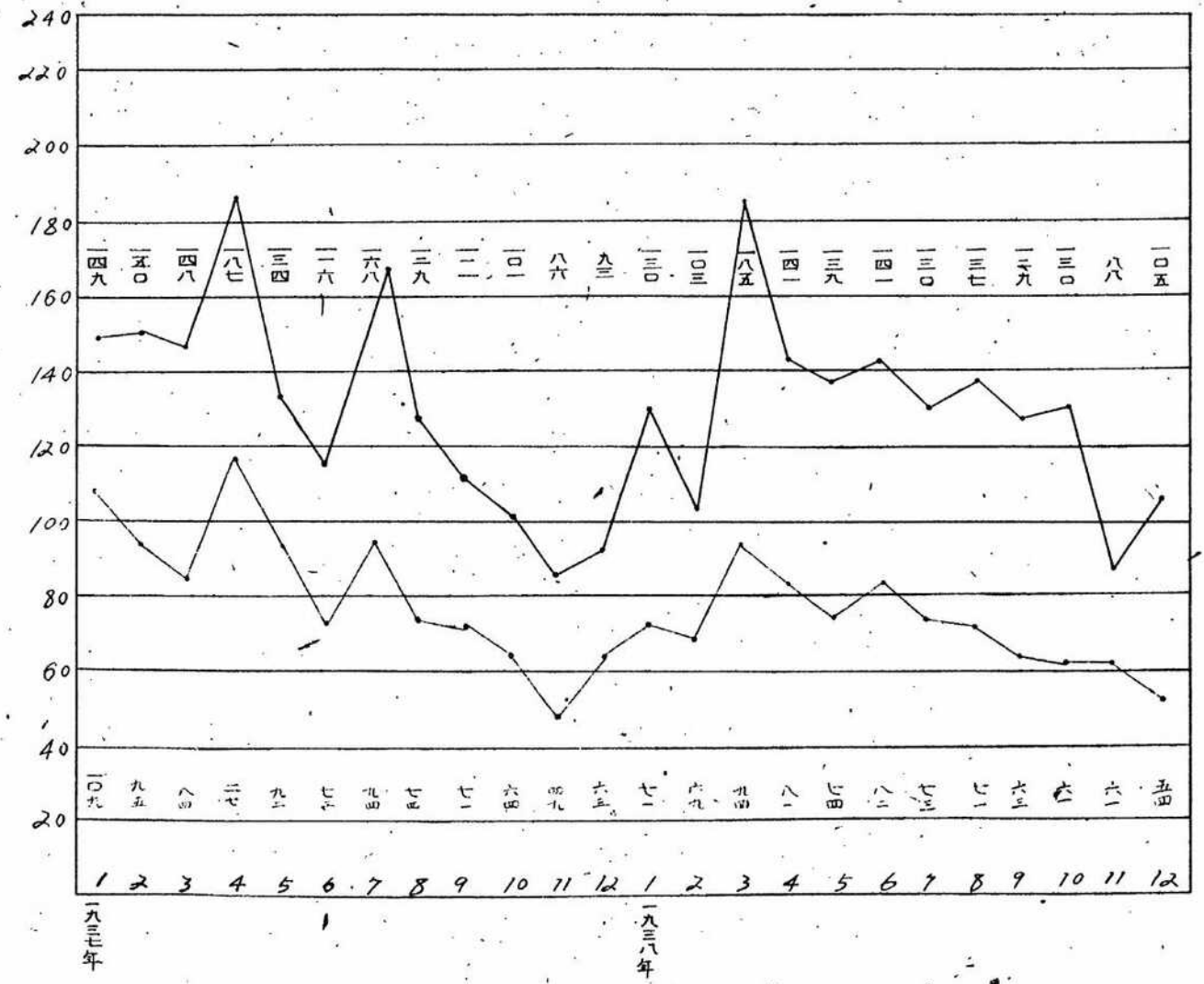
裏面白紙

第六表

チブス

(各州綜合)

赤ハ死亡數  
黒ハ罹患數

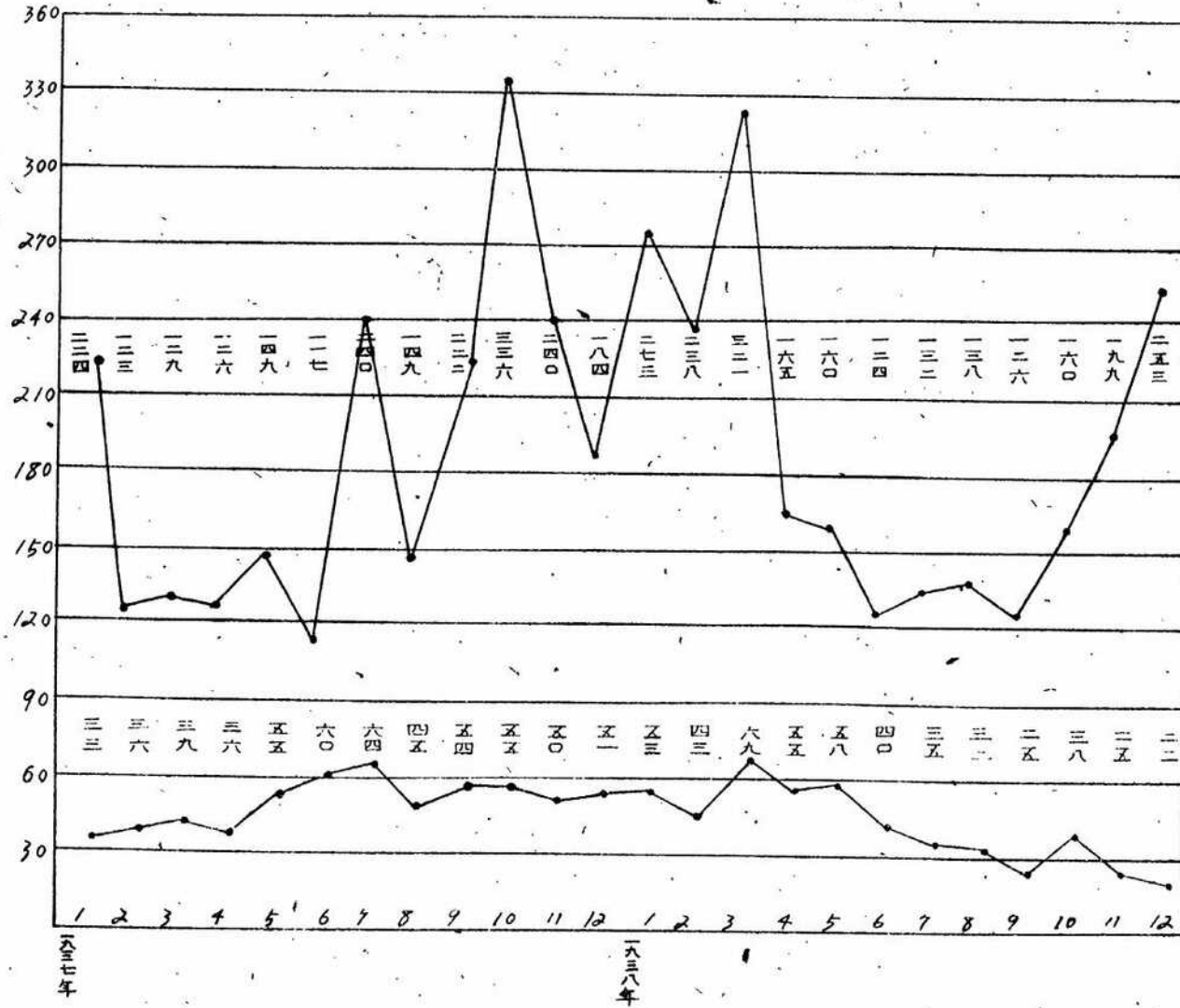


第七表

氣管支炎

(マニラ市)

赤ハ死亡數  
黒ハ罹患者數



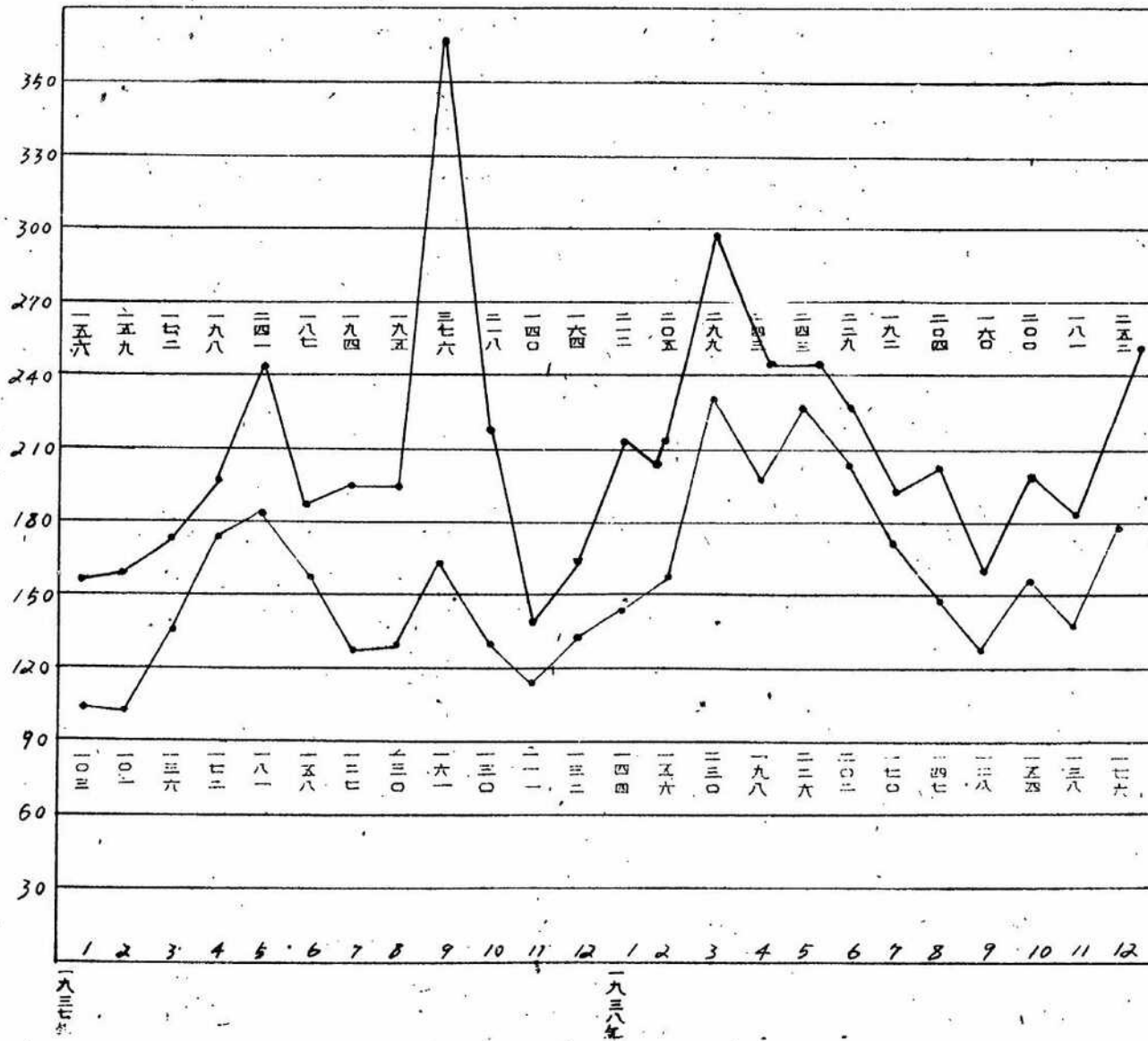
裏面白紙

第八表

氣管支肺炎

(マニラ市)

赤ハ死亡数  
黒ハ罹患数



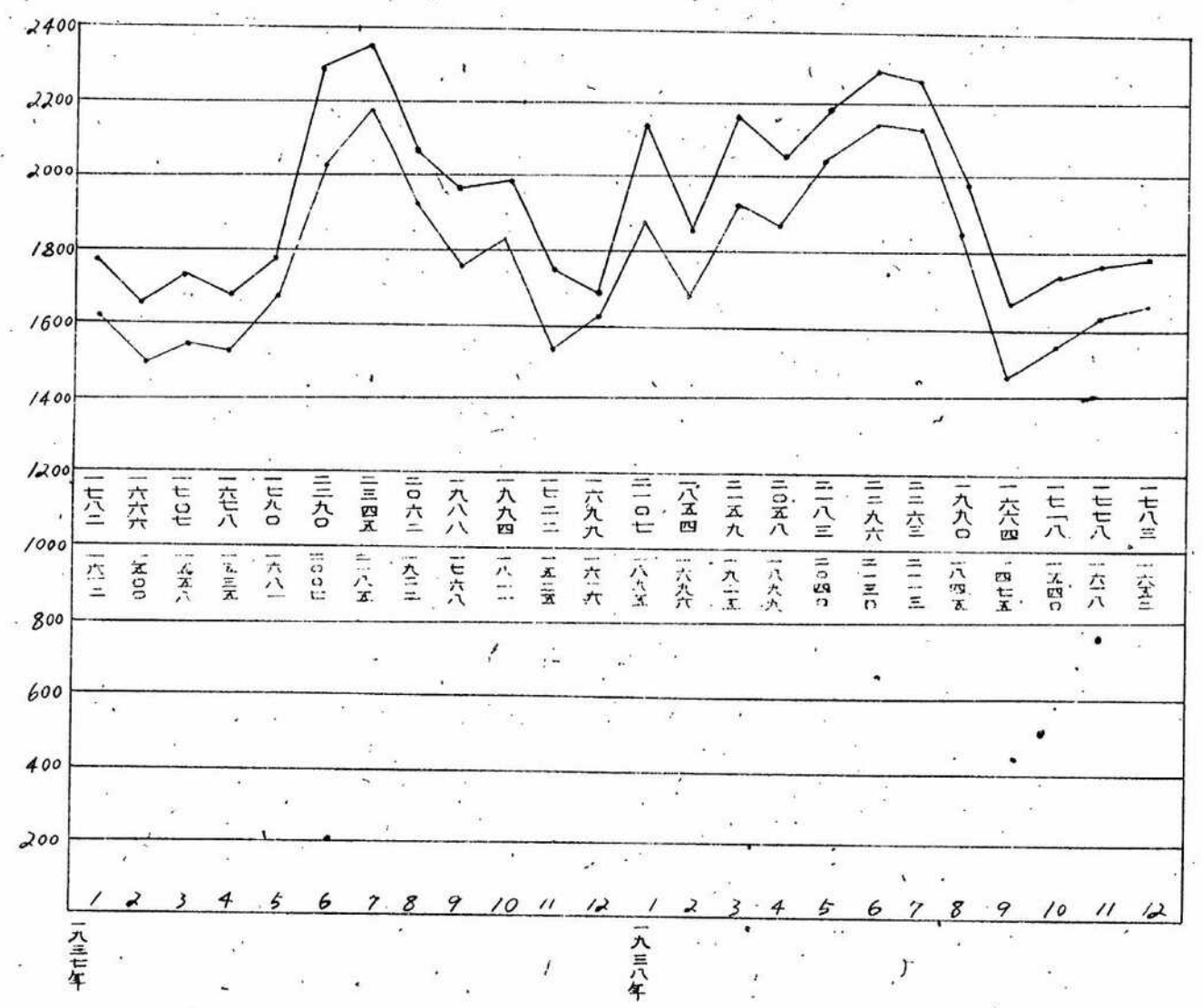
裏面白紙

第九表

氣管支肺炎

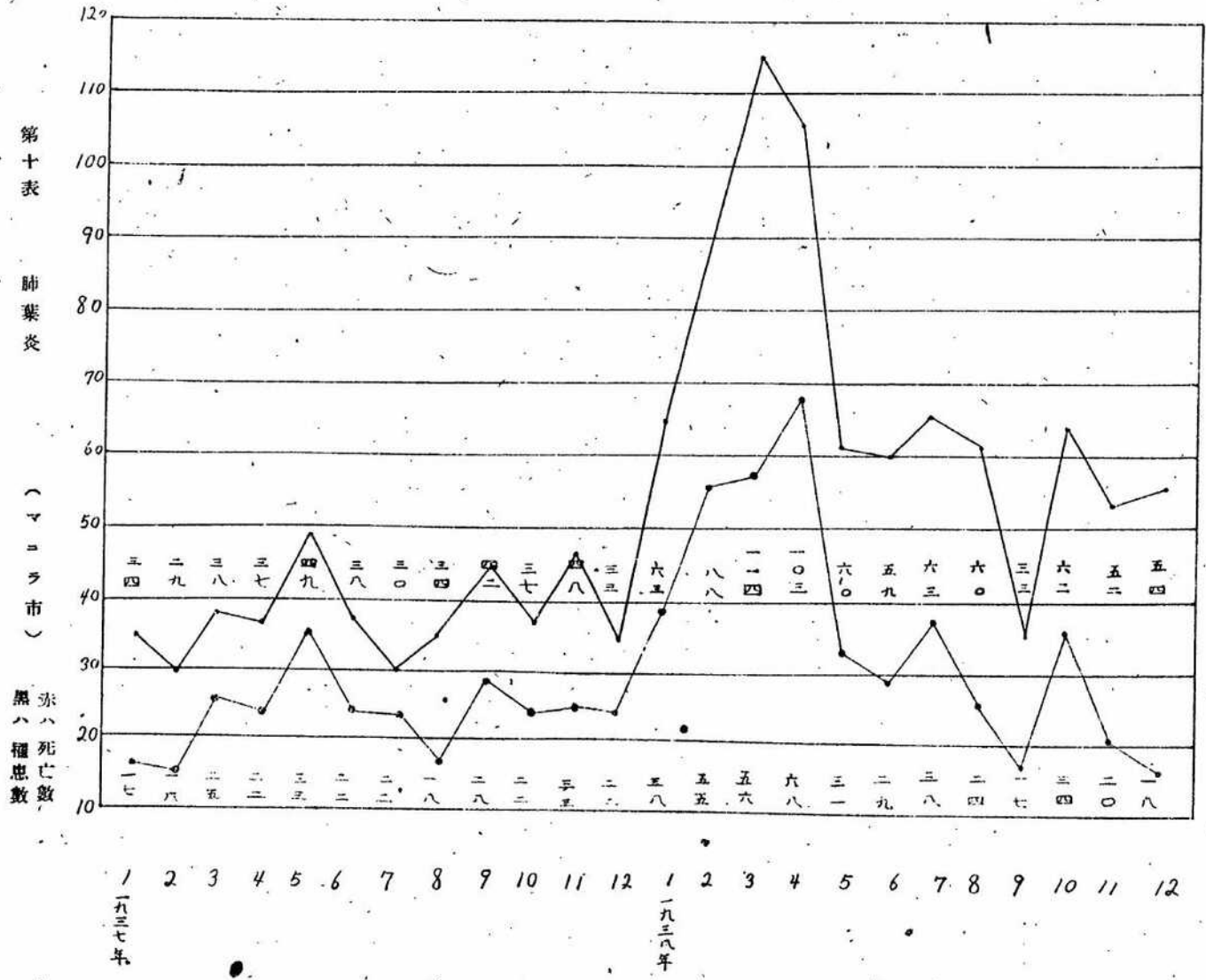
(各州綜合)

凍ハ死亡數  
黒ハ罹患者數





裏面白紙



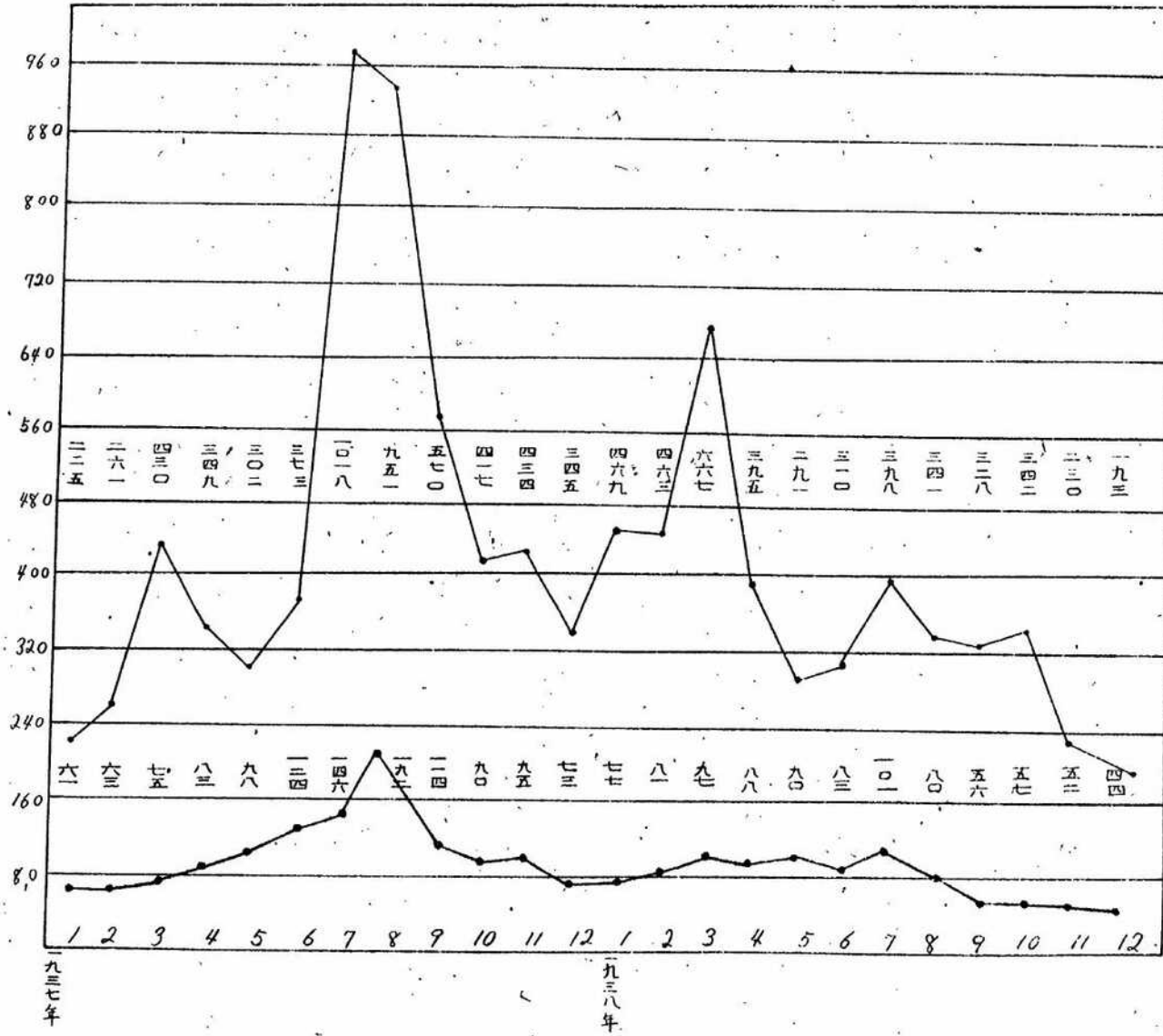
裏面白紙

第十一表

肺炎

(各州綜合)

赤ハ死亡數  
黒ハ罹患者數



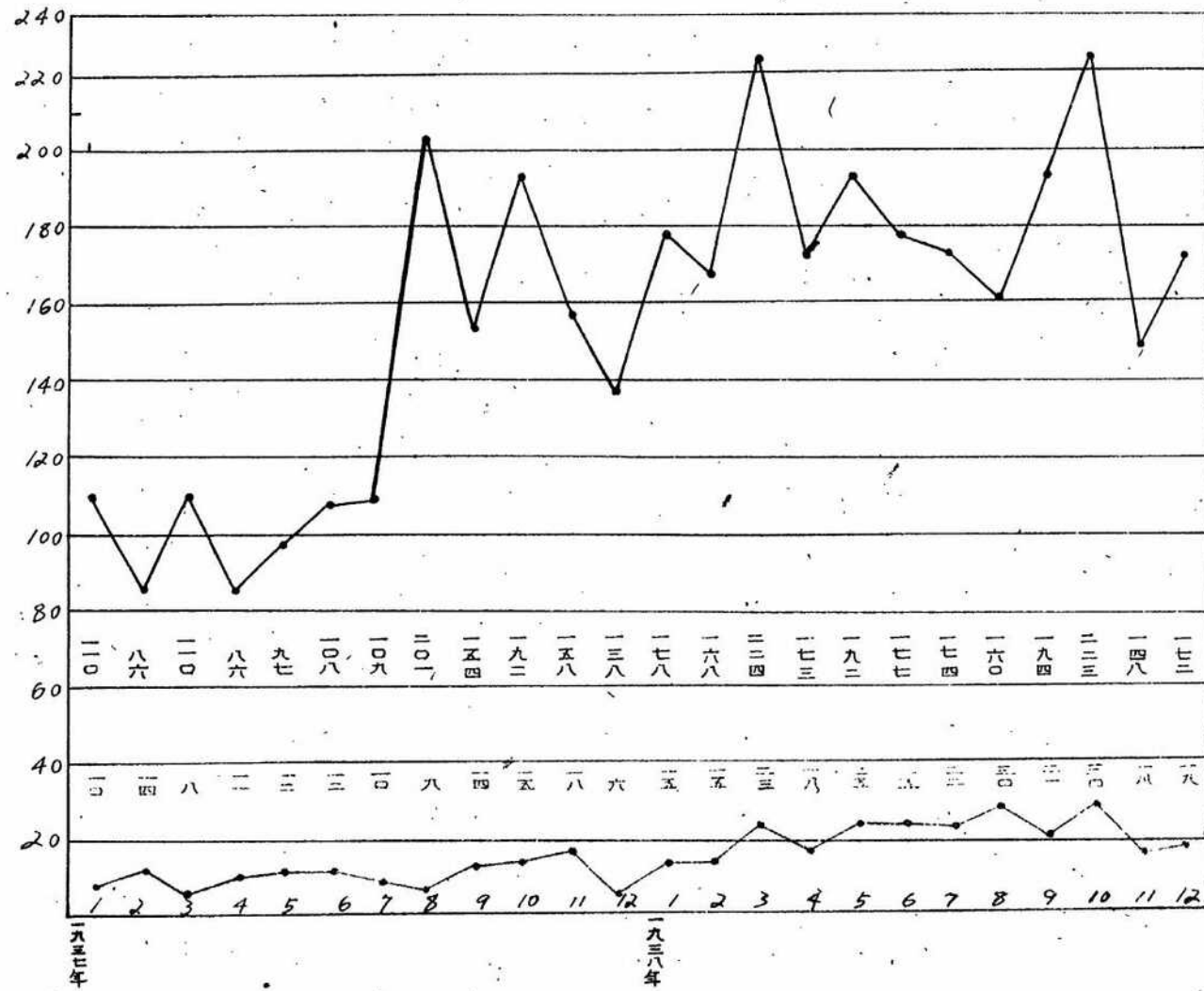
裏面白紙

第十二表

インフルエンザ

(マニラ市)

赤ハ死亡数  
黒ハ罹患者数



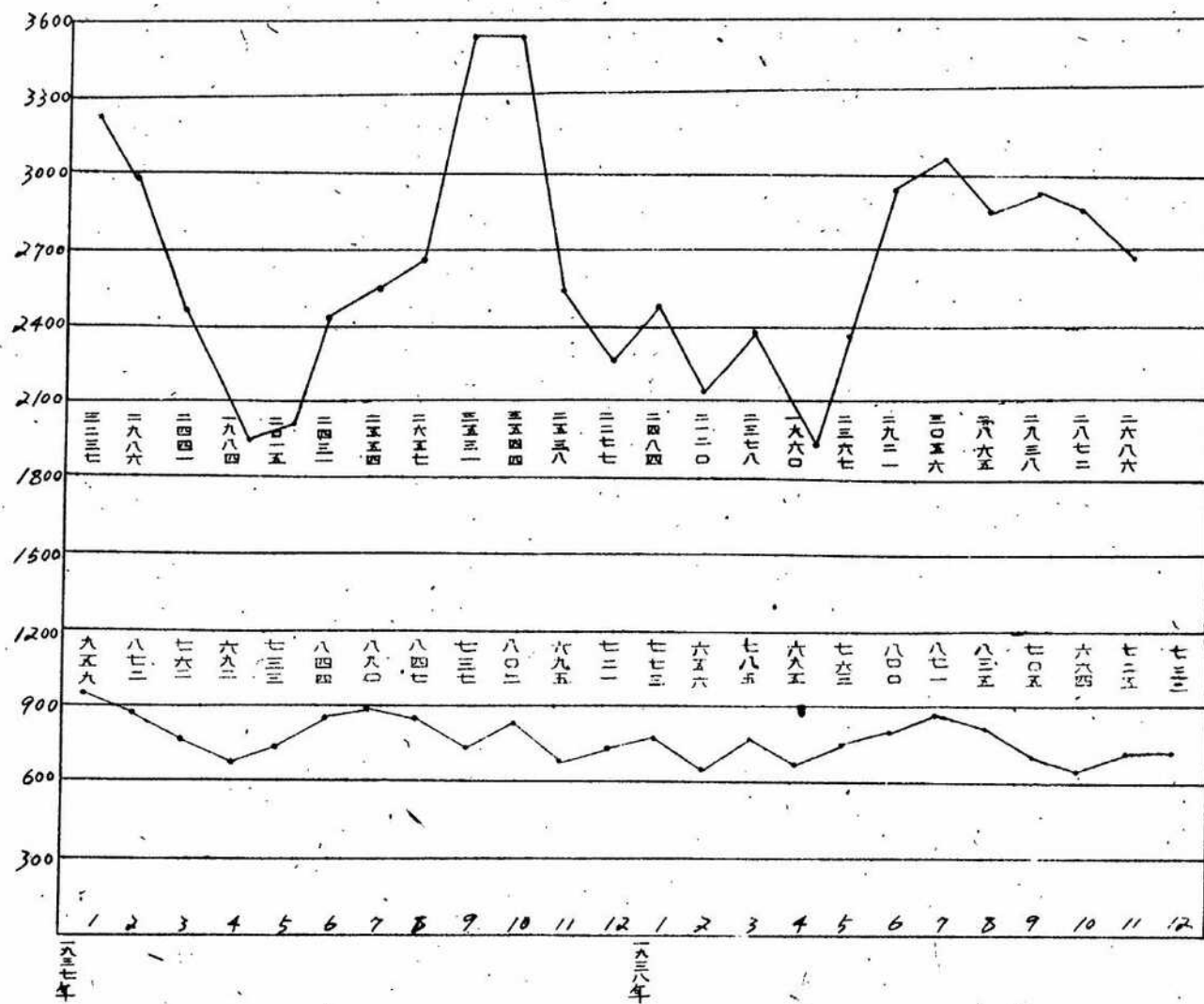
裏面白紙

第十三表

インフルエンザ

(各州総合)

赤ハ死亡数  
黒ハ罹患者数





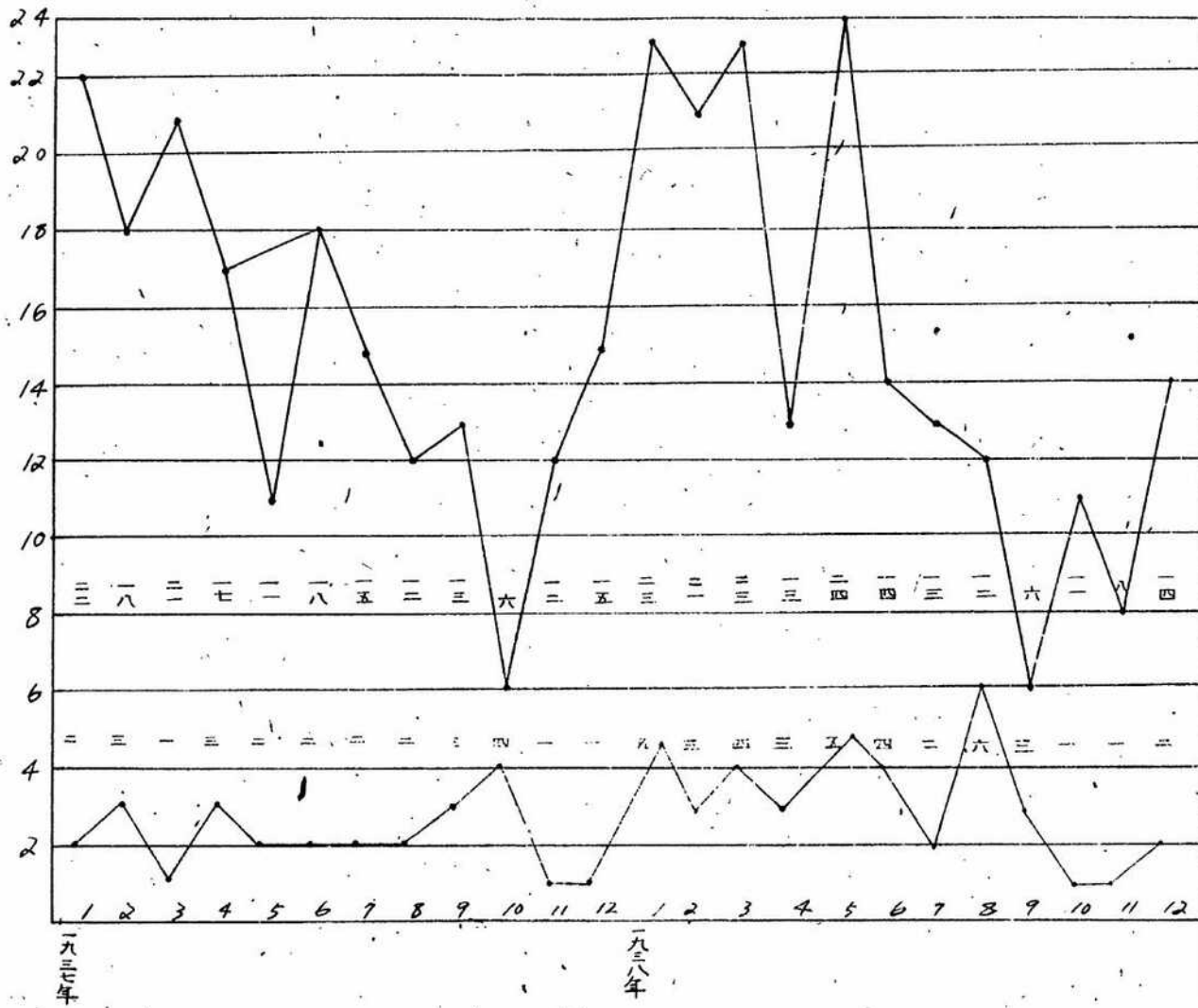
裏面白紙

第十四表

チフテリヤ

(マニラ市)

赤ハ死亡数  
黒ハ罹患者数



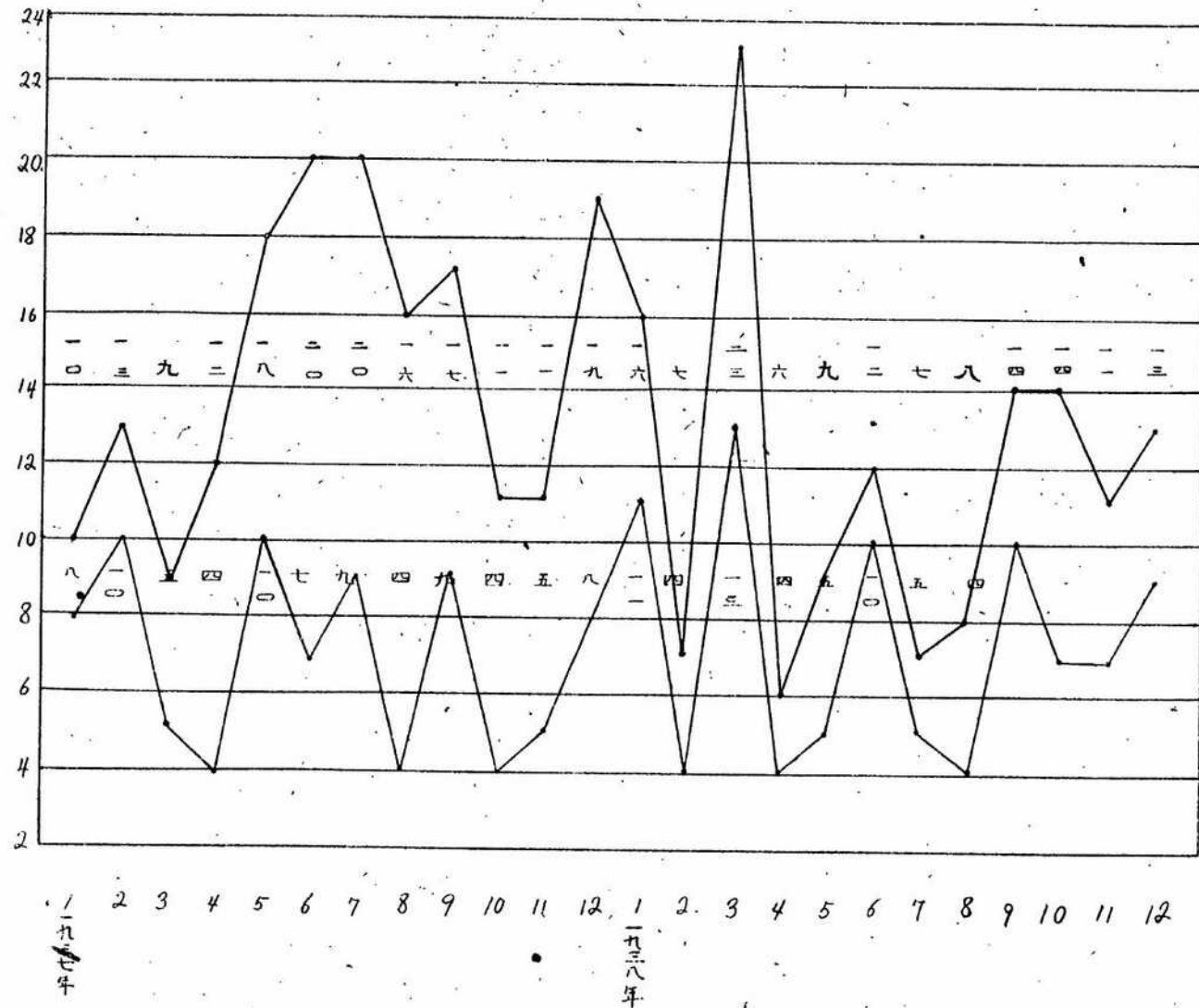
裏面白紙

第十五表

チフテリア

(各州総合)

赤線ハ死亡数  
黒線ハ罹患者

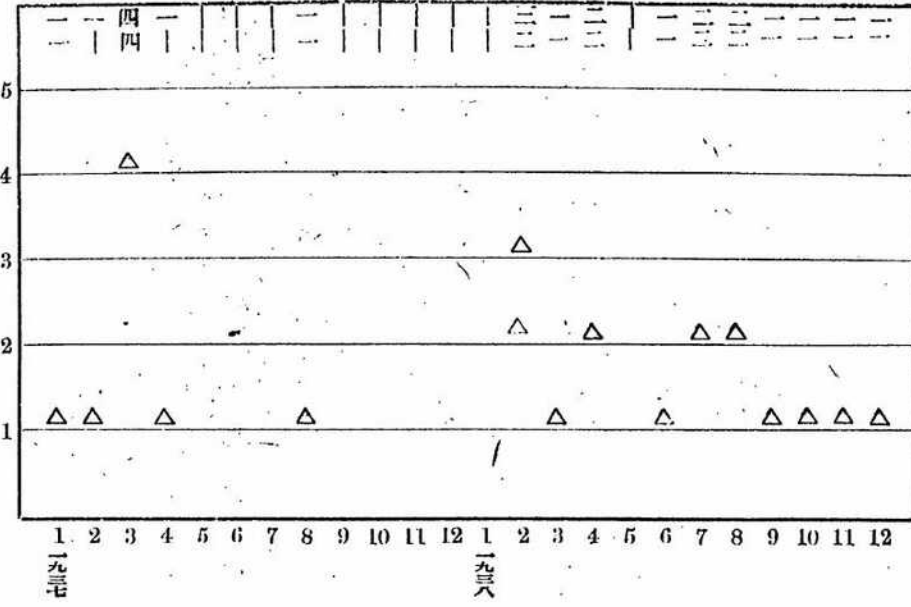




裏面白紙

第十七表 腦脊膜炎 (各州綜合)

赤ハ死亡  
黒ハ罹患





し、幼児に對しては死亡率が極めて高い。然し各州に於いては特に突發したといふ所もなく、アブラ、アルバ  
イ、ブラカン、カガヤン、カマリネス・スール、カマリネス、コタバト、イサベラ、ラグナ、ラナオマスバテ、  
ミンドロ、ミサミス、サンボアンガの各州では一九三八年度に於いては既往五箇年平均よりも多數に発生を見  
てゐる。又各州では結核性の氣管支炎を單にインフルエンザ症状として記録してゐることが多いと思はれる。  
(第十二表、第十三表参照)

#### 11 チフテリア

本病のマニラ市に發生するものは治療の手が行き届いてゐるので危険も極めて少いのであるが、遠隔の州で治  
療の及ばぬ所では危険率も高い。ミサミス・オリエンタル、タルラツク、タヤバスの各州では依然として多い。  
(第十四表、第十五表参照)

#### 12 腦脊髄膜炎

本疾患には季節的の増減といふものはなく、主として幼児に多い。(第十六表、第十七表参照)

#### 13 嗜眠性腦膜炎

本疾患は一九三八年度に於いて約二十名を數へ内十八名の死亡を見た。前年の一九三七年には二十六名の罹患  
で十六名の死亡を見たものである。  
マニラ市では一九三八年度罹患四名で死亡三名であつたが、一九三七年には罹患六名で死亡二名であつた。各

州では罹患計十六名、死亡計十五名であつたが、これらの州はアルバイ、ブラカン、カマリネス、ノルゼ、カビテ、セブ、コタバト、ラグナ、レイテ、スール、タヤバス等の諸州である。

14 百日咳

一九三八年度に於ける罹患は二千九百五十八名、死亡八百六十八名であつたが、前年度は罹患二千二百四十五名、死亡九百名であつた。本年度マニラ市に於ける罹患は二百二十五名、死亡四十七名である。(外来者は罹患三十一名で死亡五名)

本年度各州總計に於いては罹患二千六百七十二名、死亡八百十六名であるが、昨年度は罹患二千六百六名、死亡八百八十七名であつた。アルバイ、アンテイケ、ブラカン、カマリネス、スール、ダバオ、イロコス・ノルテ、イロコス・スール、イロイロ、ミンドロ、ネグロス・オクシデンタル、タルラックの各州は例年の平均よりも多かつた。本疾患はマニラ市及び各州ともに幼児の罹患が多い。

15 靜脈瘤

一九三八年度二月中にタルラック州パニクに發生し、罹患者三十六名を數へたが、幸ひに死者は無かつた。これはコフアンコ國民學校で小學生に罹患を見たものであり、その病型、症状は普通のものと同分相違してゐた。

(1938年)

		淋疾	瘰癧	下疳	合計
マニラ市	男	861	333	42	1,236
	女	1,251	208	2	1,461
各州計	男	226	88	3	317
	女	107	71	—	178

(1937年)

		淋疾	瘰癧	下疳	合計
マニラ市	男	1,010	148	34	1,192
	女	2,195	117	11	2,323
各州計	男	335	37	14	386
	女	260	20	10	290

第十八表

16 花柳病

マニラ市に於ける淋疾に犯されてゐる男の数は昨年よりは少なかつたが、梅毒に犯された男の数は昨年よりは多くなつてゐる。

各州に於ける淋疾に犯されてゐる男女の計は昨年よりは少なかつた。

(第十八表参照)

17 腫瘍

各州に於ける腫瘍の根絶のために一九三七年には二萬五千弗が費やされた。それによつて年内に活動した團體は二十一で、それらの團體は流行の猖獗を極めたアグサン、アルバイ、プキドノン、カマリネス・スール、カビテ、セブ、コタバト、ダバオ、ラナオ、レイテ(二團體)、マスバテ、ミンドロ、山岳州、バラワン、パンガシナン、ロンブロン、サマール、ソルソゴン、スール、サンボアング等の各州に設けられたのである。

一九三八年中に新患として治療を受けた数は三萬一千六百四十七で三七年の二萬五千七百二十三に比べて二三%の増加であるが、其の内二七・四%は少しく快方に向ひ五〇・五%は治癒し、一・八%は快復の見込なく、二〇・三%は不明である。本病は一九三七年度には二八・二%が少しく快方に向ひ、五九%が治癒し、三・二%が治癒の見込なく、九・五%が不明であつたと報告されてゐた。

それでは團體の活躍によるもの成績はどうかといふと、治療の結果、其の取扱つた分の二三・二%は少しく

決方に向ひ、五二・一%は快癒し、二・二%は治癒の見込がなく、二二・五%は不明であつたといはれる。

18 食物中毒

一九三八年中マニラ市で食物中毒に罹つた数は百四十一件であつたが、死亡者は無く、一九三七年中には六十六件で死亡者はなかつた。

各州を綜合すると、腐敗食物で當つた者は百七十七人を數へるが、その内サンボアンガ州では三名の死亡を見てゐる。此の食當りの原因は大平が腐敗した魚、罐詰物、チーズ、病毒に犯されてゐた燻製魚其の他によるので死亡の三名は他の重篤症が照れたからであつた。

19 脊髄灰白質炎

此の疾患は一九三八年中に流行を見た譯ではないが、マニラ市を加へて全島では十四箇所に發生を見たが、マニラ市では四件であつた。マニラ市では一九三七年にも四件の發生を見たものであるが全體を通じて死亡は一件も無かつた。

印度の資源 (附錫蘭島)

一 印度の産業、地理

二 印度の農業資源

- 1 米
- 2 小麦
- 3 棉花
- 4 黄麻
- 5 採油用種子
- 6 茶
- 7 烟草
- 8 砂斯
- 9 藍
- 10 阿片

11 果、産

三 印度の林業資源

四 印度の畜産資源

五 印度の水産資源

六 印度の礦産資源

- 1 鐵
- 2 石炭
- 3 マンガン
- 4 雲母
- 5 石油
- 6 金
- 7 其他
- 七 セイロン島
- 1 農産物作付面積



- 2 家畜頭数
- 3 鑛産高

## 印度の資源

### 一 印度の産業地理

印度は細長き等邊三角形を倒立した如き形をなした大陸で、北はヒマラヤの山系が東西に走つて互り數條の大  
山脈が層々相重なつて其の山脈の間にカシミール、ネパール、ブータンの諸國を抱き、南より北へ向つてだんだ  
んと高まり、西藏に連つてゐる。西北ではヒマラヤ山系の一支脈スライマン山系が、イラン高原との間を境し、  
東北ではアラカン山系が鬱蒼たる密林に蔽はれて、ビルマとの間を劃つてゐる。かくしてインドの北、東、西の  
三方は陸境約六千哩に互り世界的の大山脈に障壁せられて、アジア大陸の主體と隔離され、一の獨立の世界をな  
してゐるのである。

このヒマラヤ山地と南方のデカン高地とは、もとは離れて其の間に海を入れてゐたものであると云はれて居る  
が、ヒマラヤから流下する土砂が堆積して一大平原をなすに至つたもので、この平原はインダス、ガンジス、ブ  
ラマプトラの三大河によつて灌漑されてゐる。その沖積土は深さ三百米に及ぶといはれ、幅二百餘哩、長さ二千  
餘哩の坦々たる大平原なのであり、この平野こそは古代インド文化の中心舞臺で、現在でもインド人口の三分の  
二を養ひ、インド農産の三分の二がそこで生産されてゐるのである。この平原の南方はデツカン臺地で、これも

亦三角形をなし、北邊はヴィンデヤ、西邊は西ガット、東邊は東ガットの三大斷崖によつて圍まれた一大叢地をなしてゐる。西ガット斷崖は海拔千—千五百米で海岸に迫つて險しく聳立し、インド洋からの風を受けて豪雨を降らす。この海沿ひの狭い地帯はマラバールコーストと呼ばれる。東ガット斷崖は高度平均五、六百米で、ベンゴール灣との間のコロマンデル・コーストは比較的に廣い。この東、西のガットに圍まれるデツカン臺地の西部約五十萬平方千米は、厚さ約三百米乃至二千米の礫岩帯で、この礫岩の風化によつて出來た土壌が有名な棉花土壌で、こゝがインド棉花の饒多な生産地となつてゐる。有機質が多く鹽分も相當に含まれ、肥沃な點から農耕インドの寶庫の一つである。

又デツカン臺地は大體平坦な高原であるが河川によつて浸蝕された溪谷が多く、水に乏しい爲、サバンナ草原地帯をなしてゐる所が多い。

一 氣 候

氣候は必ずしも一樣ではないが、ヒマラヤ山地一帯を除けば比較的平板的に飄つてゐると云へる。即ち一年に涼期と暑期と雨期とが截然と分れてゐて、夏のモンスーンが農作の決定的支配力を持つ點が特色である。涼期は十一月から二月まで、南部はあまり涼しくはならないが、北部は朝夕火が懐しまれる程で、一般に無風で澄み切つた蒼空であり、小春日和の快適さなのである。暑季は三月から始まり四、五月と續く砂塵で大氣が

霞み、太陽が火の玉のやうに赤く見える。最も暑いのは北西部のバンジャツプからシンドにかけてであつて、この邊の暑さは總てのものが暑氣にうだつて人も獸も半失神の状態になつて仕舞ふ程なのである。六月に入ると有名な季節風が起る。この季節風即ちモンスーンはアラビヤ海方面では南西、ベンゴール灣方面では南東の方向をとる。このモンスーンは約三箇月間斷續し、時には豪雨をとまなひ、砂塵の荒野も一度に濁流漲る河流となるのであるが、若しこの季節が溫和で適當な雨量と風害なくして過し得るならば、インドは農作を興ひ得るのである。

二 面積、人口

インドの面積、人口を擧げると次の如くで、其の内に佛領及び葡領を少許づつ容れてゐるのは一見奇異の感を抱かせるが、それは過去の様相の今に残る歴史的經過の痕跡なのである。

面積 (單位方千米)	人口 (一九三一年國勢調査)
英領インド	四、〇七九、〇〇〇
英直接統治地	三三八、二二〇、〇〇〇
土 侯 州	二五六、八二〇、〇〇〇
セイロン島	八一、三二〇、〇〇〇
	六六、〇〇〇
	五、三二〇、〇〇〇



ブータン	五五、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
ネパール	一四〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇

二 農産資源

インド人口の約九割は農村に住み大地の子である。その土地は廣く、人は多いからインドは世界で一、二を争ふ農業國なのである。今その農産資源の主なる物に就いて各論すれば次の通りである。

1 米

米は大膽印度全耕地の三五%を占め、年雨量八〇吋以上の地域即ちガンジス河下流域、マドラス海岸地方を主たる産地とするのであるが、其の外にもパンジャブ等のやうな雨量四〇吋以下の土地でも灌溉設備を整へることによつて相當の栽培を行つてゐる。全體としては殆ど支那全體に匹敵する程の産額を持ち、全世界の米産額の約四割を占めてゐる。稻の生長率は驚くべきもので、二十四時間に六乃至八吋も伸び、播種後、三箇月以内で收穫し得るので、都合よくゆけば年に五回作も可能だとされるが、普通は秋の乾季に收穫し得るやう雨季の中頃に播種して年一回即ち一毛作で満足してゐる。

今一九三七—三八年度の耕作面積は英領のみで六千九百四十五萬エーカーであり、その産額は藩屬國を含め

て二千六百七十四萬噸であつた。

主要産地耕作面積、産額比率表

地域別	面積	産額	インド總産額に對する割合
ベンゴール	三三、一〇一、〇〇〇	九、〇三四、〇〇〇	三三・七九
ビハール及オリッサ	一四、六六二、〇〇〇	四、七六七、〇〇〇	一七・八三
マドラス	一〇、一四一、〇〇〇	四、八五〇、〇〇〇	一八・一四
聯合州	七、一五四、〇〇〇	二、〇一七、〇〇〇	七・五四
中央州	五、七六四、〇〇〇	一、五五二、〇〇〇	五・八〇
アッサム	五、〇五六、〇〇〇	一、四三五、〇〇〇	六・五三
其他英領	四、四七七、〇〇〇	一、三三八、〇〇〇	五・三七
藩屬國	一、三三八、〇〇〇	一、三三八、〇〇〇	五・〇〇

インドはビルマの分離せぬ前は世界一の米の輸出國であつたが、ビルマから分離した後は年々米の不足を來し、これを輸入に仰いでゐる仕末である。ビルマ分離前後のインド精米輸出状況を見ると次の如くである。

(一九三三—三四年の輸出状態を二〇〇とする)

年 度 輸 出 額 概 勢

一九三三—三四年	一、七三二、五三九	一〇〇・〇〇
一九三四—三五年	一、五九二、五三七	九一・九二
一九三五—三六年	一、三九三、六一五	八〇・四四
一九三六—三七年	一、四五七、〇三〇	八四・一〇
一九三七—三八年	二、二七、二六九	一三・一一

一九三七年にビルマがインドから分離した後には米の輸出は激減してゐる。このことは従来ビルマがインド米の大部分を占めてゐたことを如實に示してゐるのである。インドは多額の米を産出し乍ら国内に於ける人口に對する比率が甚だ高く、従つてこの需要に應ずるためにはビルマから移入することが必要なのであつた。即ちインド自體から考へて見ると自給が不可能なのであつて、この事實は次の精米輸出入額一九三七—三八年を對照すると感かなのである。

輸出額	再輸出額	輸入額	差引額
二、二七、二六九	五、七八九	一、一九八、〇六三	(一) 九六五、〇〇五

この表に示されてゐるやうに年約百萬噸の不足となつてゐるのである。而して米の輸入は殆どその全部がビル

マからの輸入であり、一九三七—三八年精米百十九萬八千六百三十三噸輸入する中、ビルマよりの輸入は百十九萬七千七百五十八噸であつたから輸入米の殆ど全部をビルマに依存してゐたわけである。

こゝにビルマの精米輸出上より見たるインド米穀の占める地位を示すと次の如くである。

年 度	ビルマ精米輸出總額	インドへの輸出額	インドの占める地位
一九三五—三六年	二、七七八、六九八	一、五七三、三五九	五五・六二
一九三六—三七年	二、七五六、五三一	一、五三三、八二九	五五・六二
一九三七—三八年	二、七七六、九七七	一、二六七、〇四九	四五・六二
一九三八—三九年	二、九二六、〇一〇	一、四七五、二七七	五〇・四二

即ちビルマの精米輸出の約五〇％はインドへ輸出されてゐたのである。

2 小 麥

小麥と大麥とは米とは反對に乾燥作物であるからバンジャブ及び聯合諸州の兩州が全産額の七割を占め、又デツカン豪地にも栽培されてゐる。米とは反對に、秋に播種し、二—四月に收穫する。カラチは世界有数の小麥輸出港で主として英本國に送られてゐたもので、これは自家消費が優先的に動くから、その豊凶によつて毎年の輸出額に著しい増減のあるのは免れない。



小麦はその耕作面積、米に次ぎ、全耕作面積の約一〇%を占めてゐる。一九三七—三八年の作付面積は二千六百六十三萬三千エーカーで收穫高は一千七十九萬四千トンであつた。これはロシア、支那、アメリカ合衆國に次いで世界第四位を占めてゐる。今、一九三七—三八年に於ける主要産地と收穫高を示すと次のやうである。

地域別	面積	收穫高	總生産額に對する割合
パンジャツブ	九、九四五、〇〇〇	三、七二四、〇〇〇	三四・五〇
聯合州	七、九五九、〇〇〇	二、七七七、〇〇〇	二五・七三
中央州及ベラール	三、三五七、〇〇〇	六七三、〇〇〇	六・二三
其他の英領	・五、三七三、〇〇〇	一、四六七、〇〇〇	一三・五九
藩屬國	—	二、一五三、〇〇〇	一九・九五
計	二六、六三四、〇〇〇	一〇、七九四、〇〇〇	一〇〇・〇〇

パンジャツブ、聯合州のみで總生産額の約六〇%を占めてゐる。尙パンジャツブ、聯合州及び西北國境州住民は小麦を主要食糧としてゐるが、その他の地方では小麦は主として輸出向耕作物となつてゐる。

一九三七—三八年に於ける小麦の輸出入額は次の通り

輸出額	再輸出	輸入額	差引額
四五九、八〇六	—	二二、六六八	(十) 四三八、二二八

右のやうに生産額千七十九萬噸に對し、輸出は僅か四十三萬噸であるから約千萬噸の小麥は殆ど國內消費に充てられてゐるわけである。

主なる輸出及び輸入國は次の通り。

輸出總額	輸入總額
四、五九、八〇六噸	二二、六六八噸
右の中イギリス本國 二九〇、二三七噸	右の中濠洲 一九、六四一噸
ドイツ 一四八、〇〇四噸	其他 二、〇二七噸
其他 二一、五六五噸	

3 棉花

棉花は米國に次いで世界第二位を占めて居る。近頃モヘンジョ、ダロから出土した織物が果して木棉であるとしたなれば四千年も前からインドでは木棉が使用されてゐたことになるのである。それはともかくとして、今から二百年前まではインドは世界の主たる棉産地なのであつたし、又世界最良の棉布の産地なのであつた。

主なる栽培地はボンベイ背後の黒土地帯で、そこでは在來種が栽培され、更にその南北の灌漑地では廣く改良種が栽培され、これらの改良種は全棉花耕地の二割に達するに及んでゐる。  
 一九三七—三八年の作付面積及び收穫高は英領のみでも一千五百三十五萬九千エーカー、三百七十一萬二千バレル、これに藩屬國を加へた收穫高は五百六十六萬バレルであつた。その主要産地の作付面積及び收穫高を示せば次の通りである。(一九三七—三八年)

地域別	作付面積	收穫高	總生産額に對する割合
中 央 州	四、〇四七、〇〇〇 <sup>エーカー</sup>	七一一、〇〇〇 <sup>バレル</sup>	二二・五六
ボムベイ	三、八六二、〇〇〇	七三四、〇〇〇	二二・九七
バンヂヤツプ	三、一三六、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇	二〇・二四
マドラス	二、五四六、〇〇〇	五〇四、〇〇〇	八・九〇
シーンド	九七〇、〇〇〇	三五四、〇〇〇	六・二五
其の他の英領	七九八、〇〇〇	二六九、〇〇〇	四・七五
土 侯 國	—	一、九四八、〇〇〇	三四・四二
總 計	一五、三五九、〇〇〇	五、六六〇、〇〇〇	一〇〇・〇〇

インドは従來棉花の大部分を輸出し、棉花はインド輸出貿易品中の最たるものであつたが、近年はインドの工業化に伴ふ纖維工業の發達により棉花の輸出は減少し、反つて棉花の輸入が増大しつゝある。また従來重要輸入品たる綿製品の輸入が減じ、輸出が増加の傾向にあることは注目に値する。  
 最近に於ける棉花、綿製品の貿易趨勢を示すと次の通りである。

年 別	輸 入		輸 出	
	輸 入 額	趨 勢	輸 出 額	趨 勢
一九三三—三四年	四二、八九六	一〇〇・〇	五〇三、七二〇	一〇〇・〇
一九三四—三五年	六〇、五六四	一四一・二	六二二、二七六	一一三・七
一九三五—三六年	七六、四八七	一七八・三	六〇六、五三六	一一〇・四
一九三六—三七年	六四、九八八	一五一・五	七六二、一三三	一一一・三
一九三七—三八年	一三四、四五九	三二三・五	四八七、七六四	九六・八

棉製品 (趨勢一九三三—三四年を一〇〇とする)



年 別	輸 入		輸 出	
	輸入額	趨勢	輸出額	趨勢
一九三三—三四年	一七七,四三四,〇〇〇	一〇〇・〇	二七,二六三,〇〇〇	一〇〇・〇
一九三四—三五年	二二七,六一八,〇〇〇	一二三・六	二六,四八〇,〇〇〇	九七・一
一九三五—三六年	二二五,五三五,〇〇〇	一一九・二	二九,二七二,〇〇〇	一〇七・四
一九三六—三七年	一七四,八三〇,〇〇〇	九八・五	三七,八四三,〇〇〇	一三八・八
一九三七—三八年	一五五,五二八,〇〇〇	八七・七	九二,九三〇,〇〇〇	三四〇・九

日本は支那事變以來、關プロック以外よりの輸入を制限した爲、印棉の輸入は次第に減少を示してゐる。

年 別	輸入額	趨勢
一九三六—三七年	二,三三四,〇〇〇	一〇〇・〇
一九三七—三八年	一,三三九,〇〇〇	五八・三
一九三八—三九年	一,二二二,〇〇〇	五二・八九

印棉の輸出先は日本が第一位で、約五〇%を占め、イギリス本國が之に次ぎ約一五%を占めてゐた。

一九三七—三八年 一九三八—三九年

輸 出 總 額	四九〇,四二六噸
日 本	二二六,二五一
イギリス本國	七三,三九三
其 の 他	一九三,〇三六

インドの紡績業は最近は非常な發達を遂げ、その製品は年々増加してゐるが、それが殆ど國內に於いて消費せられ國外への輸出はその一部である。

年 別	總生産額	輸 出 額
一九三六—三七年	三,五七二,〇〇〇	一九〇・九
一九三七—三八年	四,〇八四,三	二四一・二
一九三八—三九年	四,二六九,三	一七七・〇

印棉は概して短纖維であり、その繰棉は米棉、埃及棉に比し纖維短く、粗悪であるため高級番手綿布生産には不向である。だから使用に當つては米棉、埃及棉のやうな長纖維のものを混用使用することが必要とされてゐたのである。

インド紡績業發達のためにも、棉花自給化のためにも、長纖維棉花は必要とされる。それがため近年は印度當

局も土着品種の改良及びエーカー當り收穫高の増加に努力し、又外國品種、特に長纖維棉花の移植等に最善の努力を拂ひつゝあつたものである。

4 黄 麻

最も廉價で質が粗剛なる纖維として黄麻は纖維作物中に重要な位置を占めてゐるのであるが、インドはこの黄麻の世界唯一の生産國なのである。ガンジスの三角洲地帯が最適地とされ、三月に播種し十月至十四呎に伸びたものを八月に刈取るもので、棉花、珈琲、穀物等の糞、軍用用の土糞等、用途の極めて廣いものである。その耕作地はベンゴール州のガンジス、アラマプトラ河のデルタ地帯、アッサム州及びオリッサ州等の諸地方に限定されてゐる。これらのデルタ地帯は、その土壌が河川の氾濫による沖積物のために肥沃化し、施肥の必要がなくて相當量の收穫を挙げ得るところに、この作物栽培の特長があるのである。

最近インドの黄麻工業は紡績等と共に急速に進歩し、黄麻製品の輸出は黄麻そのまゝの輸出よりも増大して來たのであるが、この傾向は今次の大戦によつて愈々顕著せられ、黄麻製品の輸出は棉花を凌駕し、インド輸出品中の第一位を占むるに至つた。

最近における黄麻及び黄麻製品の輸出の傾向を示し棉花との比較を表示すれば次の通りである。

年 別	輸 出 額	黄 麻 趨 勢
一九三三—三四年	一〇九、三三四、〇〇〇	一〇〇・〇
一九三四—三五年	一〇八、七一一、〇〇〇	九九・〇
一九三五—三六年	一三七、〇七六、〇〇〇	一二五・四
一九三六—三七年	一四七、七一〇、〇〇〇	一三五・一
一九三七—三八年	一四七、一九〇、〇〇〇	一三四・六
一九三八—三九年	一三四、九六七、〇〇〇	一二三・五
一九三九—四〇年	一九九、四六二、〇〇〇	一八二・四
	輸 出 額	黄 麻 趨 勢
一九三三—三四年	二二三、七四九、〇〇〇	一〇〇・〇
一九三四—三五年	二二四、六八三、〇〇〇	一〇〇・四
一九三五—三六年	二三四、八九五、〇〇〇	一〇九・九



一九三六—三七年	二七九、四七五、〇〇〇	一三〇・七
一九三七—三八年	二九〇、七七六、〇〇〇	一三六・〇
一九三八—三九年	二五七、九九九、〇〇〇	一二〇・七
一九三九—四〇年	四七九、〇五八、〇〇〇	二三四・一

輸出額 棉花 趨勢

一九三三—三四年	三七五、二七四、〇〇〇	一〇〇・〇
一九三四—三五年	三四九、五三六、〇〇〇	一二七・〇
一九三五—三六年	三三七、七〇三、〇〇〇	一二二・七
一九三六—三七年	四四四、〇九九、〇〇〇	一六一・三
一九三七—三八年	二九〇、二九七、〇〇〇	一〇五・五
一九三八—三九年	二三八、五八九、〇〇〇	八六・七
一九三九—四〇年	三〇一、一一七、〇〇〇	一〇九・四

前二表の對比によつて明かな如く、棉花に比し黄麻及び黄麻製品輸出の増大率が近年著しく顯著となり、特に

黄麻製品はその倍額以上となつてゐることが判る。黄麻の主要輸出國を示すと次の通りである。

國 別	一九三七—三八年	總額との比率	一九三八—三九年	總額との比率
イギリス本國	一四五、〇〇〇	一九・四一	一八一、〇〇〇	二六・二三
ドイツ	一四三、〇〇〇	一九・二四	一三三、〇〇〇	一九・一三
フランス	六五、〇〇〇	八・七〇	七六、〇〇〇	一一・〇一
其の、他	三九五、〇〇〇	五二・七四	三〇一、〇〇〇	四三・六二
計	七四七、〇〇〇	一〇〇・〇〇	六九〇、〇〇〇	一〇〇・〇〇

5 採油用種子

採油用種子もインドの特産であり、又重要輸出品である。インドの採油用種子は、亞麻仁、落花生、菜種、胡麻、蓖麻等であつて、一九三七年—三八年に於ける作付面積及び産出高は、一千六百九十八萬五千エーカー、五百四十六萬七千噸であつた。亞麻仁は聯合州、中央州、落花生はマドラス、ボムベイ兩州、菜種は聯合州、ベンゴール、ビハール諸州、胡麻はマドラス、ベンゴール各州等が主要産地である。

インドの採油種子の中、亞麻仁は輸出向けに栽培されてゐるのであつて、菜種、胡麻は食用油として國內に消費せられてゐる。これらの一九三七年—三八年生産額に對する輸出は菜種約三%、胡麻は〇・六%の低率で

ある。落花生は近年著しい発展を示し、一九三七—三八年の輸出は生産額の約一八%に過ぎないが、採油用種子輸出の筆頭である。

一九三七—三八年に於けるインド主要採油用種子の生産額、輸出額を示すと次の通りである。

品別	生産額	輸出額	生産對輸出比率
亞麻仁	四五七、〇〇〇	三二七、〇〇〇	三、五、六八〇、〇〇〇
茶種	一、〇一一、〇〇〇	三三、〇〇〇	四、六四三、〇〇〇
胡椒	四四九、〇〇〇	三、〇〇〇	六三二、〇〇〇
落花生	三、四三六、〇〇〇	六一九、〇〇〇	八、九三三、〇〇〇

一九三七—三九年に於けるインド採油用種子輸出總額は九十五萬一千噸、一億四千八百八十六萬四千九百一十噸であつた。その主なる輸出國はイギリス本國約三九%、オランダ約一六%、ドイツ約一二%、イタリア約一三%である。

6 茶

茶は米と共に東亞の原産であり、多量の雨を要する點からして、東亞に獨占されて栽培されてゐると云つても過言では無い。世界市場への商品としては一八五〇年までは支那が獨占してゐたのであるが、今ではインドと

セイロンがその半を占めるやうになつた。アッサム地方はその雨量が世界一と記録されてゐるのであるが、こゝは茶樹の總園であつて、七、八十呎にも及ぶ野生茶樹があり、丘陵、傾斜面は見る限りが茶で蔽はれてゐる。此處アッサム地方では一年に十六回も摘採され、労働も極めて安いので茶園の經營は理想的である。此の外に南部海岸のニルギリ山地、トラバンコール、セイロン島等にも相當栽培されてゐる。

インドは支那を除いて世界に於いての茶の最大産出國であり、又茶はインドの重要輸出品でもある。一九三七—三八年に於ける茶の作付面積は英領のみで七十三萬九千エーカー、土侯國を含む生産高は四億三千二十五萬封度であつて、その主要産地の收穫高は次の通りである。

地域別	作付面積	生産高	總生産額との比率
アッサム	四三九、八〇一	二四一、五二七、〇〇〇	五六・一四
ベンゴール	二〇一、九〇〇	一〇八、五六六、〇〇〇	二五・二三
マドラス	七六、七一八	三五、四一五、〇〇〇	八・二三
其他の英領	二〇、一七一	六、〇一〇、〇〇〇	一・四〇
土侯國	—	三八、七三二、〇〇〇	九・〇〇
計	七三八、五九〇	四三〇、二五〇、〇〇〇	一〇〇・〇〇



最近インドの製茶工業は非常な進歩をなし、茶の輸出は年々増加の傾向にあつた。一九三七—三八年の茶の輸出入額を對照して示すと次の如くである。

國別	一九三七—三八年		一九三八—三九年	
	輸出	再輸出	輸入	差引額
イギリス本國	二八八,〇〇〇,〇〇〇	八六・三三	三〇五,〇〇〇,〇〇〇	八七・一四
カナダ	一五,〇〇〇,〇〇〇	四・六一	一五,三〇〇,〇〇〇	四・三七
アメリカ合衆國	六,三〇〇,〇〇〇	一・八九	八,〇〇〇,〇〇〇	二・二九
其他	二四,〇〇〇,〇〇〇	七・一八	二二,〇〇〇,〇〇〇	六・二〇
計	三三四,〇〇〇,〇〇〇	十・〇〇	三五〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇・〇〇

インドの茶の積出しは主としてカルカッタ港から行はれ、一九三八—三九年同港から積出されたものに二億八〇%を輸出してゐるわけである。その主なる輸出國は左の通りである。

六百萬封度で、チッタゴン港はこれに次いで八千八百萬封度であつて約二五%を占めてゐた。

7 煙草

煙草も殆ど支那に匹敵する産額を持ち、産額は世界で二、三位を争つてゐるが、國內消費用に充てられてゐるのに過ぎない。煙草は小栽培園經營であるが、これは栽培上の細かい管理が必要であるからであつて、太陽の日射を避けるためにも遮蔽が必要であつたりするからである。年生産量は約六十八萬トンである。

8 砂糖

昔は多量の砂糖の輸入を見てゐたのであるが、近年印度政權が關稅を非常に高額にして、これを防遏するやうになつてから、急速に甘蔗の栽培が促進されるやうになり、一九三八—三九年にはその生産高は百十四萬噸を超え、従つて砂糖の輸入は頓に減じて一萬噸内外に低下するに至つた。

9 藍

藍は太古に於いてはインドの重要な作物であつたのであるが、西歐に化學染料が出現するやうになつてから殆ど全滅するに至つた。然るに第一次世界大戰となつて、化學染料の供給が杜絶するに至つたので、當時七十七萬エーカーの藍畑が栽培されることになつたのであるが、近時は又、數萬エーカーに減じて仕舞つた。

10 阿片

一九〇六年頃までは、六十二、三萬エーカーの阿片が栽培されてきたものであるが、今は四、五萬エーカーに減じて仕舞つた。この阿片は曾ては武力を後盾にして東洋諸國に賣込みを計り、又、自國內でもその吸飲を奨めてきたものであるが、世界の非難が露々として起つたので、近時は手を縮めるの止むなきに至つたのである。

II 果 實

ドリアン、マンゴー、バナナ等の普通南洋に産する熱帯の果實は悉く此處に産するのであるが、北部の山地には又温帯果樹としての優良な杏、林檎、オレンジ等を産する。然しこれらの果實は總てが地元消費に充てられ、他へはあまり輸出されてゐない。

又、嘗て世界を風靡した胡椒其の他の香辛料は、その産額は相當であるが地元消費に充てられて他には輸出されてゐない。

三 林産資源

印度は地域廣大であり、森林も隨所に見得るわけであるが、大體的に見ると森林は割合に貧弱で、林野は全上の三分の一に分布されてゐるに過ぎず、しかもこの森林も搬出の不便と鐵道運賃の高率のために殆ど利用されてゐないと云つても良い位で、従つて年々の輸入額も二千九百萬ルビーに及んでゐる仕末である。

ヒマラヤ山麓とガット塞地に展開する大森林は猛獸毒蛇の巢窟をなして居り、それは南洋のジャングルと性質を同じくし、雜木林で且つ伐採搬出に困難であるため森林價值に乏しい。たゞヒマラヤ山地の降霜線以上にある針葉樹林のみは莫大な地積を占めて居り、それ自體としては價值はあるのであるが何分にも搬出の困難が甚しいので未だに手を付けられずにある始末である。インドの林産中特殊の地位を占めてゐるのはデルベン、アルコール類を含む白檀等の香木でこれは主としてデツカン高原に産するものである。今林野面積及び林産物を表示して印度の森林事業の概要を示せば次の通りである。

林野面積及び林産物 (一九三七—三八年)	
英直轄地	
林野總面積	割 合
豫 備 林	一〇三、六七二
保 護 林	七二、八八六
官 有 林	六、九一六
木材及び薪材	二七九、六三三、〇〇〇
其の他の林産物	一一、八七三、〇〇〇





四 畜産資源

インドは家畜の數に於いて世界各國の一、二位を争つてゐる。牛は全世界の四分の一、羊と山羊は濠洲、ソ聯米國に次ぎ第四位を占めて居り、牝牛は耕作と輓車に、水牛は耕作に又牝牛と山羊と共に搾乳の目的で、羊は皮、毛、肉を利用するために飼育せられる。飼養頭數の少いものは豚と馬で、豚は宗教上忌まれ、馬は暑熱と濕潤の氣候のためあまりよくは生育しない。騾は北方山地で、駱駝は主としてインダス河の流域で、象は森林地帯で運搬に使用されてゐる。

牛と山羊の乳はインド人の食糧として不可欠のもので、羊や水牛もその乳が利用され、それらから酸乳、バター、チーズの類が造られてゐる。然しそれらは自家用であつて、商品としての酪農工業は極めて幼稚の域にある。

今印度に於ける家畜飼養頭數を表示して、印度畜産業の一般を示せば次の通りである。

家畜別	英直轄地	土侯國
馬	一、六三〇、七六八	七五三、二二三

家畜飼養頭數

畜種	頭數	畜種	頭數
仔馬	二一九、五〇〇	牝馬	一六三、六四八
牝馬	七四四、七六二	牝馬	二五四、九一三
牝馬	六六六、五〇六	牝馬	三三四、五五二
騾	一、四六三、五三三	騾	五三六、五〇六
騾	六五、四七〇	騾	一一、九五六
牛	一一九、六八〇、二六七	牛	四〇、八三〇、四七二
牝牛	三四、〇二八、八七六	牝牛	一一、五一四、九五二
牝牛及去勢牛	四八、五九九、七五八	牝牛	一四、二七一、二三二
牝牛	三七、〇五一、六三三	牝牛	一四、〇四四、四八八
水牛	三三、〇〇五、一七九	水牛	一一、九一〇、六九九
去勢水牛	一一、五七二、〇六三	去勢水牛	四、八六五、三三〇
牝水牛	五、四六五、五五〇	牝水牛	一、〇八一、九九六
牝水牛	一四、九六七、五六六	牝水牛	五、九六三、三七三
羊	二二、七四七、五三八	羊	一八、二二六、〇七四

山羊 三六、三三五、六二二 一四、八三二、八七七  
 駱駝 五二六、六七四 四四五、六〇五

五 水産資源

印度の海産は魚類の棲息適地が少く、適當な舟泊りが少い爲に、その上、インド教徒が海に親しまない等の理由で不振である。一般住民があまり魚類を嗜好しないので水産業が急に發達するやうになるとは思へないが海岸線は三千哩に上り、デルタ水域も廣いので將來は有望なものとせられる。現在はガンジス河流域とインダス河川及びマドラス州沿岸及びボンベイ市附近を中心としてそれらの沿岸にわずかに漁撈が行はれ、普通はそれを乾魚としてゐる。尙南部海岸からは眞珠貝が獲れ、ベンゴール及びビハール、オリッサ地方の河沼や貯水池では、淡水漁業が相當に盛んである。

六 鑛産資源

インドの鑛産資源中見るべきものは鐵、石炭、金、マンガン、雲母等であつて、其の他の鑛物については數量に於いても特に言ふに値するものはない。インドの鐵鑛生産は、その豊富な鐵鑛埋藏量により、その産出額が國內工業化と相俟つて年々著増し、加ふるに歐洲大戰により刺戟せられ、増大に拍車づけられてゐるから國內の需要を充たして尙相當輸出の餘力がある。マンガン鑛は世界有数の豊富な埋藏量と産出量とを有し、その産出の殆ど

大部分が世界主要工業國に廣く輸出されつゝある。石油はビルマ分離後は頗る貧弱であつて、需要の僅か一〇%を供給し得る程度で、残りの九〇%は全く海外に依存しなければならない状況にある。

1 鐵

鐵鑛床で最も重要なものは、ビハール、オリッサ州に於けるシングブームとこれに近接してゐるケオンジャール、ボナイ、メイウルパンジ等の諸鑛山である。その埋藏量の厩大にして鑛質の優秀なること實に世界稀に見るところのものである。これらの鑛區の中で最も主要なものは、ボナイ州のロンタから北々東に向つて走り、周囲の地方一帯より約千五百呎も高くなつて、これがそのまま鑛脈をなし、三十哩も續いてゐる。この一帯の鑛脈の含有鐵分は六〇%以上といはれ、その埋藏量は次の如く推定されてゐる。

シングブーム地方	一、〇四七、〇〇〇、〇〇〇噸
ボナイ州	六四八、〇〇〇、〇〇〇噸
ケオンジャール州	九八八、〇〇〇、〇〇〇噸
メイウルパンジ州	一八、〇〇〇、〇〇〇噸
計	二、七〇一、〇〇〇、〇〇〇噸

又中央州のライプールに豊富且つ優良なる鑛區がある。この鑛區は一九一四年タタ鐵鋼會社の發見にかゝるも

のでライプツェル鑛區も周囲の地方より高く、小丘をなして存在してゐる。而してこの鑛脈はグリー及びラジハラ鑛區をも含み、鑛脈は周囲よりハツキリと高く四百呎の厚さを以て二十哩も續いてゐる。鐵鑛の産出高は一九三五年二百三十四萬噸、一九三六年には二百五十二萬噸、一九三七年には二百八十七萬噸で、年々増加の傾向にある。

一九三七年各地域別の産出高を見ると左の通りである。

地 區 域	生 産 高	總産出高に對する割合
ビハール及びオリツツ	一、五八七、三六二	五五・二九
中央州及びベラル	三五四	〇・〇一
ケオンジヤール	三〇七、九三五	一〇・七三
メイウルバンジ	九四二、七〇一	三二・八四
マイソール	三二、四八〇	一・一三
計	二、八七〇、八三二	一〇〇・〇〇

産出の鐵鑛の殆どすべてが國內で消費され、輸出される鐵鑛は殆ど日本によつて占められてゐた。

輸出總額

日本への輸出

一九三六—三七年	二、四四一	二、四三二
一九三七—三八年	六五、五六二	六五、五六二

インドの鋼材生産は一九三七—三八年には九十二萬二千噸、一九三八—三九年には九十七萬七千噸、一九三九—四〇年には百七萬噸と年々増加の傾向にあり、これは全部國內消費に充てられてゐるが、これのみではインド國內の需要を満たすことが出来ず、年々輸入を仰ぎつゝあつたのであるが、今次の大戦以來は輸入額が減少したので、その分は國內で生産を計らねばならぬこととなり、その生産を急に刺戟するに至つた。近年の輸入額を示すと左の通りである。

一九三七—三八年	一九三八—三九年	一九三九—四〇年
鋼材 三六九、〇〇〇	二七二、〇〇〇	二六一、〇〇〇
鐵鋼 一一二、〇〇〇	一六二、〇〇〇	一一八、〇〇〇

2 石 炭

インドの石炭の主要産地はベンゴール、ビハール、オリツツにわたるコンドワナ炭田であり、右以外の重要炭坑はハイデラバッド及び中央州にわたるシンガレニ炭坑である。其の他アツサム、パンジャツプ、バルチスタ、中央インド、ラジプタナ、ピカネル等の炭坑も有名である。インドに於いて産出する石炭の九八%は右

のコンドワノ炭田よりの産出によるもので、同炭坑の埋蔵量は極めて龐大で六百億噸と推定されてゐる。然しインドの石炭は一般に外國炭より、質に於いて劣つて居り、冶金用コークス製造、或は製鐵用に充てられるのはベシゴール州のギリデイ、ラニガンジ、ザリア、ボカロ、カランプラ等の諸炭坑のもので、これら炭坑の埋蔵量は大體十五億噸と推定されてゐる。

インドは英本國を除けば英帝國の他の領土より多量の石炭を産出してゐるので、一九三七—三八年に於けるインドの石炭生産高及び消費高を見ると左の通りである。

生産高	輸入	輸出	差引
一五、〇三六、三八六、	八二、八五〇、	一、〇〇五、八九九、	二四、一一三、三三七、

即ち生産高の九六%は自國內に於いて消費されてゐるのである。インドに於いては近年石炭の消費が増大したそれは最大の石炭消費者であるところの鐵道の需要量が増加したこと、鐵鋼業の發達したことによるので、其の上に各種事業の工業化に伴つて需要が頗る増大するに至つたのである。インドでは近時電力供給や、油性燃料の使用が増加したものの、諸般の事情よりこれらに對しては多くを將來に期待することが困難なので、今後の工業の發展は益々石炭に依存することを大ならしめるのである。

3 マンガン

インドのマンガン産出主要地は中央州、マドラス州、ボムベイ州、サンドル(土侯國)、マイソール、及びケオンジャール、ポナイ等であるが、現在最もよく開發されてゐるのは中央州である。産出高は一時著しく減少してゐたが、近年國內の鐵鋼業、軍需工業の發達、或は國外の需要の増大により再び増産の傾向を辿り、一九三六年に八十一萬三千噸だつたものが、一九三七年には百五萬千噸に増加した。このマンガン産出の大半は輸出されてゐるので、一九三七—三八年の生産百五萬千噸中、輸出は百萬百噸(九五%)一九三八—三九年の生産六十四萬八千噸中、輸出は四十五萬六千噸(七〇%)であつた。

4 雲母

インドは世界雲母總生産額の約五分の三以上を占め、ビハール、マドラス、アジュメール、メルワラ、ジャイプール、トラヴァンコール等がその主産地である。ビハールの雲母主産地は幅十二哩乃至十四哩、長さ六十哩の細長い地帯をなしてゐて、その鑛床は西部のチャンバラからガヤ、ハザリバグ、モンゴール等の接合點を通り、東北東に走り、東部のジャジャに至つてゐる。この地帯から産する雲母は、インド總生産額の約八〇%を占めてゐる。

一九三七年の各地域の産出額は次の通りである。





計 四七四、八四六、一三四 100.00

前表を見ることによつてビルマに約半額を依存してゐたことは注目すべきである。

6 金

主要な産金地は、東部マイソールのコラル地方、マドラスのアンナンダプル等であり、他にバンジャツブ、中央州、聯合州等に於いて水洗探鑛によつて抽出してゐる産金地もある。コラル地方の産金地はマドラスの西方二十五哩の海拔二千八百呎の高原にあり、該地方よりの産金額がインド總産出額の殆ど九九%を占めてゐる。一九三七年の産出額は三十三萬七千四百四十四オンス、一九三八年の産出額は三十二萬一千二百十九オンスで前年より若干減少してゐる。

今、採行會社別に一九三八年の産出額を示すと次の通りである。

會社名	産出額	總産出額に對する割合
チャンピオンリーフインド産金會社	70,508	21.95
スンデテローク鑛山會社	99,697	31.03
マイソール産金會社	99,773	31.05
オルガンインド産金會社	51,301	15.97

計

三二二、二七九

100.00

7 其の他

インドの主要なる鑛産資源は上述した所によつて略々盡きるのであつて、大體から云つてインドの鑛産資源は極めて微々たるものであり、外國への依存度は相當に高いとなすべきである。

近代工業に特に必要な鉛、錫、亜鉛、銅、ニッケル等の特殊鑛物については、インドはその生産量極めて乏しく、左記の如く輸入に依存してゐる仕末である。このことは今後のインド工業の發展上大なる支障とせねばならぬのである。

種類	輸出		輸入		輸出入差引額
	輸出	再輸出	民需	官需	
鉛	1,250,000	11,000	2,847,000	20,000	(一) 2,697,000
錫	1,230,000	5,000	8,488,000	1,001,000	(一) 7,258,000
亜鉛	3,000	1,000	7,288,000	5,000	(一) 7,284,000
銅鑛石を除く	201,000	1,000	3,276,000	—	(一) 3,075,000
洋銀(ニッケルを含む)	—	—	1,427,000	—	(一) 1,427,000



シロマイト 一、六九、〇〇〇

(十) 一、六九、〇〇〇

インドの地下資源は未知数の域を出ないものと言へる。今後これが調査を続行すると共に近代交通機關及び金融機關の發展は、インドの躍進的近代工業化と相俟つて、インドの鑛産資源に對する探求を愈々熾烈ならしむべきものと考へられる。

七 セイロン島

1 農産物作物面積 (一九三九年)

檳榔子	六九、〇〇〇
カカオ	三四、〇〇〇
小豆蔻	六、〇〇〇
黍類	七七、〇〇〇
肉桂	二六、〇〇〇
シトロネラ	三三、〇〇〇
ココ椰子	一、一〇〇、〇〇〇

米	八五〇、〇〇〇
棕櫚	五〇、〇〇〇
ゴム	六〇四、一一一
甘蔗	一、〇〇〇
茶	五五六、六五〇
煙草	一四、〇〇〇
蔬菜	三二、〇〇〇

棉 一、〇〇〇

2 家畜頭數 (一九三九年)

水牛	五四三、三〇〇
山羊	一三三、五四〇
馬	一、三五〇

牛	一、二二七、二〇〇
羊	六二、五二六
豚	三六、六八五

3 鑛産高

黒鉛	一、一八九、〇〇〇
花崗岩	三四九、〇〇〇
寶石	三〇〇、〇〇〇
建築用石材	一三五、〇〇〇

砂礫	三一、〇〇〇
瓦礫	四、〇〇〇
石灰石	一、〇〇〇



ニューサウス・ウェールズ誌

一 概要

自然は不公平を好まぬ様である、今若し濠洲聯邦政府なるものが、本洲に場所を藉らぬとすると、ニューサウス・ウェールズ州なるものは途方もない素晴らしい存在となつて仕舞つて反つて仕末の悪いものとなつたかも知れない。勝手に艦隊を創設し、軍隊を壮大にし自己防衛を充分ならしめ、製造工業でも産業でも自州内でどんどん發達させて、果ては自立國家となつて仕舞つたであらう。

本州の海岸線は太平洋に面して七百哩に及びそれは世界市場へ廣く扉を開いてゐる。ジャクソン港、ツーフールド灣、ジャビス灣、ステッフエン港と四つの自然の良港灣があり、其の小港灣の利用し得るもの、完成したもの、その途上のもの等舉げて數ふるに堪へぬ位で、それ等は皆、海上貿易の安息所となつてゐるのである。本州には石炭と鐵礦が無盡蔵にある。銅、錫、銀、金、其の他の貴金屬に於いてその富は測り難い程である。本州には北から南に小山系が連互して居るが、それは氣候の激變を防ぐに役立つてゐる。東方の山脈の絶えた

所をトウイドからキアアにかけて河流があり、それは一部では常時水をたゝえ、或る區間は絶え絶えに太平洋に注いでゐる。

リツチモンドの亞熱帯區からトランバの沃野にかけては四時に清流の噴きか聞かれ土地は非常に肥えてゐる。山脈の西側面は廣い緩やかな傾斜で、奥地が嶺がり其の間に、リベリナの流れ網、風情のあるグリーンングの分流、歴大なマレー河の原支流が廣袤一千八百平方哩の平野を灌溉してゐる。

本州の全面積は三十萬五千七百三十三平方哩であるが、農産物は寒帯、温帯、熱帯の各氣候のものが産出される。グズベリート(すぐりの實)はグレンインネスに育ち、バンジロー(熱帯果)はグラフトンに實つてゐる。

飛行機の旅をして上空から瞰下すると、北部の海岸寄りには熱帯のジャングルが玄武岩狀の石骨を見せてゐる中に繁つて居り、もつと瘠せた土地には質の堅い木の群があり、巾廣い河流が沖積層の谷々を縫ふて流れてゐる。

トウイド、リツチモンド、クラレンス、ベリンゲン、マツクリー、マンニング、ヘスチングスハンター、ハークスブリーでは良く耕された綠野……甘蔗、玉蜀黍、うまごやし……が日につき、莫大量の農作物の産出が思はれる。

シドニーの南方にはイラワラ、シヨールハベン地帯がある。兩地帯は大半は火山跡であるが、土地が肥えてゐる。



て、河流にも恵まれ灌漑も良いが、その末端は堅い質の樹林帯に入つてゐる。

北から南にかけて高菜地帯に沿ふて、花崗岩帯の緩い傾斜地がテンターフィールドからニミクベリに小山の列が隙をなす諸溪谷となり高地を縫ふて續き、其の間には所々に諸礦物の露頭を露出させてゐる。

本州の北西部、中央部、西南部の傾斜面は、その最高所から擴がつて廣漠たる平野をなし、所によつては無樹帯があり、又材種によつて區別のはつきりと判じられる所などがある。北西部では廣い部面が黒色の樹林を見せ、南部と西部とは大部分が明るい赤色、赤々とした褐色を呈したりしてゐる。

パークスからメンディーに、パークからスリンヒルにかけて鐵道線路の所から南溪洲の州境迄は所々に低い山脈の隆起がある丈で後は凸凹のない平坦な地表を見せてゐる。その間を河川が網のやうに擴がり銀色の湖水がそれに點綴してゐる。その湖水は雨期には膨大し、乾期には縮小するのであるが、その周囲には緑の小麥や小ざつぱりした耕作小屋があつて色彩を添へてゐる。小麥の出来不出来は自然のままに委されてゐて、收穫量は豫測が出来ないのである。

本州の地勢を概括的に云ふと、美觀に富み氣候が良候、健康に適した土地となし得る。

## 二 氣 候

本州は英本國の三倍の廣さなのであるが、その緯度の十度の間にある海岸、山脈、平原の複雑さは驚くべき多

様性の氣候を作り出してゐる。

氣象學者に云はすと、本州の氣候は他の溪洲の全體の氣候の種々相を總て示してゐるといはれ、現にシドニー大學の生理學者で國立病院の理事長であるアンダーソン博士は次のやうに言つてゐる。

「本州には特殊な病氣といふものがない。どんな種類の危險も感じられない。本州に移住するについて、前以て用心している／＼と用意して來ることは要らぬ。

緯度で示されてゐる氣温よりも遙かに清涼であり、確かに世界中での最も溫和で規準的な氣温と云ひ得る。空氣が乾燥してゐるので高濕のときでも、ロンドンやパリで感じさせられるやうな不快感が起らない。そして高濕とても永く續くことはない。モナロ高原のクーマなどでは、そこは海拔二千六百三十七尺の所であるが、

盛夏がロンドンやパリと同じ位でも左程に厳しくない。本州に於ける最高所の小都市とせらるゝキブンドラ（海拔四千六百四十尺）では盛夏で平均氣温華氏五十六度四、嚴冬で平均三十二度五である。高原地帯の氣候は夏期極めて健康に良く、だから此の地方の住民の死亡率は非常に低い。冬に至つては空が澄み渡つて實に爽快快適である。

此の地方では雨量は年二十時に過ぎない。だから空氣が乾いてゐて、盛夏でも人々は元氣で海岸にでも居るやうに活潑に働き得る。

如何に本州が健康地であるかは死亡率を比較すると直ぐ判る。本州の死亡率は人口千に付き一〇・九一人で、これを他の國と比べると

一四八

佛蘭西では十七・五人、英本國は十三・八人、ドイツは五・六人、伊太利は十八・二人、オーストリアは二十・五人である。

英本國では一歳の嬰兒の死亡は百人に九・五人であるが、本州の死亡は六・五人である。これは全く氣候が健康に適し、病菌が少なく、社會施設がよく行届いてゐるからで、それに善良な氣持のよい食事や衣服が安價に供せられてゐるからである。又、社會一般が衛生に意を用ひてゐることは感謝すべきである。」と  
本州に移住し來るに當つて歐洲人は他の國でのやうにマラリヤ疾患や熱帯の病患を苦にすることはなかつたのである。

### 三 農業

半官的の推測ではあるが、本州では小麦の可耕面積は大體二十五萬英甲といはれ、農作が長足の進歩で進みつつあるやうである。それといふのは農業經營で、これを羊毛專業で行くと年に二千磅しか得られぬ農家が、これを全部小麦に代へると一萬磅の収入を擧げ得るからである。今迄は小作農家が夫した經驗もなく、資本も皆無で農耕に當りそれでも追々に獨立し得るやうになつて來たのであるが、本當を云ふと本州の農業經營は、大規模の

ものにせねば大した成功を處ち得られない。マラビツチー河の灌溉水の如きは個々の小農に給水することは困難でどうしても廣い農耕地を對象とせねばならないのである。

果樹園、葡萄園、養蜂園、養豚場、牧羊場、駝鳥養殖場、蔬菜園、養鶏場等は近年素晴らしい發達を遂げた。けれども地積はとても廣いから、この調子がこの後百年續いたからとて到底その限界點には達しさうもないのである。

少しの經驗のない者でもここに移住して結構やつて行ける。州指導所はよく導いて呉れるし、最新の農事智識を提供して呉れるし、日々の新聞にさへ土地に關する情報を掲げるし隣人だつて教へて呉れる。それでいつの間にか充分な智識と實際を會得して成功の途に辿りつける。

濱洲は本來は資本の豊かな練達した農業者を歓迎してゐるのであるが、健康體であつて勤勉な者であれば、たとへ資本の少ない者、或は皆無の者でも欣んでこれを迎へるのである。そして野心の逞しい者であればそれだけ聯邦に貢獻し得る所が多い譯なのである。

外國から移住して來て都市に居住するのは意義が乏しい。都市には競争者が多くて競争が激しく、成功する機會なんかは乏しい。これに反し田園濱洲は新來者が勤勉で忍耐強く、賢明でさへあれば何時でも到る所で歓迎される。

一四九

本州でも田園人口の増加を急務として、絶えずその爲の施設をなし、拓土を計り、鐵道の新設に鋭意してゐる。これらの施設の中で一番に意を用ひてゐるのは灌漑事業で、パレンジャックにある貯水池の如きは世界第二の巨大なもので、マールラムビツヂー灌漑區を潤はしてゐる。水の使用方法、恩恵を受ける土地の所有者の費用負擔、負擔金額の決定等は法令によつて定められることになつてゐる。今少しく本州の灌漑事業について統計に基づいて記述してみたい。

(一) ニューサウス・ウェールズ州灌漑大要

降雨量が乏しく、それに蒸發の激しいしかもニューサウス・ウェールズ州のやうな廣大な地域で農業用積農用に自然水を充分に貯へて置くといふことは仲々困難でもあるが、又非常に肝要なことなのである。それで貯水といふこと、灌漑といふことは、この最近の二十五年間に非常に發達することゝなつた。貯水の運営は農務省の管轄に屬し、大臣を會長とする貯水、灌漑委員會に委ねられてゐる。該委員會は州經營の灌漑地域は勿論、私設の灌漑路についても指圖を爲すのであり、河川法に準據して土地所有者に對する許可權を握り、給水の爲にその水路と地域を定め、又地下水の使用についても干與し得るのである。マールレー河については其の水域に當る諸州即ちニューサウス・ウェールズ州、ビクトリア州、南濱州の三州に對し、これらと聯邦政府との間で取り定めた協約の文言に從つて「マールレー河委員會」なるものが水流の管理

に當るのである。その協約にはマールレー河とマールランビツヂー河、ビクトリヤ湖に水閘を設け、大貯水池を築くことを定め、前記各州に流出すべき適當水量を按配し得ることを定めてゐる。一年間の適當水量は次の如く定められてゐる。

ニューサウス・ウェールズ州地域	一、九五七、〇〇〇
ビクトリア州地域	二、二一九、〇〇〇
南濱州地域	一、二五四、〇〇〇

そして、これ以上を要するときには其の折り折りに委員會に要求することになつてゐる。ニューサウス・ウェールズ州では「州貯水灌漑委員會」が水量の配分と用途への適當なる按配を考量するのである。

1 ニューサウス・ウェールズ州の灌漑地域  
ニューサウス・ウェールズ州の灌漑地域は、マールラムビツヂー區、カールワー區、クローミラ區、ヘー區に分れてゐる。

マールラムビツヂー區に供給せられる水はマールラムビツヂー河から流出し來るので、その調節のため同河の上流、パリンジャックに巨大なコンクリート堰堤が設けられてゐる。それは貯水量三千三百六十六億一千三百萬立方呎（七十七萬一千六百四十一萬一千六百四十一噸）堰底までの深さ最大るとき二百呎で、貯水表面積は一萬二

千七百八十エーカーに及ぶのである。此の堰堤は、常に改良補強の工事が施され、其の貯水能力を増加してゐる。ダムに入る水はベレンベッド堰から二百四十哩の距離を隧道で導かれてゐるが、隧道の取入れ口では一秒钟に一千六百立呎を容れてゐるのである。その幹線隧道九十六哩半は網状の水路が設けられて、幹線隧道に集中するやうになつてゐる。隧道の全長は隧道とパイプ路とで千五百哩を超えてゐる。この外灌漑地域に隣接する地區に供してゐる隧道の長さは約三百七十七哩である。パーリンジャック堰堤では水力電氣が起されてゐるが、この電力はニューサウス・ウェールズ州發展に非常なる貢獻をなしてゐる。

マールムビツジ灌漑地域の發展状況を表すと次の如くである。  
マールムビツジ灌漑地域（一九二四—一九三八）

年次（六月末）	供給水量	灌漑地域	生産價格	入 密 興			
				給水量 千噸	特許料	土地購買 による利益	他の歳入
一九二四	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	
一九二五	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	
一九二六	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	
一九二七	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	

マールムビツジ灌漑地域に投下された資本は一九三八年六月末には、九百七十二萬六千三百三十一磅に達し、それは九百五十一萬九千二百九十磅は公債で支辨されたもので、又其の金額から二百二萬七千二百二十七磅は兵營建設に引かるべきものであつた。

カールワの灌漑地域は一萬五千五百五十一エーカー、クローミラの同地域は三萬五千四百五十一エーカーであるが、そ

一九二八	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九二九	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三〇	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三一	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三二	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三三	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三四	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三五	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三六	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三七	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇
一九三八	六、七〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇



これらの地域はマルレー河がグーリング大河に合流する附近にあつて、灌漑水はマルレー河から注がれてゐる。  
 へー灌漑地域は六千四百五十六エーカーで、マールムビツジ河に沿ひ同河から灌漑されてゐる。此の附近の  
 主なる産業は酪農である。

灌漑地域の生産  
 マールムビツジ地域の農業的展開は一九二二—一三三年から始められ、クミミラ地区に對する計畫は一九  
 一五年から始められたのである。

これ等の地域の耕作面積は（灌漑せられてゐない土地をも含めて）一九三八年六月末には  
 マールムビツジ地区 三二二、九〇九エーカー（都會地域も合せて）  
 クミミラ地区 三、三〇一エーカー  
 クールワー地区 九、一七四エーカー  
 へー地区 五、七八七エーカー

であつた。

灌漑地域、生産状況 (一九二〇—一九二二) (一九三七—三八)

事 項	一九二〇—二二		一九二二—二七		一九二七—二八		合 計
	一九二〇—二二	一九二二—二七	一九二二—二七	一九二七—二八	一九二七—二八	一九二七—二八	
耕 作 者 数	一、二五八	一、五九六	一、五九五	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、六九八
耕 作 地 積	三、〇五九	二、四四一	二、四四一	二、四四一	二、四四一	二、四四一	三、〇五九
穀 物 地 積	二、八〇〇	二、四四一	二、四四一	二、四四一	二、四四一	二、四四一	二、八〇〇
乾 草 地 積	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
草 地 積	一、二五八	一、二五八	一、二五八	一、二五八	一、二五八	一、二五八	一、二五八
葡萄 實の收穫し得るもの	一、三三三	六、〇〇〇	八、一八九	五、七七七	五、七七七	五、七七七	八、一八九
葡萄 實の未だ收穫し得ぬもの	一、八九六	一、四四五	一、〇五〇	五、七七七	五、七七七	五、七七七	一、八九六
果樹 實の收穫し得るもの	四、四二四	一〇、三〇七	二、九九五	二、〇八〇	二、〇八〇	二、〇八〇	二、九九五
果樹 實の未だ收穫し得ぬもの	四、四二四	四、四二四	三、二四五	三、二四五	三、二四五	三、二四五	四、四二四
馬	五、三三四	六、一三二	六、一三二	五、九七六	五、九七六	五、九七六	六、一三二
乳 牛	五、四四六	二、一五六	二、一五六	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	二、一五六
其 他 牛	五、四四六	二、一五六	二、一五六	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	二、一五六
合 計	一、九〇一	一、九〇一	一、九〇一	一、九〇一	一、九〇一	一、九〇一	一、九〇一



る。

柑橋、桃、杏、林檎、乾し杏は生産果物の主たるものである。

林檎、柑橋、桃類は若木の實のりが非常に良いので、産出量はぐんぐんと増す筈である。

果樹の植栽地域と果樹数を擧げると次表の通りである。

果樹名	一九三〇年		一九三一年		一九三二年		一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り
スーピン(苦味)	一、五七五	六、三三三	一、〇七三	八、三三三	五、五七五	三、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
ワシントン種	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
パレンシヤ	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
其の他	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
支那種密柑	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
乾したものの	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
雑用	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五

他	其	梨	梅	桃	一九三〇年		一九三一年		一九三二年		一九三三年		一九三四年		一九三五年	
					ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り	ものり	ものに至り
林檎	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
いちじく	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
はだんきよう	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
ウイリヤム種	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
其の他	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
梅	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
乾し杏	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五
桃	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五	一、五七五

柑橋類は最も早く栽培されてゐる果樹であり、桃は雑用用のものが非常に殖えて来た。又、杏、乾し杏、梨、林檎もぐんぐん増して来た。果樹の年齢も少しづつ變化してゐるのであつて、一九二〇—二二年頃は、全果樹の四八%が果實を生じるものであつたが、一九三〇—三二年には七二%に上り、一九三七—三八年には七七・六%となつた。

醸造用、食卓用、乾燥用の葡萄實の栽培も非常に多し。

穀物は州政府で灌漑されてゐる地域以外のところからも相當に獲れる。

灌漑地域に生産される總ての穀類を集計して見ると、灌漑地總地域は一九三七—三八年には十七萬七百十九エーカーであつて主たる穀物耕作地域は、小麦が四十七萬八千八百八十二エーカー、うまごやし二萬五千五百六十三エーカー、烏麥二萬三千三百四十一エーカー、米二萬三千七百三十七エーカー、果樹園一萬七千三百八十八エーカー、葡萄園一萬一千二百二十エーカー、綠肥一萬一千二十九エーカー、市場向野菜園五千四百五十五エーカーとなつてゐる。

4 ラフラン河貯水計畫

ウイアンガラでラフラン河を堰止め、最高能力として三十萬三千九百エーカーフィートを灌漑しやうといふ計畫が進捗中である。これが完成すると、沿岸地域には充分な放流が出来、流水の統制が出来るやうになるし、餘剰水の利用は、河川法に従つて土地所有者に充分に均霑せしめ、家庭用、牧羊場の給水、糧秣作物に對しての灌漑に當てることにしてゐる。

5 灌漑地域に對する河川法(一九二二—三六年)の運用

給水區域には、一九二二—三六年の間に整備された河川法が施行されてゐるのであるが、地域によつて許多の給水組合に分れ、土地所有者は維持と運営の爲、相當の使用料を組合に拂ふことになつてゐる。しかし州政府

6 府で行つた事業投資に對してそれを辨償負擔するといふことになつてゐない。  
灌漑地域

地方名	灌漑する河	地 域	灌漑完成月日	投下した費用
ワク	マルレー河	五四、七五三	一九三三、六、一七	五、一五、〇〇〇
ベネレン	マラムビッジー河	一一、七四四	一九三六、一〇、二三	四、九二九
タビ	同	六、三一六	一九三五、八、二六	三、六四九
ベリキン	マルレー河	六一、六〇〇	一九三四、三、九	四三八、〇〇〇
ジェマロン	ラフラン河	一七、六四四	一九三四、九、二八	一四〇、〇〇〇
ウイルデス平原	同	一五、五五五	一九三五、六、二八	一四〇、〇〇〇

現在では灌漑地域を放擲して、もとの原野に戻さうとするものもなし、灌漑地域をより細分しようとするものもない。給水は、穀物や、糧秣や、牧羊の爲に利用せられ、特に、營利的ならしめやうとして、果樹園や、葡萄園や米作のみに力を入れることもしない。

一九三七—一九三八年の六月末までの、一年間、タバタ及びベネレン地方の土地所有者は充分満足し得



る給水を得た。

ワクトールとベリキン地方の給水工作は、ぐんぐと進捗した。

ウイルデス平原地方は目下施設中に属する。デニブータとワトローは一九三八年十二月に完成した。

ワクトール、ベリキン、デニブータ地方の灌漑水は、ヒューマ・グムに貯水されたマルレー河の、ニューサウス・ウエトルス側から放流されてゐる。

ベリキン地方の灌漑水はマルワラ隧道から来るので、その水はヤーラワンが堰堤で、マルレイ河から流れて来るのである。マルワラ隧道はデニブータ地方をエドワード河の底を水管で通して来て灌漑してゐる。マルワラ隧道の延長は約百哩、その放出能力は取入口に於いて一日五百エーカー呎である。

### 7 水利組合

一九二二—三六年に完備された河川法は、貯水、灌漑に組合を設けしめて、國の利益の爲に本州の湖川を充分に利用し調整すべきことを定めてゐる。

水利組合は、その地域を灌漑し得る水域に基づいて組成される。組合は必要適切な施設を行ふことが出来る。灌漑工事が完成すると土地所有者から選ばれたものと、組合代表とで組成せられる實行組合の手に委ねられる。實行組合は組合員から工事維持の費用及び投下資本回収に必要な費用を徴集する。

一九三九年の三月には州下に、十六の水利實行組合が出来た。その中で、都市の給水一組合、洪水防護の組合一で、全灌漑地域は三百五十九萬六千四百一十一エーカー、これを各河川に分けると次の如くである。

河川各	水利組合数	灌漑地域	摘要
マルレー河	六	六〇六、五一五	
マラムビシジ河	三	一、三八五、〇六〇	
ラフラン河	五	五五二、九一五	
ダーリング大河及び支流	一	九九五、二〇〇	
計	一八	三、五九六、四一一	

### 8 水利施設に對する特許と許可

土地の所有者が自己の土地に灌漑を得んとするとき、又は組合地域外の灌漑計畫を樹てやうとするときに、關係のある湖川から放水を得んとするには、貯水灌漑組合はその者に特許を與へたり、許可を與へたりする。

一九三七—三八年中、四百の新特許と二百五十二の期限延長許可が發せられた。

一九三八年六月末には、現に期間中のもの二千三百五十五、期間は總て五年間となつてゐる。

一九三七—三八年中、放流、ダム、水路に関する新規許可は二百五十三件で、一九三八年六月末に期間延長のものは八十六件であった。

9 人工鑿井

本州にある人工鑿井の分布区域は約七萬平方哩に及び、主として州の丘阜地である北部、西北部を占めてゐる。

鑿井から汲み上げられる水量も相當なものであつて、八十二の鑿井給水組合と、十二の鑿井給水地域があり、約五百萬エーカーの地區を占めてをり、これ等は何れも河川法を適用されてゐる。鑿井給水組合の運営振りは前述の水利組合と異なつたところはない。鑿井給水地區では加入者は井戸浚への費用及び地方土地局が課する課税に應ずるのである。

貯水灌漑水利委員会は鑿井水の用途に關心を拂ひ、鑿井の能力保持と、水の冗つかひを抑制し得るのである。委員会は鑿井を爲したり、汲水量を増加させたり、井戸浚へを勵行させたりする。土地所有者の爲に河川法に基づいて、組合外の土地の鑿井を命じたりし、一九三八年六月末、七百三十七の鑿井が深く掘られ、四百五十三が涌水し、一日に計六千七百三十四萬九千三百七十七ガロンの給水が可能であつた。そして二百三十五井はポンプ仕掛で汲水されたが、その四十九井のは失敗であつた。全部の深さを總計すると百十三萬二千三百二十二

フィートであつた。

一九三八年六月末の利用中の鑿井（官設、私設とも）は次の如くである。

官設	私設	鑿井種目	手汲み	ポンプ汲上	計	深さ計	
						平均	最大
官給水施設給水組合等 郡部の町に給水するもの 貨貨物を改良したもの	私人鑿井のもの						
計							
			二九七	一七三	四七〇	六二七、五五二	
			一五六	六一	二一八	四四五、二三八	
			一三八	五二	一八九	四〇二、八三五	
			三	一	四	六、五三三	
			一五	一〇	二五	三五、八七〇	

官設のもので理想的な井戸の深さは、平均が二千四十二呎となつて居り、私人の鑿井は、それが千三百三十五呎、深さは八十九呎の浅いものから、最も深いものは四千三百三十八呎になつてゐる。  
本州で一番深い鑿井はモリー地方にあるもので、ボロンガにある一つのものは四千三百三十八呎の深さで、一日の湧出量は六十九萬八千八百八十ガロンであり、ドルゲリーにある一つのものは深さが四千八十六呎で、一日の湧出量は三十七萬三千五十二ガロンである。湧出量の最も多いのは同じ地方のヤーランバ鑿井で、一日の湧

出量は百十萬七千八百七十ガロン、深さは三千八百二十八呎である。

湧水の温度は所によつて非常に差異がある。タンダーブリン二號井では華氏七十五度で、ターローグワン二號井では華氏一四〇度にも及んでゐる。

百一箇所の鑿井から流出した水量が、給水組合の水流及び人工貯水池を潤ほしてゐる。この百一箇所の井戸から流出する余水量は一日に二千九百七十七萬四千八百二十ガロンに上り、三千二百八十二哩の隧道によつて、五百萬五千四百七十七エーカーの地域を潤してゐる。給水組合が給水料として課するものは一エーカーにつき、一・七五片で、それは維持費用と施設費用とに充てられるのである。

其の他の鑿井の大部分は牧羊場にあつて、貯水に充てられてゐるが、中には、郡部の町の住民用ともなつてゐる。

本州の西北部地方は、この鑿井水を利用することになつて、土地の開発が非常に助けられた。それは、今までには會社組織の大仕掛のものでなければ牧羊は出来なかつたのが、少地主でも樂に牧羊し得るやうになつたのである。

鑿井水の湧出は漸次減量するやうである。これは鑿井の数の増えたことが因を爲すのであるが、近頃は水の浪費を抑制することによつて、鑿井の壽命を永からしめやうと努めるやうになつた。

#### 10 浅掘井戸

一九二二年州政府は耕作者に、浅掘井戸を掘ることを奨励した。貯水催渡委員会もこれに協力した。耕作者は場所をよく選び、委員会は鑿井の器具、材料、労力を貸與し、所要経費は年賦で返還せしめることにした。一箇所に試験的に始められたのが急に三十五箇所で行はれることになつた。一九三七—三八年中委員会は百四十五箇所に協力したが、鑿井に成功したのは六十九箇所であつた。

一九三八年六月末までに委員會の手で試みられた鑿井は三千五百六十三箇所であつたが、その内六百十二箇所に失敗であつた。鑿井の全深度は九十九萬五千四百四十四呎で、最も深いのは二千三百十八呎で、鑿井に要した全費用は八十八萬二千八百八十七磅であつた。

一九二五年私設の鑿井を爲すことを州政府から許されたものは、その所要経費、設備費は州政府から支出され、これは後に利息を付けて年賦で返還を許されることとなつた。

この私設鑿井は九十八箇所に及んだが其の内二十一は失敗であつた。全部の井戸の深さを合せると五萬六千三百呎で、各井戸は千五十呎—千五百呎までの深さであつた。

一九三二—三三年以後は、このやりかたによる私設鑿井は試みられぬ様になつた。

鑿井に當つても制限線を引かれた地域があるので、即ち、アルプリー—タムワース、タムワース—ピンガ

ラ、ピンガラ——インベル、インベル——ボンシロを結ぶ線の西部は百呎以上の深さに掘ることは河川法の定めるところに従ひ州政府の許可を要することになつてゐる。

それで一九三八年迄に八百四十七に上る許可が與へられた。

地下水の利用を爲すことは非常な勢で擴まり、凡ゆるやり方で鑿井が試みられるやうになり、一九一一年中に四百五十八井であつたのが、一九三八年六月末には三千五百九十九井にも増したのである。

## 南方近況

### 香 港

#### 香港經濟建設一年の成果

大東亞戦争一周年記念日を迎へ、香港建設一箇年の成果が各方面において検討評價されてゐるが、これは前半期と後半期に分けて考へられるのを適當とする。

前半期に於いては戦後の善後措置が先づなされ、電力、水道など公共事業の復舊、主要食糧の調達、配給制の

確立、華人商店の復業などが一應の完成をみた。また後半期に於いては物資交流については外地との協定が次々に成立し、南方よりの原料品の輸入が行はれるやうになり、原料加工業が操業を開始して製品の輸出が行はれるに至つた。

新興香港の前途は大東亞共榮圏の物資交流の中継地としての自己の地位を確立することであると、各方面とも意見の一致するところであり、この意味に於いて物資交通の開始は決定的な出来事として歓迎されてゐる。

この前半と後半とを通じて占領前の自由經濟は統制經濟へと完全に移行した。貿易は香港貿易組合を通じて行はれ、華人工業の復業も原料配給の關係より各業種別組合の結成を前提としてゐる。

必需原料品の配給も公定價格及び指定配給所を通じてなされることとなつた。これは舊香港より新香港への轉換の大きな特徴である。

香港復舊の當面の急務として指摘されることは輸送能力の増強、船腹の増強である。華人方面はジャンクの利用の必要を強調し、また事實上最近二、三箇月前よりジャンク組合により香港近海及び珠江デルタ地帯への航行が開始されてゐる。

また、機帆船其の他船舶建造は總督部造船所に於いて進捗をみてゐる。この方面に於いて大東亞一周年を記念する行事としては十二月八日〇〇造船所に於いて大型貨物船の進水式が舉行された。この船は大型船で、單に香



港自身の爲の造船でなく、英米國輸送力の増強に對し、香港が協力する大きな貢獻として意義深いものである。

一七〇

### 香港貿易協定 (二—三月)

香港、廣東貿易協定更新に關する第三回香港、廣東經濟連絡會議は十二月十二日香港總督部で兩地代表者出席のもとに開催され、一—三月の三箇月間に於ける兩地貿易に關する協定を締結した。同協定による兩地間貿易額は前協定と同様であるが、今回の協定が前二回と著しく異なる點は從來原則として認められてゐなかつた兩地の業者が相互に行ふ現地買付けが當局の許可を得て認められることとなつた點である。

### 香港總督部納入金を軍票一本建に決定す

香港總督部では從來電氣、電車及び總督部に對する納入金等の支拂に當つて、五十錢以下のものには香港弗小額紙幣を以てする支拂を許してゐたが、既に軍票の小額紙幣は充分放出されたので、十二月十二日より總督部に對する小額納入金港貨掛辦法の廢止を公示、總督部納入金は一切軍票一本建となつた。

佛 印

### 佛印の動向

佛印は英米聯合軍の佛北阿積民地不法侵入に端を發した佛本國側の様々な異變——獨伊輻輳軍の南佛非占領地帶進駐、ツーロン軍港に於けるフランス艦隊の自爆自沈、ダurlan總督及びジロー將軍の謀叛とそのフランス國籍刺奪、ラヴアル首相のフランス國權全的收攬、對米國交斷絶等々——に遭遇して流石に局部的には多少の影響を免れ得なかつた。

ドク—總督は確固不動の態度をもつてヴィシー政府への絶對忠誠を表明し、他方共同防衛の立場に立つて對日協力を積極化し、佛印をしてよくその去就向背の大局に於いて過誤ならしめてゐる。しかし、佛印の國內情勢は必ずしも單色のものとは言へない。それで、佛印當局は最近國防法を發動して國內各般の統制強化を圖り、ベタンへの忠誠を誓ふドク—總督のメツセージを掲載しなかつたサイゴンの日刊紙デ・ベインシュの發行を停止せしめる等あらゆる反政府的言動に對し峻厳に實力を行使しつゝある。

また、情報によると、英國依存の傾向を有するトゴール派及び米國の傀儡たるダurlanと氣脈を通ずる一派が佛印當局内に發生した事實を探知して佛印當局は彈壓を開始し、先づ佛印官吏中のダurlanニストを治安紊亂者として檢舉し、サイゴン、ショロン兩地區のみで既に三十六名、なほ今後相當數の檢舉者を出すものと見られる。

佛印のかゝる末梢的現象は兎もあれ、まことに佛印の根本的態度は不動であり、不變である。

一七一

日佛印共同防衛協定に於いて、日本は佛印の領土保全と主權尊重を約し、フランスは日本に對し直接又は間接に對抗するが如き性質の政治上又は軍事上の協力を豫見する何等の協定又は諒解をも佛印に關しては第三國とは行はない旨を確約して、兩國は佛印の共同防衛のため軍事上の協力を行ふこととなつたのであるが、この協定は文面通りに實行されて今日に至つてゐる。

他方、昭和十六年七月五日、日佛印貿易決済細目協定もその前日横濱正金インド支那兩銀行間に成立、さらに昨年七月十八日には日佛印間に經濟協定の新なる發展、締結を見、本年度經濟實行協定も近く交渉を開始されやうとしてゐる。佛印は正に盟邦の名に値する。

### 佛印經濟界概観

最近の佛領インド支那經濟界を概観するに左の諸點に注目される。

#### 一、金 融

最近の佛領インド支那經濟界に於いて注目されることは、アメリカ軍の北阿侵入によつて一時金融不安を醸したが、佛印當局の態度開明で解消した。

#### 二、輸 出

昨年年初より十一月二十日にいたるサイゴン米（糯白米、碎米、糠を含む）の輸出高は九十六萬六千五百七十三噸、玉蜀黍十一萬八千六百六十七噸で、仕向國別は明示されてゐないが、米は協定全量の對日輸出があつたことは確實である。

#### 三、輸 入

日本商品は最近の佛印に於いて漸次増加し、綿製品及び織物などは可なり豊富になつて來たが、特に近時顯著に増大した日本商品としては時計、玩具、煙草、化粧品等で香水なども日本製のみとなつた事は興味ある事實である。

### サイゴン見本市博覽會の開催

サイゴン見本市博覽會は愈々十二月二十日から華々しく開催されたが、これに先立ち招待下見會が十九日芳澤大使、ドクター總督以下日佛官民多數出席の下に行はれ、席上ドクター總督は主要次の如き挨拶を行つた。

今回の見本市博覽會は本質的には印度支那の爲の博覽會であつて國際的博覽會ではない。然しながら吾々は日本の参加を勧誘したが、幸にして日本はこれを受諾、こゝに壯麗なる日本館の建設をみ、博覽會に一大景観を添へるに至つた。今回の日本側の陳列は日佛印間に現存する卓絶せる政治、經濟、文化協力關係を有力に證明せ

るものであり、佛印と東亞第一の強國日本との間にこの種の交流が今後も發展して止むところを知らぬであらう。

一七四

## タイ國

### タイ國中央銀行の業務開始

泰國中央銀行は十二月十日の憲法記念日を期して正式に業務を開始することになった。同銀行は總裁にウィツタナチャイ殿下を置き、資本金は二千萬バーツで舊香港上海銀行の建物を使用して居るわけである。本銀行の開設に當つて總裁殿下は次の如くその抱負を語つた。

「いよいよ明日より正式に銀行業務を開始する。新紙幣發行業務はこの銀行の最大喫緊事であるから一日も早く實施する豫定である。現在の資本金は二千萬バーツであるが、業務の擴張に従ひ増資したい意向である。」云々

### タイ國中央銀行に通貨局を移管

タイ國政府は曩にタイ國中央銀行を開設、戰時財政の強化と財政金融總機構の近代化に更に一步を進めたが、

從來大藏省に屬してゐた通貨局を新中央銀行に移管し、銀行券發行事務を行はせる旨十二月十九日發表した。

## ビルマ

### ビルマ中央行政機關の全貌

過去半世紀にわたるイギリスの壓制から解放され、日本の庇護のもとに新ビルマを建設すべき重大使命を擔つて八月一日誕生したビルマ中央行政機關は爾來行政長官パーモ博士以下非常な熱意と希望とをもつて建設事業に邁進してゐる。

ビルマは行政長官パーモ博士の優れた指導のもとに健全行政を再建するため困難な事業を數箇月間實施して來たが、これは史上曾てなかつたことである。

イギリスはビルマに亂暴極まる破壊を残して行つた。彼等はもはや保持することの不可能なものをすべて破壊した。彼等は過去半世紀にわたる強奪の返報として灰燼を残して去つた。

ビルマはイギリスの奴隸として過去五十年の間になし得なかつた事を、日本の力を借りてはじめて達成したのである。即ち今や

一 ビルマ語と日本語がビルマの公式用語として使用されてゐる。

一七五

- 二 有害な下院制度はその民主主義的陰謀及び職場漁りの弊風とともに掃かれた。
  - 三 節約と能率増進方策が有効に實行されてゐる。
  - 四 ビルマには今やその自由と大東亞のために戦ふべき軍隊がある。
  - 五 行政機關の各部局は悉く長足の發展を示しつゝあり、イギリス時代遅れの繁文縟禮は日本式の能率主義に置替へられた。
  - 六 ビルマの各政治團體は悉く大東亞共榮圈の理念に順應してゐる。
  - 七 ビルマの復興運動は異常な眞剣さをもつて發足した。
- 財政的安定性を確立することは財務局の重要な目的であり、行政機關はこれを達成する意圖をもつて、課税、徴税並に歳出の統制と運用のため次の如き機構を設置した。
- 一 一般歳入部
  - 二 所得稅部
  - 三 經理及び會計検査部
  - 四 銀行及び保險部
- この他關稅部も適當な時期に設置する豫定である。

本會計年度の殘存期間に對する收支概算(約千萬ルビー)はビルマに於ける現下の諸條件にかんがみ極めて内輪に編成されてゐる。右概算は約百萬ルビーの缺損を示してゐるが、その支出に手心を加へ、收支概算には内輪の見積りを適用してあるので、本年末に於ける收支の差額は皆無からざれば小額に止まるものと充分期待される。

去る九月十五日附をもつて公布され、一箇月間の猶餘期間を置いて十月十五日より效力を發生した「ビルマ貨幣調整令」は、ビルマに於ける流通法貨と日本軍票との價值を調整するための法令であり、ビルマ中央行政機關は現狀に即應して一九四一年十二月八日現在流通の貨幣及び日本軍票をビルマに於ける法貨ならしむる必要あるにつき、大日本軍司令官の認可を得てパーモ行政長官の名をもつて右法令を發布したもので、従來の貨幣單位たるアンナ及びバイを廢し、日本と同一の十進法によるセントを採用し、百セントをもつて一ルビーとした。

一九四一—四二年度の地租徵集は目下進行中であるが、地主及び耕作者を救済するため、中央行政機關は稅率の引下げを認めることに決定した。この財源よりの収入は少くとも一千万ルビーに達する見込である。このほか棕櫚酒、カントリー、スピリット(地酒)その他の酒類販賣免許制度が實施されてゐる。

行政機關の富饒發費は九月より十一月初旬まで行はれたが、右期間中の収入は約二十數萬ルビーに達した。ビルマに於ける公務奉職の給與は最少限度の經費で、最大限度の能率を擧げる主義に基づいて組成され、官吏



の俸給の基準は如何なる地位と雖も一箇月一千ルビを越えず、最低は一箇月二百五十ルビ五十分の生活費を保障することになつてゐる。この結果、公務奉仕、官吏俸給等の経費はイギリス支配當時のビルマ政府が陥つてゐたとき冗費の片鱗だに認められることはない。

所得税部の編成は完了し、所得税の徴集を開始するための各種の措置が繼續されてゐる。行政機關は目下新規の印紙及び切手を印刷中で、近く發賣する豫定である。

### ビルマの財政政策

ビルマ中央行政機關財務長官ティン・モン氏はビルマの建設途上に於ける財政政策を發表したが、その要旨は左の如くであつた。

中央行政機關は八月一日百萬ルビの借款をもつて發足した。同機關の設立委員會では歳入約三千三百五十萬ルビ、歳出約三千六百七十萬ルビと見積つたが現在では三箇月間の実績に徴して歳入、歳出共に二千五百五十萬ルビと見積つてゐる。さき世公布された貨幣調整令によつて昨年十二月八日現在ビルマ人の手にあつた貨幣は法貨となり、これによつてビルマ人の資産は完全に残るであらう。當局はラングーンに於いて中央銀行の義務を果すと同時に地方民衆に貯蓄心を起させるやう全都市に支店網を有する銀行が速からず設立されることを

期待してゐる。新舊兩紙幣の交換も近く準備完了の見込である。

### ビルマの教育、保健、市政躍進

#### 一 教育

ビルマは今や古い時代を捨て、新時代の基礎を固めるには先づビルマ人を奴隸的生活より解放せしめなかつた過去の制度を廢棄しなければならぬ。そしてビルマを他の諸國と對等の水準に向上させ得る近代的教育制度を採用することが極めて必要である。

第二に重要なことはこの新しい教育を總てのビルマ人に對しビルマ語を以て話すことである。以上の方針實現を促進するため、中央行政機關はさきにビルマ各地より男女教師一千名を集めて、新教育制度に關する指示を與へた。

#### 二 保健

ビルマが他の先進國と肩を並べて行くためには、教育と共に肉體的にも強健とならねばならぬ。當局ではこの見地から教育局に保健部を設け、兒童から老人に至るまで全ビルマ人の體位向上の方策を講じてゐる。他方既存並びに目下建設計畫中の病院に對しては既に醫師と看護婦が配屬されてをり、英軍のため燒拂はれた病院跡には

民衆と醫師の協力により新しい病院が建てられることとなつてゐる。

### 三 市 政

戦後に於ける新しい市政は九月下旬、最初にラングーン市に施され、新任市長を始め関係者は當面の必要に基づき市民の保健と給水に努力してゐる。又この冬期中に苦力二千人、平車二百五十輛を動員して市内の清掃を實施する豫定である。

### ビルマ庶民銀行の設立

我が軍政監部ではさきに農民及び一般民衆の金融機關たるインド人金貸業者の取締令を公布してその指導育成に努めて來たが、今回ビルマ庶民銀行の設立を見るに至つた。

この銀行の前身は曩に軍政當局で接收したインド銀行バンク・オブ・チエチナードで、同銀行は公稱資本三千万ルーピー、拂込資本金千萬ルーピーであつて資産内容も堅實であり、ビルマの經濟復興に對する印度人資本の参加を適當なりとして、資本金千萬ルーピーを以て改めて新銀行の設立となつたので、従來は融資専門であつたのを融資と一般預金吸收との兩面に力を注がしめることとし、經營者にはインド人四名を代表重役として選び、軍政監部と正金が之を監督することになつた。

### ラングーンに於ける新時代記念塔の建立

ビルマ中央行政機關では今回ラングーン市内ローヤル湖畔のガルハウジ公園に建ててゐた英皇帝エドワード七世の巨像の跡にビルマの新時代ドバマ・キチットを象徴する記念塔を建立して永く後世に残すことに決定、十二月八日の大東亞戦争一周年記念日に中央行政機關とドバマシエンサ聯盟會員、その他一般ビルマ人多數が參集して盛大な建立式を舉行した。記念塔が建立されたガルハウジ公園は曾てインドから英軍を率ゐてビルマに侵入した元インド總督ガルハウジの名を付けたものであるが、ラングーン市當局ではこの名を抹殺し、アランバヤ王の即位以前の名であるウ・オン・ゼ・ヤを採つてウ・オン・ゼ・ヤ公園と呼ぶことになつた。

### 馬 來

#### 馬來に南方特産のデリス根を増産す

農産物の驅蝕劑として南方に特産するデリス根の栽培は米穀、棉花等の農産物増産計畫の進展につれ、當地でも重要視されてゐるが、最近内外からの需要増大に伴つて、これが急速なる増産を要請されるに至つたので、軍政監部特殊農産課では總額〇〇萬ドルの豫算を申請、マライの主産地ジョホール州を中心にデリス根の増産に乘

一八二  
出すことになつた。即ち右計畫によると現在の植付面積のほかに十八年度には八千エーカーを新に栽培地として開墾、その生産額も一九四〇年の統計による年産額〇〇トンを超えて昭和二十二年頃には〇千トン以上に増産する豫定になつてゐる。

### 馬來正金支店網完成計畫

一州一行主義をもつて逐次マライ、スマトラの奥地に支店網の擴充を進めて來た正金銀行昭南支店は十二月五日スマトラのバンカリトン州のバンカルビナンに出張所を設置業務を開始したが、更に近くクパスリ州のシボルガ及びベンクレーン州のベンクレーンにも出張所を開設することになつてゐる。この二出張所が開設されるとスマトラに於ける一州一行主義計畫は全部完成するわけで、資源の開発、奥地餘剩通貨の吸收など今後の金融工作の活潑化が期待される。

### 昭南島對南方郵便取扱擴大

過般開始されたマライ、スマトラから南方各占領地に向郵便取扱は殆ど平常化して來てゐるが、昭南郵便總局では更に南ボルネオ、セレベス、ニューギニア、小スンダ列島及びモルッカ諸島との郵便交換業務が左記要領に

よつて開始される旨を發表した。

- 一 用 語——日本語及びマライ語に限る。
- 二 取扱種類——通常の書狀、葉書、印刷物、業務用書類及び定期刊行物。
- 三 料 金——マライ、スマトラ島内郵便料金に準ず。

### 昭南軍政監部八外局の現狀

マライ軍政下に於ける交通、通信網の再開は金融機關と同様、占領後日ならずして應急的措施を完了し、その後本格的な機構の整備強化に努めた結果、外局として既に七つの機構の整備が完了するに至り、マライ方面に於ける交通、通信、行政はこれら諸機構の擴充整備に伴ひ飛躍的發展が期待されるに至つた。

八局の機構並に現況左の如くである。

#### 一 通信總局

昭南に本部を置き、この總局の下に七つの通信管理局がマライ及びスマトラの主要都市に配置され、更にこの管理局の下には電信局及び電話局が置かれてゐる。電信及び電話の通信機關は軍通信部隊の努力により占領後最も迅速な復舊工作が行はれたものである。

## 二 郵政總局

通信總局と同時に開設され、同じく昭南に本部を置き、總局の下に八つの郵政管理局が置かれ、これら管理局は昭南、マラッカ、クアラルンプール、ペナン、コタバル及び北、中、南部スマトラに置かれてゐる。また、マライ、スマトラの各所に地方郵便局が再開され、主要業務として現在郵便及び小包郵便、郵便爲替貯金を取扱ひ、將來は簡易生命保険及び郵便年金も取扱ふ筈である。

## 三 海軍局

昭南、ペナン、メダンの三重要港市に十月一日同時に開設の運びとなり、昭南にはマラッカ支局、ペナンにはポートスエツテンナム及びトレングスの支局があり、メダン海軍局にはスマトラ港市五箇所の支局が置かれてゐる。海軍局の業務はマライ、スマトラ全域の水運、船舶、倉庫、荷役その他海軍に關する一切事務を掌ることになつてゐるが、現在海軍局が力を注いでゐるのは木造船の建造及び民船の登録で、木造船の建造はすでに邦人擔當者が來島し事業に着手し、本年度には標準船舶百五十噸の小型木造船〇〇隻の完成をみる筈である。

## 四 公共施設局

英國政廳時代のパブリック・ワークス・デパートの一部を復活、これが組織の擴充を行ひ、十月十二日昭南に總局を設置、同時にマライ及びスマトラ主要都市六箇所に同局の出張所が置かれた。同局はすでに昭南港の倉庫

の新設、復舊に努めるほか、マライ、スマトラの道路及び橋梁の復舊に携はり、さらに戦火に破壊された都市建築物の修繕などに多大の努力を拂つてゐる。

## 五 放送管理局

十一月二十四日昭南に開設、現在昭南中央放送局の外クアラ・ルンブル、ペナン、メダン、バレンバン各放送局を管掌し、これら放送局を通じて占領地の宣傳工作に日夜健闘してゐるが、初代管理局長は元日本放送協會の賈田通元氏である。

## 六 鐵道總局

十一月二十五日クアラ・ルンブルに設置された同總局はマライ、スマトラ全體の鐵道及びその附帯事業全部を管掌するのであるが、これ以外に現在總局自身でマライ鐵道を運営してゐる。スマトラには總局のもとに三つの鐵道局がメダン、バダン、バレンバンに置かれ、北部、中部、南部の各鐵道の運営に當つてゐる。資源開發に最も關係の深い陸上交通機關の復舊も電信、電話と同様軍鐵道部隊の努力に負ふ所が多く、特にマライ西部線は占領の直後早くも全通を見るに至つた。かくして現在の鐵道利用乗客数は戦前の數字を突破する勢を示してゐるが、八月分調査によると一般乗車人員数はマライ二十九萬六千人、戦前同期の九十八%に當り、スマトラでは百三十九萬餘、戦前同期の百三十三%即ち三割三分の増加となつてゐる。



十一月十日一應開設されたが、まだ要員の到着を見ないので本格的事業を開始する運びに至つてゐない。同局はマライ、スマトラ全地域の陸地及び水路の測量一切を掌るのである。

目下立案中であるが、最近大阪の氣象臺長であつた堀口氏が司政長官となつて赴任をみたので近く昭南に開設される筈、同局の開設により航空及び船舶の利便安全は一層増大されるものと期待されてゐる。

### 昭南港爆沈敵船の引揚

昭南港朝日ドック（舊名エンバイヤ・ドック）入口を扼してシンガポール陥落の前日、日本航空部隊によつて撃沈された英商貨物船クルシピアス號（二萬二千五百トン）引揚げに對しては其の後廢命の作業を續けた結果、左舷中部甲板の機銃彈痕上中甲板の爆彈穴の防水作業も豫定通り完了し、十二月二日見事に浮揚した。

## 東印度

### ペラワン港の復舊工事竣工

メダンの外港で北部全スマトラの大玄関ともいふべきペラワン港一帯の復舊工事は、去る四月着手以來、現地労働者の積極的協力を得て鋭意これが作業を續行中であつたが、このほど大倉庫〇棟並に椰子油タンク〇〇と八角方竣工をみるに至つたので、十一月二十八日午前十一時より關係軍、官、民參集竣工式を舉行了た。

### ジャワ軍政の成果

#### 一 完壁に近い治安状態

ジャワ島の治安は現在全く完壁に近く島内極めて平穩にして、住民は汝々として日々之の業に勵んでゐる。このよつて來るところのものはジャワ機定作戦が極めて短時日に完了したこと及び軍が精強であるためであり、原住民の軍に對する信頼と服従は絶對的である。

今後は戦争のため物資の不足は想像されるが、食糧の自給は完全に確保せられ、又原住民の戦争認識は次第に昂揚しつゝあり、彼等は日本と共にこの困難を克服し、民族協力の實をあげ戦争完遂、ジャワ建設に協力し得ると思ふ。

#### 二 本格的に發足する行政機關

行政に就いては軍政施行の當初數百名の人員を以て行政に當り、その後逐次軍政要員も増加し、行政機關は中

央地方を通じてその機構全く整備し、今や本格的に發見せんとするの情勢にある。即ち中央に於いては總務、警務、司法、財務、産業、交通、内務、宣傳の八部と通信、運輸の二總局の陣容全くなり、地方行政機關としては一特別市、十七州及び二サルタン州に各特別市長、州長官が任命せられ、地方行政の滲透は期して俟つべきものがある。

サルタン制度即ち侯地制度はジャワ行政の一つの特異性であるが、従来ジャワにはソロ、ジョクジャの二州に四つのサルタンが存在したが、軍ではこれを存置することに定め、四侯に自治行政の權を委ね、日本側からはこれと連絡のため一つの侯地事務局長官を任命した。警察に就いては軍は島内の治安の維持上最も努力し來つたもので、原住民警官はこれを全部掌握し、これに日本人警官が適宜配置されて警察の威力を充分に發揮してゐるが、これ迄不逞分子の摘發のため、盡力した原住民警官の内にも小數ではあるが殉職者を出してゐる。現在スカフミに警察學校があり、原住民警官を養成しつゝあるのであるが、ジャワ警察要員の教育鍊成所として重要な役割を演じてゐる。

### 三 驚くべき日本語の普及

教育に就いては軍は最も考慮を拂ひ、占領後僅かに二箇月の昨年四月下旬には早くも國民學校の再開を見るに至り、原住民兒童の就學率は舊蘭印時代を凌駕してゐる有様である。また、中等學校、師範學校等は九月初め再

開され、現在は舊蘭印時代の約半數が開校されて居り、尙逐次整備再開する方針である。日本語、日本唱歌、日本體操等の普及は實に驚くべきものがあり、如何なる僻村に於いても愛國行進曲を聞き、日本式ラジオ體操を見るのである。

### 四 圓滑なる軍票の流通

財政に關しては帝國戰時財政の一翼をなすものとして、軍はもとより健全財政政策を堅持してをり、軍政第一年度に於いても收支の均衡をとり得る見込みである。即ち、一面何時でも購買力を吸収し得る施策をなすと共に、反面に於いては積極的に生産増加を圖り、建設を容易ならしめるやう工夫してゐるのであつて、財政上特に措置してゐることは産業復興と失業救済には多額の費用をあまり放出してゐることである。

### 五 低物價政策堅持

占領地建設を容易ならしめるためには低物價の堅持は必要であるが、軍はこの點に異常な努力を拂ひ、インフレ抑制に留意してゐるため物價は極めて安定し、一部輸入品を除いては現在物價騰貴の傾向は見えず、南方に於ける最も低い物價水準を保持してゐる。

### 六 庶民金融機關

庶民金融機關としては庶民銀行、官營質屋、村落銀行等が何れも開設されて居り、下部金融機關も極めて円滑

に運営され、民生に多大の寄與を爲してゐる。

#### 七 主要食糧の自給

産業に就いてこれを要約すれば、大東亞戦争に不可欠な物資及びジャワの自活のために必要な物資の生産に全力を傾注し、萬難を排してこれを遂行せんとするものである。

#### ジャワの森林資源確保と造林計畫

ジャワの森林資源は頗る豊富で森林面積は全土の二割三分を占め、有名なチーク、アカシヤ、マホガニーなど有用材が極めて多い。従来舊政府の所有となつてゐたものをわが軍政當局でもこれを繼承して當初からこれら森林の管理維持に力をつくしてをり、殊にチーク林の保護育成に力を入れてゐる。

現在チーク林の總面積は數十萬ヘクタールに及び、バテイ州中部、スマラン州、マラン州東部、マデウン州などに多いが、植林後八十年を経た後はじめて使用し得るので、この伐採と植林には綿密な計畫を要するわけである。

またタンニン原料として必要なアカシヤ（樹皮をワッドルと稱す）の増産も既定の計畫によつて行はれてゐるが、殊に西部ジャワに於ける増植は順調に進んでゐる。

この他ジャワには材質の軽い鋸で航空機、救命具、絶縁體用に不可欠なバルサ材がある。當局ではこのバルサ材についても最近増産計畫を樹て、従来のバルサ材については技術的改善をはかるとともに造林にも乗出してゐる。しかしこのバルサ材増植には生産過剰で、その處分に困つてゐる茶園を轉換してこれに當てる方針であるからこのところ一石二鳥策ともいふべきである。

#### ボルネオに於けるジュート代用樹皮の發見

大東亞戦争以來、インドの特産品たるジュートは、本邦のみならず大東亞共榮圏全域に輸入が途絶せられることになつたので、之に代るべき包装材料をとかねて北ボルネオ軍政部ではボルネオ島内の或種の雜木につき研究してゐたのであつたが、この程にいたり雜木の樹皮からジュートに代用し得る包装材料を得、これが試験的製造に成功するに至つた。それでこれを本年から島内に於いて大々的に製造することになつた。この雜木は島内いたるところに無盡蔵に繁茂して居り、又、包装材料への製造工程も極めて簡單で、家内工業として充分に採算がとれ、島民工業の發展策にも寄與し得るわけなのである。

#### ジャワの麻袋自給計畫

ジャワに於いては農産物包装用として年約三千五百萬枚の麻袋をインドより輸入してゐたが、今回軍政監部産

業部では、これが自給を目指し、島内産のローゼリ繊維の増産及びその代用品といふべきカンダ麻繊維とを用ひ、遊休平織機を利用して麻袋を生産することとした。

舊蘭印政府も約十年前からローゼリ麻の生産をはじめ、マラン州ソロ、ジョクジャカルタ兩高地を中心に面積六千町歩、原料纖維一萬二千噸を收穫し、マラン州のパンクレジョ及びソロ西南のデラングにある二箇所の工場で大衆生産してゐたが、産業部では増産五箇年計畫を樹て現在着々植付を進めてゐる。

### バタビヤ州及び縣の改稱

バタビヤ特別市は今回ジャカルタ特別市と改稱されたが、これにともなつてバタビヤ州も、バタビヤ縣もそれぞれジャカルタ州及びジャカルタ縣と改稱されることになり、軍政監部よりこの旨正式に發表された。

### 比律賓

#### 日用品の適正配給價格大半決定

比島内の物價統制機構は着々整備をみつゝあるのであるが、主要日用品についての適正配給價格も棉製品、人絹製品、紙類を除いて大半は決定した。

主要日用品の適正配給價格は次の通りである。

主要日用品適正配給價格

(比——同——百セントポ)

品名	配給元	配給區域	單位	配給價格(セントポ)
白米	軍管理米穀會社	マニラ市	一ガントン(約二二キロ)	三四
液體燃料	液體燃料配給組合	!	一リットル	二二
砂糖	!	!	一キロ	一一
精糖	!	!	一キロ	一五
鹽	生産必需品組合	消費地渡	一カバン(四五斤入)	一四〇
磷	!	!	一包(十二個人)	一一
ラ	!	!	一罐(十五封度入)	八三四
化粧石鹼	!	!	一個	二〇
洗濯石鹼	!	!	一本	三四

### 比島に於ける肥料の自給策

比島に於ける農業生産各部門は皇國の卓越した農業技術者の指導のもとに漸次近代的な農法に移行しつゝある



のであるが、水稻の歩留り、収量の引上げ、棉花、苧麻のごとき纖維作物増産を實施する爲に肥料の要求増大が必至となり、軍政監部産業部に於いては保安のごとき化學肥料が現地では生産不可能な上に他よりの輸入も困難な實情にあるのに鑑み、對策として次の三つを利用して化學肥料の不足を補ふことに方針を決定した。

- 一 コブラミールの利用
- 二 綠肥の新規栽培
- 三 フイシユミール（魚肥）の増産

### 比島棉花栽培の好調子

比島に於ける棉花の栽培計畫は一町歩當り収量三ピクルを標準収量としてゐるが、今日までに作付が済んだルソン島では直營地の棉樹の成長とボールのつけ方は極めて好調子で、一般に大體三十個以上のボールがついてをり、一坪當りでは百八十のボールが得られ、今度熟寄さへなければ優良耕地で一町歩五ピクル―六ピクルの棉花が收穫されることになつてゐる。

比島に於ける棉花はこの調子よりみても明かに立地條件の優秀性が確證されたわけである。

### ルソン島の棉花植付一萬四千町歩に達す

ルソン島に於ける棉花は大體成功を収め今日迄に約一萬四千町歩の作付完了を見てをり、間引も大體済んで中耕も各地共に順調に進んでゐるが、最近棉花各社の代表が棉花栽培協會へ報告した數字によると十一月末現在のルソン島内植付完了面積は合計一萬三千八百二町歩である。

尙期間別植付完了面積の足どりは左の通りである。

十月二十日現在	三、四〇七
十月末日現在	八、六四〇
十一月十日現在	一一、三八八
十一月二十日現在	調査中
十一月末日現在	一三、八一二

統計

南支各地域別在留邦人人口概計表 (九月一日現在)

月計	九				別方別	種別	戸数	内地人		朝鮮人		華人		合計	
	厦門	鼓浪嶼	金門	濟南				男	女	男	女	男	女	男	女
計	六	一	一	一	厦門	九	八	一	一	一	一	一	一	一	
廈門	六	一	一	一	鼓浪嶼	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
金門	一	一	一	一	濟南	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
濟南	一	一	一	一	合計	九	八	一	一	一	一	一	一	一	
厦門	六	一	一	一	内地人	八	七	一	一	一	一	一	一	一	
鼓浪嶼	一	一	一	一	朝鮮人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
金門	一	一	一	一	華人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
濟南	一	一	一	一	合計	九	八	一	一	一	一	一	一	一	

汕頭

月計	九				別方別	種別	戸数	内地人		朝鮮人		華人		合計	
	汕頭市	澄海	其他	潮陽				男	女	男	女	男	女	男	女
計	二	一	一	一	汕頭市	二	一	一	一	一	一	一	一	一	
汕頭市	二	一	一	一	澄海	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
澄海	一	一	一	一	其他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
潮陽	一	一	一	一	合計	二	一	一	一	一	一	一	一	一	
汕頭市	二	一	一	一	内地人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
澄海	一	一	一	一	朝鮮人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
其他	一	一	一	一	華人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
潮陽	一	一	一	一	合計	二	一	一	一	一	一	一	一	一	







別方	地別	戶數		人口	
		大	小	大	小
內	地	男	...	...	...
		女	...	...	...
朝鮮	人	男	...	...	...
		女	...	...	...
密	人	男	...	...	...
		女	...	...	...
合	計	男	...	...	...
		女	...	...	...

縣	市	鎮	鄉	村	戶數	人口
文島	市	...	...	...	...	...
					...	...
陵水	縣	...	...	...	...	...
					...	...
馬嶺	鄉	...	...	...	...	...
					...	...
九嶺	鄉	...	...	...	...	...
					...	...
黃嶺	鄉	...	...	...	...	...
					...	...











